

生命科学先端研究支援ユニットの活動報告

1 組織運営体制

1.1 理念・目標

◎理念

研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニットは、研究推進機構の目的を達成するため、本学における生命科学を中心とした最先端科学や我が国社会の高度化に資する研究の支援、並びに次世代の生命科学の発展を担う人材育成の支援を通じて、豊かな社会の創成に貢献する。

◎目標

研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニットは、本学の強みや特色のある研究を推進・支援するため、動物実験、分子・構造解析、遺伝子実験及びアイソトープ実験に必要な適切で優れた研究環境と技術を提供し、動物資源開発、分子・構造解析、ゲノム機能解析及び放射線生物解析に関する教育・技術指導、研究開発など、生命科学分野の教育研究支援を総合的に行い、地域や産業との連携を通じて、先端的な生命科学の研究及び教育の発展に寄与することを目指す。

1. 共同利用

- 共同利用施設の維持・管理
- 各種設備・機器の保守管理
- 高精度の研究環境と技術の提供

2. 研究支援

- 遺伝子改変動物の作製、系統動物の維持・保存
- 分子・構造解析・分析の支援、機器分析技術の教育・指導
- 遺伝子の構造・発現解析技術の教育・指導
- アイソトープ利用技術、放射線防護に関する教育・指導

3. 安全管理

- 動物実験安全対策の教育・指導、動物実験計画の指導・審査
- 核燃料物質計量管理、液体窒素保安全管理
- 遺伝子組換え実験の教育・指導
- 放射線安全管理、放射線取扱者の教育訓練

4. 研究開発

- 生殖工学と行動生理学によるモデル動物を用いた遺伝子機能・疾患病態の解明
- 遺伝子・タンパク質の構造・機能解析
- 細胞のストレス応答機構の解析
- 核医学・分子イメージングを活用した遺伝子機能・疾患病態の解明

5. 社会貢献

- 探究的学習活動事業
- 受託試験・測定
- 地域産業の振興支援

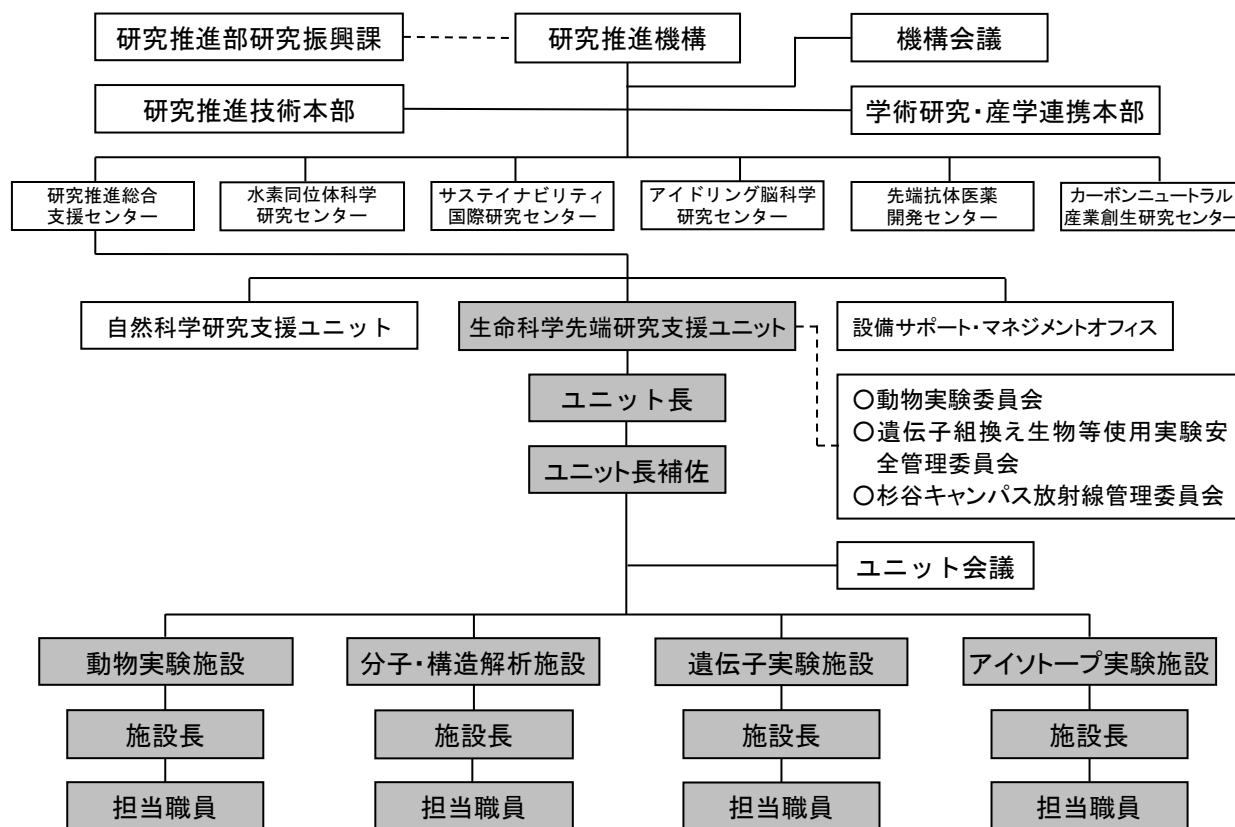
1.2 概要

旧富山医科薬科大学時代の2002年4月、最先端の医学・薬学及び地域の総合的な生命科学研究の充実を図り、COEプログラムなど大型プロジェクトを推進・支援する中核的拠点の形成に対応するため、既存の動物実験センター、遺伝子実験施設及び放射性同位元素実験施設を改組・統合して「生命科学実験センター」が設置された。その後、機能の一体的な融合による研究・教育支援体制の構築を目的として、2005年4月に生命科学実験センター及び実験実習機器センターを改組・統合し、「生命科学先端研究センター」が設置された。さらに2015年4月、「研究推進機構」の設置に伴い、生命科学先端研究センターは同機構の研究推進総合支援センター内に「生命科学先端研究支援ユニット」として改組された。

生命科学先端研究支援ユニットは、研究推進機構の目的を達成するため、動物実験、分子・構造解析、遺伝子実験及びアイソトープ実験に係る施設を適切に管理するとともに、動物資源開発、分子・構造解析、ゲノム機能解析及び放射線生物解析に関する技術の利活用を推進し、地域や産業界との連携を通じて、先端的な生命科学研究及び教育の発展に寄与する業務を行っている。

1.3 組織

ユニットの組織は、生命科学分野の教育研究機能の高度化を図るため、次の4つの教育研究支援施設で構成している。



1.4 運営

(1) 研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット会議

◎任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

区 分	職 名	氏 名	備 考
1号委員	教 授	田 淵 圭章	生命科学先端研究支援ユニット長
2号委員	教 授	高 雄 啓三	生命科学先端研究支援ユニット長補佐
3号委員	教 授	(高 雄 啓三)	動物実験施設長, アイソトープ実験施設長
	教 授	(田 淵 圭章)	遺伝子実験施設長, 分子・構造解析施設長
4号委員	教 授	(高 雄 啓三)	
	教 授	(田 淵 圭章)	
	講 師	平 野 哲史	
	講 師	安 村 美里	
	助 教	藤 井 一希	
5号委員	教 授	高 田 尚良	医学部
	教 授	森 永 芳智	医学部
	教 授	友 廣 岳則	薬学部
	教 授	宗 孝 紀	薬学部
6号委員	教 授	中 川 嘉	和漢医薬学総合研究所
7号委員	特命教授	渡 邊 憲治	附属病院

(2) 動物実験委員会

◎任期：令和5年10月1日～令和7年9月30日

区 分	職 名	氏 名	備 考
1号委員	教 授	横 畑 泰志	理学部
	准教授	高 崎 一朗	工学部
2号委員	教 授	西 丸 広史	医学部
	教 授	久 米 利明	薬学部
3号委員	教 授	早 川 芳弘	和漢医薬学総合研究所, 委員長 任期：令和7年4月1日～令和7年9月30日
4号委員	教 授	齋 藤 淳一	附属病院

5号委員	教 授	高橋 満彦	教育学部
6号委員	教 授	高雄 啓三	生命科学先端研究支援ユニット動物実験施設長
7号委員	助 教	藤井 一希	生命科学先端研究支援ユニット教員
8号委員	教 授	西谷 美幸	動物実験を行わない教員 医学部
9号委員		天野 宏志	動物に関し専門的な知識を有する学外者 公益社団法人富山県獣医師会

◎任期：令和7年10月1日～令和9年9月30日

区 分	職 名	氏 名	備 考
1号委員	講 師	森岡 絵里	理学部
	准教授	高崎 一朗	工学部
2号委員	教 授	西丸 広史	医学部, 委員長
	教 授	久米 利明	薬学部
3号委員	教 授	小泉 桂一	和漢医薬学総合研究所
4号委員	教 授	齋藤 淳一	附属病院
5号委員	教 授	高橋 満彦	教育学部
6号委員	教 授	高雄 啓三	生命科学先端研究支援ユニット動物実験施設長
7号委員	助 教	藤井 一希	生命科学先端研究支援ユニット教員
8号委員	教 授	米本 直裕	動物実験を行わない教員 附属病院
9号委員	所 長	池上 良	動物に関し専門的な知識を有する学外者 富山県西部家畜保健衛生所

(3) 遺伝子組換え生物等使用実験安全管理委員会

◎任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

区 分	職 名	氏 名	備 考
1号委員	講 師	山本 將之	遺伝子組換え研究を行う教員 理学部
	准教授	中路 正	遺伝子組換え研究を行う教員 工学部
	准教授	甲斐田大輔	遺伝子組換え研究を行う教員 医学部
	講 師	藤井 拓人	遺伝子組換え研究を行う教員 薬学部

	教 授	中川 嘉	遺伝子組換え研究を行う教員 和漢医薬学総合研究所，委員長
2号委員	教 授	上田 肇一	自然科学系の遺伝子組換え研究を行わない教員 理学部
	講 師	大石 雄基	自然科学系の遺伝子組換え研究を行わない教員 薬学部
3号委員	助 教	今井 雄一	自然科学系以外の遺伝子組換え研究を行わない教員 経済学部
	准教授	沖津 貴志	自然科学系以外の遺伝子組換え研究を行わない教員 薬学部
4号委員	教 授	田淵 圭章	生命科学先端研究支援ユニット遺伝子実験施設教員
5号委員	教 授	森永 芳智	予防医学関係の教員 医学部
6号委員	教 授	石木 学	産業医 保健管理センター
7号委員	室 長	生田 孝行	総務部労務管理室室長 任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日
8号委員	教 授	野村 泰治	遺伝子組換え生物等に関し専門的な知識を有する学外者 富山県立大学

(4) 杉谷キャンパス放射線管理委員会

◎任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

区 分	職 名	氏 名	備 考
1号委員	教 授	田淵 圭章	生命科学先端研究支援ユニット長
2号委員	教 授	高雄 啓三	生命科学先端研究支援ユニット長補佐
3号委員	教 授	野口 京	医学部
	教 授	齋藤 淳一	医学部
	教 授	櫻井 宏明	薬学部，委員長
	准教授	帯田 孝之	薬学部
4号委員	准教授	Suresh Aware	和漢医薬学総合研究所
5号委員	助 教	藤井 一希	生命科学先端研究支援ユニットの放射線取扱主任者 任期：令和7年4月1日～令和7年10月31日
	講 師	安村 美里	生命科学先端研究支援ユニットの放射線取扱主任者 任期：令和7年11月1日～令和9年3月31日

2 活動状況

2.1 研究支援

2.1.1 ユニット登録者数

◎令和7年度

部 局	生命科学先端研究支援ユニット				
		動物実験施設	分子・構造 解析施設	遺伝子 実験施設	アイソトープ 実験施設
医 学 部	285 人	167 人	208 人	181 人	17 人
薬 学 部	393	151	386	303	109
理 学 部	2	1	0	1	0
工 学 部	27	13	17	5	0
教 養 教 育 院	8	2	7	1	1
和漢医薬学総合 研究所	116	28	114	63	2
附 属 病 院	48	27	38	35	2
研 究 推 進 機 構	39	21	22	20	7
国 際 機 構	1	1	0	0	0
未病研究センター	9	7	8	8	1
計	928	418	800	617	139

2.1.2 動物実験施設

(1) 利用申込件数

◎令和7年度

○実験動物

動 物 種	件 数	動 物 種	件 数
マウス	469	モルモット	9
ラット	98	サル	1
ハムスター	2	計	579

○特殊実験室等

実験室等	件 数	実験室等	件 数
236 感染実験室(1)	1	346 免疫不全動物室	1
237 感染実験室(2)	1	検疫室(マウス/ラット)	13
		計	16

○設置機器

機 器 名	件 数	機 器 名	件 数
小動物in vivo光イメージング装置	12	中動物用MRI装置	12
小動物用MRI装置	19	X線照射装置	7
		計	50

(2) 実験動物搬入数

◎令和7年度

動物種 月	マウス	ラット	ハムスター	モルモット	サル	計
4月	827	38	24	8	0	897
5月	392	13	4	0	0	409
6月	529	23	0	2	0	554
7月	444	41	0	4	0	489
8月	464	38	0	0	2	504
9月	477	59	0	2	0	538
10月	285	16	0	0	0	301
11月	406	73	0	2	0	481
12月	354	13	0	0	0	367
1月	598	37	0	0	0	635
2月	352	53	0	4	0	409
3月	379	48	0	0	0	427
計	5,507	452	28	22	2	6,011

(3) 実験動物延べ飼育数

◎令和 7 年度

動物種 月	マウス	ラット	ハムスター	モルモット	ウサギ	サル	計
4 月	307,879	308	876	152	57	150	309,422
5 月	336,711	281	515	228	31	155	337,921
6 月	324,467	211	9	192	31	132	325,042
7 月	327,311	471	0	241	31	124	328,178
8 月	348,892	675	0	112	31	174	349,884
9 月	353,807	891	0	64	30	180	354,972
10月	361,982	668	0	43	31	184	362,908
11月	331,821	905	0	47	30	180	332,983
12月	332,625	826	0	18	31	187	333,687
1 月	337,158	795	0	0	31	179	338,163
2 月	296,431	891	0	16	28	140	297,506
3 月	333,755	1,118	0	124	31	155	335,183
計	3,992,839	8,040	1,400	1,237	393	1,940	4,005,849

(4) 胚操作実施数

◎令和 7 年度

項 目	実 施 数	項 目	実 施 数
移植	40	凍結	21
体外受精	34	計	95

2.1.3 分子・構造解析施設

(1) 機器利用状況

◎令和7年度

区分	機 器 等 名	型 式	利用件数等
生 化 学 系	超遠心機	ベックマン Optima XL80	11 件
		ベックマン Optima L70	59 件
		ベックマン Optima MAX-TL	39 件
	高速冷却遠心機	ベックマン Avanti HP-26XP	138 件
	蛍光分光光度計	日本分光 FP-8550	236 件
	プレートリーダー	テカン GENios	20 件
		モレキュラーデバイス FilterMax F5	703 件
	遺伝子情報解析ワークステーション	ゼネティックス GENETYX	15 件※ ¹ 1,452 回
	等温滴定型カロリメーター	GEヘルスケア MicroCal iTC200	200 件
	多検体細胞破碎機	安井器機 MB3200(S)	1,572 件
	飛行時間型質量分析装置	日本電子 JMS-S3000 SpiralTOF-plus 3.0	267 件
形 態 系	高分解能透過電子顕微鏡	日本電子 JEM-1400TC	26 件
	超ミクロトーム	ライヘルト ウルトラカット(2台)	7 件
	クライオスタット	ライカ CM 3050S IV(2台)	332 件
	超伝導FT核磁気共鳴装置	日本電子 JNM-ECA500 II	2,768 件※ ²
		日本電子 JNM-ECZL500R	2,950 件※ ²
	円二色性分散計	日本分光 J-805	107 時間
	赤外分光光度計	日本分光 FT/IR-460	93 時間
	旋光計	日本分光 P2100	6 時間
	フーリエ変換型質量分析装置	サーモフィッシャーサイエンティフィック LTQ Orbitrap XL ETD	375 件
		サーモフィッシャーサイエンティフィック Q Exactive Plus	1,155 件
細物 胞学 生系	タイムラプスイメージングシステム	カールツァイス Cell Observer	258 時間
	リアルタイム細胞解析システム	ロシュ xCELLigence RTCA DP	14 件

区分	機 器 等 名	型 式	利用件数等
(細胞生物学系)	細胞外代謝解析装置	アジレント XFe24	11 件
	自動細胞分取分析装置	BD FACSAria SORP	90 件
	自動細胞分析装置	BD FACSCanto II	88 件
		BD FACSCelesta	526 件
		BD FACSymphony A1	34 件
	FACS データ解析ソフト	BD FlowJo	98 件
共通機器	超低温フリーザー	サンヨー MDF-U73V	17 件※ ¹
	純水製造装置	ヤマト科学 EQP-3SB	23 件※ ¹ 3,755 回
	液体窒素貯蔵・取出システム	ダイヤ冷機 DTL-B-3	56 件※ ¹ 18,318 回
	蛍光顕微鏡	オリンパス BX61/DP74	79 件
		キーエンス BZ-X800	899 件
	大判プリンタ	キヤノン imagePROGRAF PRO-4100S (2 台)	801 枚

※ 1 : 利用登録講座等数
2 : 測定時間30分間で 1 件

2.1.4 遺伝子実験施設

(1) 利用研究一覧

◎令和 7 年度

部 局	講座・研究室等	申 請 者	研 究 題 目
医 学 部	解剖学	中村 友也	○ストレス情報を処理する神経回路の神経科学的研究
	システム機能形態学	伊藤 哲史	○聴覚神経回路の機能構築
	システム情動科学	西丸 広史	○光遺伝学的・化学遺伝学的手法による特定神経細胞集団の機能解析
		瀬戸川 剛	○ニホンザルを用いた神経生理学的記録・操作法による注意や報酬予測の脳内処理機構の解明
	生化学	井ノ口 馨	○マウス遺伝学的手法を用いた記憶の相互作用機構の解明
	分子神経科学	吉田 知之	○ゲノム編集技術を用いた遺伝子組換えマウス系統の作出

部 局	講座・研究室等	申 請 者	研 究 題 目
(医 学 部)	病態・病理学	山本 誠士	○マウス腎尿細管のPDGFシグナルが単側尿管結紮による組織改変において果たす役割の解明
		奥野のり子	○オリゴデンドロサイト前駆細胞の分化障害を伴うマウス脳組織の再生阻害機序について ○膠芽腫微小血管増殖における血管周囲細胞の役割についてマウス脳を用いて検証する
	免疫学	小林 栄治	○リンパ球の遺伝子の解析
	微生物学	山田 博司	○新型コロナウイルスに対する抗体価の測定
	分子医科薬理学	中川 崇	○代謝調節による組織恒常性・老化制御機構の解明
	法医学	畑 由紀子	○致死性不整脈に関するイオンチャネル遺伝子変異機能解析
	遺伝子発現制御学	甲斐田大輔	○mRNAスプライシングが細胞周期進行に与える影響の解析
	内科学(1)	藤坂 志帆	○脂肪組織の炎症とインスリン抵抗性について
		角 朝信	○ウイルスベクターを用いた培養細胞でのCD206遺伝子発現制御
	内科学(2)	今村 輝彦	○ヒト心不全モデルにおけるXO活性の検討
	内科学(3)	安藤 孝将	○消化器がんにおけるDNAメチル化異常の研究
		元尾 伊織	○口腔内細菌叢とフッ化ピリシジン系抗がん剤による口腔粘膜炎のリスク研究
		長田 功平	○SOX2遺伝子を標的とした新規がん薬物療法の開発
	皮膚科学	牧野 輝彦	○ヒトケラチノサイトの分化・増殖におけるS100タンパク質群の機能解析
	小児科学	廣野 恵一	○ゲノム編集による遺伝性心疾患の点変異導入マウス系統の作製 ○HIF-1 α ノックアウトマウス系統の作製ならびに川崎病の病態解明
	神経精神医学	高橋 努	○統合失調症の脳の形態学的変化に関する疾患感受性遺伝子の研究
	放射線診断・治療学 (放射線腫瘍学部門)	趙 慶利	○放射線、温熱及び化合物による細胞応答のメカニズム
	外科学(消化器・腫瘍・総合外科)	奥村 知之	○消化器がん、乳がんにおける腫瘍増殖抑制シグナルの研究
	整形外科・運動器病学	関 庄二	○骨肉腫の肺転移促進に関与する新規タンパク質の検索及び機能解析

部 局	講座・研究室等	申 請 者	研 究 題 目
(医 学 部)	産科婦人科学	中島 彰俊	○受精・着床・妊娠維持メカニズムの解明を目指したオミクス解析
	眼科学	大塚 光哉	○ラットを用いた水素ガス吸入による網膜虚血再灌流障害抑制効果の検討
		中村 友子	○難治性ウイルス眼感染疾患に対する包括的迅速PCR診断
		石田 聖朗	○ウサギを使用したアルギン酸、塩化カルシウムの網膜毒性検討とiPSC-RPE生着量の検討
	臨床分子病態検査医学	仁井見英樹	○骨形成因子の遺伝子調節機構の解明 ○法科学核酸マーカーの迅速・簡便な検出法の開発
薬 学 部	薬剤学	赤沼 伸乙	○網膜及び脳における輸送担体と輸送担体機能制御因子の遺伝子機能解析
	応用薬理学	歌 大介	○病態モデル動物を用いた治療法開発と病態解明に関する研究
	生体認識化学	友廣 岳則	○標的同定を目指した光アフィニティーラベル法の開発
	がん細胞生物学	櫻井 宏明	○炎症シグナルによるがん悪性化の分子機構の解明
	薬化学	千葉 順哉	○架橋ヘリカルペプチドの開発
	分子神経生物学	田淵 明子	○神経機能発現に関わる遺伝子群の制御機構と機能の解明
	遺伝情報制御学	廣瀬 豊	○真核生物における遺伝子発現制御機構の解析
	分子細胞機能学	守田 雅志	○TNF関連分子群による炎症シグナル制御機構
	生体界面化学	池田 恵介	○液-液相分離ペプチドの分子設計と高機能化 ○脂質-ペプチドナノ粒子を用いた薬物・タンパク質送達法の開発
		中尾 裕之	○脂質スクランブリングペプチドによる細胞膜PS露出
	構造生物学	水口 峰之	○タンパク質の大腸菌による発現系構築と立体構造解析
		常田 孝之	○タンパク質と酵素の大腸菌を用いた発現と構造基盤研究
	薬物生理学	藤井 拓人	○イオン輸送タンパク質の発現及び機能解析
	医療薬学	藤 秀人	○抗がん剤・抗リウマチ薬・アトピー性皮膚炎治療薬の時間薬理、経鼻投薬の研究、抗うつ薬の研究

部 局	講座・研究室等	申 請 者	研 究 題 目
(薬 学 部)	植物機能科学	山村 良美	○有用植物由来の二次代謝関連酵素の機能解析 ○薬用植物由来の細菌類の分子系統解析に基づいた分類と同定
	薬物治療学	新田 淳美	○変異APP及び変異PS1のトランスジェニックマウス5XFADを用いたShati/Nat81の記憶改善効果に関する研究 ○利他的行動関連遺伝子のアデノ随伴ウイルスベクター構築と組換え動物作製 ○精神神経関連遺伝子欠損マウスを用いた各分子の生理機能の解析 ○アデノ随伴ウイルスベクター（AAV）によるマウスを用いた精神神経疾患の病態メカニズムの解明
	実践薬学	田口 雅登	○薬物動態関連分子の遺伝子多型を考慮した体内動態解析
	病態制御薬理学/ 臨床薬品作用学	恒枝 宏史	○インスリン抵抗性の機序の解明
工 学 部	生体情報薬理学	高崎 一郎	○痛み慢性化機構の解明と創薬
教 養 教 育 院	生物学	荒舘 忠	○マウス精子の超活性化を誘導する植物成分の探索とその体外受精に対する効果
和漢医薬学総合 研究所	資源科学領域	庄司 翼	○薬用資源植物に関する分子生物学的研究
	神経機能学領域	東田 千尋	○神経変性疾患の治療を目指した伝統薬物の薬理作用解析
	生体防御学領域	早川 芳弘	○マウスを用いたNK細胞の分化・成熟化における恒常性維持機構と腫瘍内疲弊プロセスの研究
		薄田 健史	○HLA遺伝子導入マウスを用いたMHC分子上の薬剤誘導性の異常抗原が腫瘍免疫原性に及ぼす影響の解析
	未病分野	小泉 桂一	○漢方薬の薬効に関する研究
		赤木 一考	○キイロショウジョウバエを用いた代謝及び老化に関する研究
	複雑系解析分野	中川 嘉	○生活習慣病における遺伝子発現制御機構の解明
附 属 病 院	薬用資源管理部門	条 美智子	○ラット腸間膜リンパ管を用いた漢方薬の浮腫改善機序の解明
	血液内科	和田 暁法	○多発性骨髄腫におけるケモカインの関与
	呼吸器外科	土谷 智史	○Ex vivo肺がんモデルにおけるメカニカルストレスの解析

部 局	講座・研究室等	申 請 者	研 究 題 目
(附 属 病 院)	薬剤部	加藤 敦	○ゴーシェ病病態モデルを用いたセラミドグルコシル化反応の制御
研究推進機構	研究推進総合支援センター 生命科学先端研究支援ユニット	高雄 啓三	○遺伝子改変マウスを活用した精神疾患研究
		田淵 圭章	○ストレス関連遺伝子の機能解析
	アイドリング脳科学研究センター	宮本 大祐	○マウスの行動時及び睡眠時における脳活動の細胞種選択的解明
未病研究センター		小野木康弘	○培養細胞・組織への遺伝子導入のためのレトロ・レンチ・アデノ随伴ウイルス作製及びマウスへのアデノ随伴ウイルス接種による組織特異的遺伝子組換え技術の確立

(2) 機器利用状況

◎令和7年度

機 器 名	型 式	利用件数等
GeneChip解析システム	アフィメトリクス 72-DM00-10	6 枚
DNAシーケンサー	ABI PRISM3130	151 ラン
	ABI PRISM3500	317 ラン
リアルタイムPCRシステム	ライフテクノロジーズ StepOnePlus	345 時間
	アジレント AriaMx	245 時間
	バイオ・ラッド CFX Connect (2 台)	624 時間
	サーモフィッシャーサイエンティフィック QuantStudio3	2 時間
デジタルPCRシステム	サーモフィッシャーサイエンティフィック QuantStudio AbsoluteQ	8 ラン
共焦点レーザー顕微鏡	カールツァイス LSM700	426 時間
	カールツァイス LSM780	650 時間
	カールツァイス LSM900	947 時間
蛍光顕微鏡	オリンパス BX50-34LFA-1	126 時間
ルミノ・イメージアナライザー	フジフイルム LAS-4000	521 時間
ChemiDocイメージングシステム	バイオ・ラッド ChemiDoc Touch MP	199 時間
インフラレッドイメージングシステム	LI-COR Odyssey	3 時間

機 器 名	型 式	利用件数等
マイクロチップ型電気泳動装置	アジレント 2100バイオアナライザ	21 ラン
全自動電気泳動システム	アジレント 4150 TapeStation	22 ラン
マルチモードプレートリーダー	モレキュラーデバイス SpectraMax i3	396 枚
PCRサーマルサイクラー	タカラ Dice Gradient	191 時間
	ライフテクノロジー ABI Veriti (2 台)	239 時間
極微量分光光度計	LMS NanoDrop One	396 件
	LMS NanoDrop 2000	272 件
純水製造装置	セナアンドバーンズ Option R7B, Flex-UV	485 ℓ
DNA断片化装置	コバリス Covaris S2 (2 台)	9 時間
シングルセル解析装置	BD Rhapsody	10 回

2.1.5 アイソトープ実験施設

(1) アイソトープ使用状況

◎令和7年度

核種	繰越 保管量	繰越 使用中量	受 入 量	使 用 量	廃 棄 量	所外 譲渡量	使用中量	保 管 量
³ H	1,074.252	1.027	0	583.179	583.443	165.065	0.763	326.008
¹⁴ C	86.010	1.056	1.850	37.546	37.546	0.263	1.056	50.051
²² Na	7.407	0	0	0	0	0	0	7.407
³² P	37.000	0	0	37.000	37.000	0	0	0
³⁶ Cl	4.075	0	0	0	0	0	0	4.075
⁶³ Ni	25.000	0	0	0	0	0	0	25.000
⁸⁶ Rb	104.396	0	0	0	0	0	0	104.396
¹²⁵ I	33.526	0	0	33.526	33.526	0	0	0
¹³⁷ Cs	34.917	0	0	0.001	0.001	0	0	34.916

※単位：MBq

繰越保管量，繰越使用中量：令和7年4月1日における数量

受入量，使用量，廃棄量，所外譲渡量：令和7年4月1日から令和8年3月31日における数量

使用中量，保管量：令和8年3月31日における数量

(2) 利用研究一覧

◎令和7年度

部 局	講座・研究室等	申 請 者	研 究 題 目
医 学 部	分子神経科学	森 寿	○情動脳神経分子機構
	分子医科薬理学	中川 崇	○放射性アイソトープを用いたNAD輸送機構の解明
	遺伝子発現制御学	甲斐田大輔	○P-TEFbリン酸化活性の測定
	内科学(1)	藤坂 志帆	○インスリン抵抗性機序の解明
		五十嵐喜子	○免疫細胞への介入による諸疾患治療法の開発
	放射線診断・治療学 (放射線腫瘍学部門)	小川 良平	○細胞内生理活性物質の微量生理活性の検討
薬 学 部	産科婦人科学	島 友子	○妊娠における制御性T細胞の機能解析
	薬剤学	細谷 健一	○関門組織における生体膜輸送生理学的解析
	がん細胞生物学	櫻井 宏明	○炎症シグナルによるがん悪性化の分子機構の解明
	分子神経生物学	田淵 明子	○神経細胞のカルシウム応答遺伝子群のクローニングとその発現制御機構
	遺伝情報制御学	廣瀬 豊	○真核生物における遺伝子発現制御機構の解析
	分子細胞機能学	守田 雅志	○副腎白質ジストロフィー(ALD)の発症メカニズムの解明
	生体界面化学	中野 実	○中性子散乱による脂質輸送速度の評価
	構造生物学	帯田 孝之	○基本転写因子群の相互作用ネットワークの解明を目指した構造解析
	薬物生理学	藤井 拓人	○消化管イオン輸送タンパク質の構造と機能の研究
	医療薬学	井上 大輔	○X線回析装置を利用した粉末製剤の物性解析
	病態制御薬理学	笹岡 利安	○分子メカニズムから見た2型糖尿病の成因の解明
	薬物治療学	新田 淳美	○培養細胞におけるドパミン及びセロトニン取り込みの測定及びマウス脳組織におけるGタンパク質の機能変化
		矢野 結友	○Teneurin4ノックダウンマウスを用いた神経精神作用薬による情動変容の観察
	実践薬学	田口 雅登	○腸及び腎由来培養細胞を用いた薬物経細胞輸送特性の解析

部 局	講座・研究室等	申 請 者	研 究 題 目
(薬 学 部)	製剤設計学	岡田康太郎	○医薬品の粉末エックス線回析測定
教 養 教 育 院	物理学	彦坂 泰正	○放射光利用実験
和漢医薬学総合 研究所	天然物化学ユニ ット	森田 洋行	○二次代謝酵素の酵素反応生成物の解析
附 属 病 院	薬剤部	加藤 敦	○グリコシダーゼ阻害剤による糖タンパク質の 改変
	血液内科	菊池 尚平	○多発性骨髄腫における新規治療薬の開発
研究推進機構	研究推進総合支 援センター 生命科学先端研 究支援ユニット	高雄 啓三	○海馬の機能解析

(3) 機器利用状況

◎令和7年度

機 器 名	型 式	利用件数	測定試料数
液体シンチレーションカウンタ	アロカ LSC-6101	73	2,603
	アロカ LSC-7400	75	3,797
オートウエルガンマカウンタ	アロカ AccuFLEX γ 8001	32	1,698

2.2 研究業績

生命科学先端研究支援ユニットの教育研究支援施設を利用して実施された研究で、2025年に学会誌等で公開された原著論文の一覧を講座・研究室等ごとに掲載します。なお、学会誌等の略誌名は、米国国立医学図書館（NLM）が定めた参考文献引用用の略誌名に基づいて表記しています。

2.2.1 医学部

◎システム機能形態学

- (1) Ito T, Ono M, Yamaki S, Hori Y, Muramoto S, Yamamoto R, Furuyama T, Kato N. Disorganized hippocampal excitatory and inhibitory connectivity in a mouse model of Alzheimer's disease. *IBRO Neurosci Rep.* 2025; **19**: 646–54.

◎システム情動科学講座

- (1) Higuchi M, Setogawa T, Izawa T, Matsumoto J, Matsumoto N, Shidara M, Nishimaru H. Role of the monkey orbitofrontal cortex in processing the choice history during reward-based decision-making. *Cereb Cortex.* 2025; **35**: bhaf147.

◎生化学講座

- (1) Ghandour K, Haga T, Ohkawa N, Fung CCA, Nomoto M, Fayed MR, Asai H, Sato M, Fukai T, Inokuchi K. Parallel processing of past and future memories through reactivation and synaptic plasticity mechanisms during sleep. *Nat Commun.* 2025; **16**: 3618.
- (2) Ageta-Ishihara N, Fukazawa Y, Arima-Yoshida F, Okuno H, Ishii Y, Takao K, Konno K, Fujishima K, Ageta H, Hioki H, Tsuchida K, Sato Y, Kengaku M, Watanabe M, Watabe AM, Manabe T, Miyakawa T, Inokuchi K, Bito H, Kinoshita M. Septin 3 regulates memory and L-LTP-dependent extension of endoplasmic reticulum into spines. *Cell Rep.* 2025; **44**: 115352.
- (3) Ibrahim AZ, Abdou K, Nomoto M, Yamada-Nomoto K, Okubo-Suzuki R, Inokuchi K. Sleep-driven prefrontal cortex coordinates temporal action and multimodal integration. *Mol Brain.* 2025; **18**: 4.
- (4) Ohno S, Nomoto M, Inokuchi K. The medial prefrontal cortex encodes procedural rules as sequential neuronal activity dynamics. *Mol Brain.* 2025; **18**: 56.

◎分子神経科学講座

- (1) Okuno N, Yamamoto S, Hamashima T, Dang TS, Okita N, Fujikawa M, Kunisawa T, Takakura N, Fujimori T, Mori H, Betsholtz C, Takata K, Sasahara M. Brain macrophages and pial fibroblasts promote inflammation in a hypomyelination model. *Acta Neuropathol Commun.* 2025; **13**: 145.
- (2) Tozawa C, Matsukiyo Y, Oshima S, Sakajiri Y, Maeda C, Shibata T, Sawada R, Okada T, Obita T, Mizuguchi M, Mori H, Yamanishi Y, Toyooka N. Discovery and structural optimization of a novel serine racemase inhibitor with a pyridazine skeleton. *ChemistrySelect.* 2025; **10**: e05651.
- (3) Li R, Inoue R, Mori H, Hirano A, Sakurai T. Functional roles of gastrin-releasing peptide-producing neurons in the suprachiasmatic nucleus: Insights into photic entrainment and circadian regulation. *J Neurosci.* 2025; **45**: e0065252025.
- (4) Wu Y, Ni X, Mori H, Inoue R. Gastrin-releasing peptide is essential for generalization of auditory conditioned fear under stress. *Mol Brain.* 2025; **18**: 44.
- (5) Takarada S, Hata Y, Yaku K, Izumi H, Fujii K, Omura M, Takasaki I, Tsuboi K, Okabe M, Miyao N, Nakaoka H, Ibuki K, Ozawa S, Nakagawa T, Hasegawa H, Ichimata S, Nishida N, Mori H, Yanagibashi Y, Takao K, Ichida F, Hirono K. Metabolic remodeling and cardiac

dysfunction in left ventricular noncompaction: Insights from the MYH7 Q315R model. *PLoS One*. 2025; **20**: e0336131.

- (6)Yaku K, Palikhe S, Iqbal T, Hayat F, Watanabe Y, Fujisaka S, Izumi, H, Yoshida T, Karim M, Uchida H, Nawaz A, Tobe K, Mori H, Migaud ME, Nakagawa T. Nicotinamide riboside and nicotinamide mononucleotide facilitate NAD⁺ synthesis via enterohepatic circulation. *Sci Adv*. 2025; **11**: eadr1538.

◎病態・病理学講座

- (1)Okuno N, Yamamoto S, Hamashima T, Dang TS, Okita N, Fujikawa M, Kunisawa T, Takakura N, Fujimori T, Mori H, Betsholtz C, Takata K, Sasahara M. Brain macrophages and pial fibroblasts promote inflammation in a hypomyelination model. *Acta Neuropathol Commun*. 2025; **13**: 145.
- (2)Aslam MR, Bilal M, Nawaz A, Kado T, Abe S, Nguyen QP, Memoona, Khalid S, Anh LD, Nishimura A, Watanabe Y, Igarashi Y, Iqbal N, Yokoyama M, Onogi Y, Hirabayashi K, Miwa H, Era T, Matzuk MM, Yamamoto S, Ikuta K, Usui I, Kobayashi K, Satake T, Kato M, Fujisaka S, Tobe K, Deletion of fibro-adipogenic progenitors-specific follistatin impairs muscle function and accelerates skeletal muscle atrophy in obese mice. *Mol Med*. 2025; **31**: 340.
- (3)Nguyen QP, Bilal M, Nawaz A, Anh LD, Memoona, Aslam MR, Khalid S, Kado T, Watanabe Y, Nishimura A, Igarashi Y, Okabe K, Hirabayashi K, Yamamoto S, Nakagawa T, Mori H, Usui I, Fujisaka S, Hayashi R, Tobe K. Role of transforming growth factor- β 1 in regulating adipocyte progenitors. *Sci Rep*. 2025; **15**: 941.
- (4)Bilal M, Nguyen QP, Kado T, Liu J, Anh LD, Khalid S, Aslam MR, Memoona, Nishimura A, Igarashi Y, Watanabe Y, Abbas W, Yokoyama M, Onogi Y, Hirabayashi K, Yamamoto S, Yagi K, Lino M, Usui I, Kato M, Fujisaka S, Nawaz A, Tobe K. Tofogliflozin ameliorates cardiotoxin induced skeletal muscle injury and fibrosis in obesity. *Sci Rep*. 2025; **15**: 32633.

◎分子医科薬理学講座

- (1)Yaku K, Palikhe S, Iqbal T, Hayat F, Watanabe Y, Fujisaka S, Izumi, H, Yoshida T, Karim M, Uchida H, Nawaz A, Tobe K, Mori H, Migaud ME, Nakagawa T. Nicotinamide riboside and nicotinamide mononucleotide facilitate NAD⁺ synthesis via enterohepatic circulation. *Sci Adv*. 2025; **11**: eadr1538.

◎法医学講座

- (1)Takarada S, Hata Y, Yaku K, Izumi H, Fujii K, Omura M, Takasaki I, Tsuboi K, Okabe M, Miyao N, Nakaoka H, Ibuki K, Ozawa S, Nakagawa T, Hasegawa H, Ichimata S, Nishida N, Mori H, Yanagibashi Y, Takao K, Ichida F, Hirono K. Metabolic remodeling and cardiac dysfunction in left ventricular noncompaction: Insights from the MYH7 Q315R model. *PLoS One*. 2025; **20**: e0336131.

◎内科学(1)講座

- (1)Aslam MR, Bilal M, Nawaz A, Kado T, Abe S, Nguyen QP, Memoona, Khalid S, Anh LD, Nishimura A, Watanabe Y, Igarashi Y, Iqbal N, Yokoyama M, Onogi Y, Hirabayashi K, Miwa H, Era T, Matzuk MM, Yamamoto S, Ikuta K, Usui I, Kobayashi K, Satake T, Kato M, Fujisaka S, Tobe K, Deletion of fibro-adipogenic progenitors-specific follistatin impairs muscle function and accelerates skeletal muscle atrophy in obese mice. *Mol Med*. 2025; **31**: 340.
- (2)Yaku K, Palikhe S, Iqbal T, Hayat F, Watanabe Y, Fujisaka S, Izumi, H, Yoshida T, Karim M, Uchida H, Nawaz A, Tobe K, Mori H, Migaud ME, Nakagawa T. Nicotinamide riboside and nicotinamide mononucleotide facilitate NAD⁺ synthesis via enterohepatic circulation. *Sci Adv*. 2025; **11**: eadr1538.
- (3)Nguyen QP, Bilal M, Nawaz A, Anh LD, Memoona, Aslam MR, Khalid S, Kado T, Watanabe

Y, Nishimura A, Igarashi Y, Okabe K, Hirabayashi K, Yamamoto S, Nakagawa T, Mori H, Usui I, Fujisaka S, Hayashi R, Tobe K. Role of transforming growth factor- β 1 in regulating adipocyte progenitors. *Sci Rep.* 2025; **15**: 941.

- (4) Bilal M, Nguyen QP, Kado T, Liu J, Anh LD, Khalid S, Aslam MR, Memoona, Nishimura A, Igarashi Y, Watanabe Y, Abbas W, Yokoyama M, Onogi Y, Hirabayashi K, Yamamoto S, Yagi K, Lino M, Usui I, Kato M, Fujisaka S, Nawaz A, Tobe K. Tofogliflozin ameliorates cardiotoxin induced skeletal muscle injury and fibrosis in obesity. *Sci Rep.* 2025; **15**: 32633.

◎皮膚科学講座

- (1) Furukawa F, Makino T, Kitayama S, Mizawa M, Shimizu T. Development of purpuric lesions in a patient with bullous pemphigoid. *Eur J Dermatol.* 2025; **35**: 72-4.

◎小児科学講座

- (1) Takarada S, Hata Y, Yaku K, Izumi H, Fujii K, Omura M, Takasaki I, Tsuboi K, Okabe M, Miyao N, Nakaoka H, Ibuki K, Ozawa S, Nakagawa T, Hasegawa H, Ichimata S, Nishida N, Mori H, Yanagibashi Y, Takao K, Ichida F, Hirono K. Metabolic remodeling and cardiac dysfunction in left ventricular noncompaction: Insights from the MYH7 Q315R model. *PLoS One.* 2025; **20**: e0336131.

◎外科学（消化器・腫瘍・総合外科）講座

- (1) Numata Y, Fujii T, Toda C, Okumura T, Manabe T, Takeda N, Shimizu T, Tabuchi Y, Fujii T, Sakai H. Digoxin promotes anoikis of circulating cancer cells by targeting Na^+/K^+ -ATPase α 3-isoform. *Cell Death Dis.* 2025; **16**: 373.

◎整形外科・運動器学講座

- (1) Nguyen TCT, Nogami M, Iwasaki M, Yahara Y, Seki S, Makino H, Kamei K, He Z, Kawaguchi Y. M2-like macrophages derived from THP-1 cells promote myofibroblast differentiation of synovial fibroblasts in association with the TGF- β 1/SMAD2/3 signaling pathway. *Sci Rep.* 2025; **15**: 25505.

◎脳神経外科学講座

- (1) Yamamoto S, Shiraishi K, Kushida Y, Oguma Y, Wakao S, Dezawa M, Kuroda S. Nose-to-brain delivery of human muse cells enhances structural and functional recovery in the murine ischemic stroke model. *Sci Rep.* 2025; **15**: 16243.

◎産科婦人科学講座

- (1) Yamada K, Ito M, Nunomura H, Nishigori T, Furuta A, Yoshida M, Yamaki A, Nakamura T, Iwase A, Shima T, Nakashima A. Rubicon, a key molecule for oxidative stress-mediated DNA damage, in ovarian granulosa cells. *Antioxidants.* 2025; **14**: 470.

◎麻酔科学講座

- (1) Ito H, Kawakami M, Yoshida M, Sugimoto S, Takazawa T. Effects of a kappa opioid receptor antagonist on delayed postoperative pain recovery in a novel mouse sleep disorder model. *Front Pain Res.* 2025; **6**: 1516935.
- (2) Onishi K, Sasaki R, Hirota K, Takazawa T. Environmental enrichment enhances anesthetic actions in rat amygdala hippocampal circuits *in vitro*. *Front Pharmacol.* 2025; **16**: 1732630.

2.2.2 薬学部

◎薬剤学研究室

- (1) Shinozaki Y, Miki S, Kubo Y, Tega Y, Akanuma S, Hosoya K. Identification of rat monocarboxylate transporter 9 as a low-affinity transporter of 1-methyl-4-phenylpyridinium and amantadine. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**: 1947-51.
- (2) Endo H, Sugouchi T, Kobayashi O, Tega Y, Kubo Y, Hosoya K, Akanuma S. L-Type amino acid transporter 1-mediated developmental change of cerebral gabapentin distribution across the rat blood-brain barrier. *Drug Metab Pharmacokinet.* 2025; **65**: 101502.
- (3) Daikohara K, Akanuma S, Kawanishi M, Tega Y, Hosoya K. Decrease in *in vivo* efflux transport via P-glycoprotein at the rat inner blood-retinal barrier by peripheral administration of lipopolysaccharide. *Pharm Res.* 2025; **42**: 907-15.
- (4) Shinozaki Y, Akanuma S, Tega Y, Hosoya K. Neuroprotective effects of compounds interacting with carrier-mediated amantadine transport across the blood-retinal barrier in rats. *J Pharmacol Sci.* 2025; **157**: 212-8.
- (5) Tega Y, Kawauchi Y, Akanuma S, Inagaki M, Tachikawa M, Hosoya K. *In vitro* characterization of taurine transport using the human brain microvascular endothelial cell line as a human blood-brain barrier model. *Drug Metab Pharmacokinet.* 2025; **61**: 101040.

◎応用薬理学研究室

- (1) Hiramatsu G, Mizutani R, Toume K, Inada Y, Sawahata M, Uta D, Komatsu K, Kume T. Preventive effects of Psoraleae Semen extracts on cognitive dysfunction in Alzheimer's disease model *App^{NL-P-F}* mice. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**: 45-9.
- (2) Matsuda K, Ishisaka H, Sawahata M, Kume T, Uta D. Antipruritic effects of single administration of paroxetine on acute and chronic itch. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**: 184-7.

◎生体認識化学研究室

- (1) Tanimoto H, Ishihara T, Yotsu A, Tomohiro T. Site-selective Staudinger conjugation of aryl azides driven by intramolecular hydrogen bonding. *Chem Pharm Bull.* 2025; **73**: 1126-31.
- (2) Tanimoto H, Otsuki A, Tomohiro T. Synthesis of a naphthalimide-functionalized polymethacrylate: a turn-on fluorescent probe for sulfinic acids *via* covalent bond formation. *Org Biomol Chem.* 2025; **23**: 7759-65.
- (3) Shinozaki Y, Otani R, Tanimoto H, Tomohiro T. Synthesis and application of azide-incorporated copper-chelating peptides for efficient click conjugation reaction. *J Heterocycl Chem.* 2025; **62**: 419-29.

◎がん細胞生物学研究室

- (1) Suzuki Y, Nishibu S, Nohara A, Onuma I, Zhou Y, Sakurai H, Yokoyama S. DNA-damaging agents induce PD-L1 expression through the Src-STAT1-IRF1 pathway. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**: 1978-85.
- (2) Nguyen K, Zhou Y, Yokoyama S, Sasaki S, Hayashi R, Yano S, Koizumi K, Hayakawa Y, Sakurai H. Allosteric SHP2 inhibitors suppress lung cancer cell migration by inhibiting non-canonical activation of EphA2 via the ERK-RSK signaling pathway. *Sci Rep.* 2025; **15**: 36926.
- (3) Kaminaka R, Takahashi N, Nishizawa M, Sasaki S, Sugihara Y, Matsumoto M, Taniguchi R, Zhou Y, Hayakawa Y, Sakurai H, Yokoyama S. SOX10 regulates melanoma metastasis through the IRF1-ITGA3/EphA2-FAK pathway. *Cancer Sci.* 2025; **116**: 3052-65.
- (4) Zhou Y, Zhang F, Tanaka A, Yokota T, Yokoyama S, Yano S, Sakurai H. Non-canonical activation of RSK1 induces EphA2-mediated cell migration under cellular stress conditions. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**: 1089-95.

- (5)Takahashi K, Takahashi A, Takahashi N, Zhou Y, Sakurai H, Yokoyama S. Proteasome inhibition induces IRF1 downstream molecules independent of JAK activity in cancers. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**: 864-71.
- (6)Amano M, Chiba J, Yasukagawa T, Yokoyama S, Zhou Y, Ohishi Y, Inouye M. Development of pH-responsive crosslinked peptides that form stable α -helices under weakly acidic conditions. *Chem Lett.* 2025; **54**: upae245.

◎薬化学研究室

- (1)Nishioki K, Kimura A, Ohishi Y, Yamashita J, Kitamoto M, Iwamura M, Nozaki K, Chiba J, Inouye M. High-yield syntheses of doubly 2,7-dialkynylpyrene-threaded photostable [8]rotaxanes exhibiting extremely bright circularly polarized luminescence. *Chem Sci.* 2025; **16**: 20414-21.
- (2)Amano M, Chiba J, Yasukagawa T, Yokoyama S, Zhou Y, Ohishi Y, Inouye M. Development of pH-responsive crosslinked peptides that form stable α -helices under weakly acidic conditions. *Chem Lett.* 2025; **54**: upae245.

◎薬品製造学研究室

- (1)Kitamura F, Tanioka M, Kosaka A, Matsuzawa N, Obita T, Sakajiri Y, Shibata T, Sawada R, Yokoyama T, Kohyama A, Yamada T, Yamanishi Y, Mizuguchi M, Matsuya Y. Development of FTase inhibitors inspired by the structures of andrastins. *Results Chem.* 2025; **18**: 102828.
- (2)Tanioka M, Kitamura F, Oyama M, Chen S, Ohishi Y, Yamada T, Matsuya Y. Design strategy for tautomerization-based small panchromatic molecules. *Chem Commun.* 2025; **61**: 9298-301.
- (3)Tanioka M, Enomoto F, Kitamura F, Nakamura R, Takano A, Kanayama S, Kohyama A, Yamada T, Matsuya Y. Room-temperature ligation of iminophosphoranes with *gem*-difluoroalkenes. *J Org Chem.* 2025; **90**: 3610-4.
- (4)Tanioka M, Kanayama S, Kitamura F, Takano A, Ikeda Y, Kohyama A, Yamada T, Matsuya Y. Water-compatible Staudinger-Diels-Alder ligation. *J Org Chem.* 2025; **90**: 1501-6.

◎分子神経生物学研究室

- (1)Shibata T, Ihara D, Kiriara Y, Yagi T, Tabuchi A, Kuroda S. Expression of *c-fos* in cortical neuron cultures under dynamic magnetic field is not suppressed by calcium channel blockers. *Drug Discov Ther.* 2025; **18**: 391-6.

◎分子細胞機能学研究室

- (1)Sato A, Nagai H, Suzuki A, Ito A, Matsuyama S, Shibui N, Morita M, Hikosaka-Kuniishi M, Ishii N, So T. Generation and characterization of OX40-ligand fusion protein that agonizes OX40 on T-lymphocytes. *Front Immunol.* 2025; **15**: 1473815.
- (2)Wakaizumi T, Hikosaka-Kuniishi M, Ozawa Y, Sato A, Iwata C, Wada T, Sasaoka T, Morita M, So T. Defective IgG class switching in the spleen of TRAF5-deficient mice reveals a role for TRAF5 in CD40-mediated B cell responses during obesity-associated inflammation. *Int J Mol Sci.* 2025; **26**: 9494.

◎分子合成化学研究室

- (1)Nambu H, Seto Y, Onuki Y, Yamazaki K, Tomohara K, Yakura T. Sulfur-mediated ring-opening cyclization of spirocyclopropanes for the construction of benzo[*b*]thiophene skeleton. *Chem Asian J.* 2025; **20**: e00262.
- (2)Okitsu T, Koyama S, Yakura T. Construction of the spiro[5.5]undecane framework through dearomative *ipso*-iodocyclization of 5-(4-(1-ethoxyethoxy)phenyl)-1-alkynes. *J Org Chem.* 2025; **90**: 8439-43.

◎生体界面化学研究室

- (1) Nakao H, Maeshiro Y, Ikeda K, Nakano M. *In situ* monitoring of phospholipid flip-flop via fluorescence self-quenching. *Chem Pharm Bull.* 2025; **73**: 1024-9.
- (2) Yamashita I, Ikeda K, Husna SMA, Kamagata K, Nakao H, Nakano M. Regulating surface properties of designed phase-separating peptide droplets for improved dispersibility. *J Colloid Interface Sci.* 2025; **700**: 138609.
- (3) Fukuda M, Takasaki Y, Ichihara M, Takarada T, Ikeda K, Nakano M, Tanaka M. Poloxamer 407 and DMPC form large lipid nanodiscs: Structural characterization using small-angle X-ray scattering. *Langmuir.* 2025; **41**: 17902-13.
- (4) Nakao H, Tsujii T, Saito H, Ikeda K, Nakano M. Synergistic effects of hydrophilic residues in the transmembrane region on lipid scrambling activity of dimeric helices. *Colloids Surf B Biointerfaces.* 2025; **251**: 114612.

◎構造生物学研究室

- (1) Yamane M, Umeda H, Toyobe M, Iwai A, Ishihara K, Kudo G, Mitsunuma H, Hori Y, Tomita T, Mizuguchi M, Okada M, Ueda M, Ando Y, Kawashima SA, Sohma Y, Kaji H, Hirokawa T, Yamanaka K, Kanai M. Catalytic photooxygenation demonstrates therapeutic efficacy in transthyretin amyloidosis. *J Am Chem Soc.* 2025; **147**: 28860-74.
- (2) Kitamura F, Tanioka M, Kosaka A, Matsuzawa N, Obita T, Sakajiri Y, Shibata T, Sawada R, Yokoyama T, Kohyama A, Yamada T, Yamanishi Y, Mizuguchi M, Matsuya Y. Development of FTase inhibitors inspired by the structures of andrastins. *Results Chem.* 2025; **18**: 102828.
- (3) Tozawa C, Matsukiyo Y, Oshima S, Sakajiri Y, Maeda C, Shibata T, Sawada R, Okada T, Obita T, Mizuguchi M, Mori H, Yamanishi Y, Toyooka N. Discovery and structural optimization of a novel serine racemase inhibitor with a pyridazine skeleton. *ChemistrySelect.* 2025; **10**: e05651.
- (4) Yokoyama T, Fujiwara S, Nishikubo K, Mizuguchi M, Nabeshima Y, Toyooka N, Okada T, Nakagawa Y. Repurposing of agrochemicals as ATTRv amyloidosis inhibitors. *J Med Chem.* 2025; **68**: 1572-86.
- (5) Etori H, Asoshina R, Obita T, Okumura F. Spermidine reduces ISGylation and enhances ISG15-USP18 interaction. *Sci Rep.* 2025; **15**: 17913.

◎薬物生理学研究室

- (1) Numata Y, Fujii T, Toda C, Okumura T, Manabe T, Takeda N, Shimizu T, Tabuchi Y, Fujii T, Sakai H. Digoxin promotes anoikis of circulating cancer cells by targeting Na⁺/K⁺-ATPase $\alpha 3$ -isoform. *Cell Death Dis.* 2025; **16**: 373.
- (2) Kageyama T, Shimizu T, Shirai K, Nabeshima S, Ozawa S, Fujii T, Yonekawa Y, Sakai H. Ion channel function of human TMEM16F is associated with phospholipid transport through its subunit cavity. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**: 595-605.

◎医療薬学研究室

- (1) Seto Y, Tokeshi S, Inoue D, Okazaki F, To H. Diurnal variations of neurokinin-1 receptor defines dosing time-dependent differences in antitumor effects of aprepitant in mice. *J Pharmacol Sci.* 2025; **158**: 193-8.
- (2) Seto Y, Miyamoto K, Inoue D, Okazaki F, To H. Dosing time-dependent effects of paclitaxel on peripheral neuropathy in mice. *Anticancer Res.* 2025; **45**: 3305-14.

◎病態制御薬理学研究室／臨床薬品作用学研究室

- (1) Tsuneki H, Maeda T, Takatsuki M, Sekine T, Masui S, Onishi K, Takeda R, Sugiyama M, Sakurai T, Yanagisawa M, Wada T, Sasaoka T. Bromocriptine improves glucose tolerance in obese mice via central dopamine D2 receptor-independent mechanism. *PLoS One.* 2025; **20**:

e0320157.

- (2) Sugiyama M, Tsuneki H, Onishi K, Yubune K, Yamagishi T, Sano S, Tanaka Y, Takasaki I, Sakurai T, Yanagisawa M, Koizumi K, Kadowaki M, Saito S, Wada T, Sasaoka T. Olfactory bulbectomy-induced impairment of lipid utilization leads to abnormal glucose metabolism in mice. *PLoS One*. 2025; **20**: e0333176.
- (3) Honda K, Tsuneki H, Ito H, Mori K, Yoshida M, Wada T, Sasaoka T. Sleep-promoting effects of preproorexin C-terminal peptide in mice. *Biochem Biophys Res Commun*. 2025; **787**: 152760.
- (4) Wakaizumi T, Hikosaka-Kuniishi M, Ozawa Y, Sato A, Iwata C, Wada T, Sasaoka T, Morita M, So T. Defective IgG class switching in the spleen of TRAF5-deficient mice reveals a role for TRAF5 in CD40-mediated B cell responses during obesity-associated inflammation. *Int J Mol Sci*. 2025; **26**: 9494.

◎薬物治療学研究室

- (1) Tokutake T, Yokose J, Yano Y, Shigetsura Y, Muramatsu SI, Nitta A. Cannabinoid type 1 receptors in the mice prefrontal cortex regulate object location memory acquisition via GABAergic neurons. *Behav Brain Funct*. 2025; **21**: 36.
- (2) Takakuwa M, Izuo N, Chino K, Yano Y, Yokose J, Shigetsura Y, Nitta A. Construction of Shati/Nat8l plasmid vectors, and analysis of mitochondrial function mediated by Shati/Nat8l against amyloid β toxicity. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2025; **45**: e70041.

2.2.3 工学部

◎遺伝情報工学

- (1) Kurosawa N, Ozawa T, Ozawa K, Shimojima M, Kawahara M, Kasuya F, Okada W, Nagashima M, Sadamasu K, Itamochi M, Tani H, Morinaga Y, Yuhara K, Okamoto J, Ichikawa H, Kawahata T, Yamazaki T, Isobe M. Development and clinical evaluation of a MPXV antigen-detecting rapid diagnostic test. *J Virol Methods*. 2025; **337**: 115164.

◎生体情報薬理学

- (1) Saito S, Keino H, Takasaki I, Watanabe T, Okada AA. Analysis of serum microRNAs during the development of experimental autoimmune uveoretinitis in rats. *Ocul Immunol Inflamm*. 2025; **33**: 965–74.
- (2) Takasaki I, Takeuchi F, Miyamae R, Mochizuki Y, Kinoshita H, Hagiyaama M, Yoneshige A, Inoue T, Narumi T, Ito A. Long-lasting suppression of mechanical allodynia in mice by intrathecal administration of an anti-cell adhesion molecule 1 antibody. *Med Princ Pract*. 2025; **34**: 614–23.
- (3) Takarada S, Hata Y, Yaku K, Izumi H, Fujii K, Omura M, Takasaki I, Tsuboi K, Okabe M, Miyao N, Nakaoka H, Ibuki K, Ozawa S, Nakagawa T, Hasegawa H, Ichimata S, Nishida N, Mori H, Yanagibashi Y, Takao K, Ichida F, Hirono K. Metabolic remodeling and cardiac dysfunction in left ventricular noncompaction: Insights from the MYH7 Q315R model. *PLoS One*. 2025; **20**: e0336131.
- (4) Sugiyama M, Tsuneki H, Onishi K, Yubune K, Yamagishi T, Sano S, Tanaka Y, Takasaki I, Sakurai T, Yanagisawa M, Koizumi K, Kadowaki M, Saito S, Wada T, Sasaoka T. Olfactory bulbectomy-induced impairment of lipid utilization leads to abnormal glucose metabolism in mice. *PLoS One*. 2025; **20**: e0333176.
- (5) Takasaki I, Nagashima R, Ueda T, Ashihara Y, Nakamachi T, Okada T, Toyooka N, Miyata A, Kurihara T. Spinal pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide and PAC1 receptor signaling system is involved in the oxaliplatin-induced acute cold allodynia in mice. *J Pain*. 2025; **27**: 104751.

2.2.4 和漢医薬学総合研究所

◎資源科学領域

- (1)Shoji T, Lee JB, Miura K. A versatile agroinfiltration platform for transient gene expression across medicinal and phylogenetically diverse eudicot plants. *Plant Cell Rep.* 2025; **44**: 260.

◎天然物創薬学領域 天然物化学ユニット

- (1)Le HT, Nguyen NTH, Hong QV, Qian Z, Bui TM, Huynh LN, Hnin SYY, Htoo ZP, Le APT, Tran DQ, Morita H, Bui HTB. Thiazole conjugated amino acid derivatives as potent cytotoxic agents. *RSC Adv.* 2025; **15**: 26860-72.

◎天然物創薬学領域 天然薬物開発ユニット

- (1)Maneenet J, Awale S, Boonyarat C, Waiwut P, Kaewamatawong R. Anti-cancer activity of 7-methoxyheptaphylline from *Clausena harmandiana* against PANC-1 pancreatic cancer cells and its sustainable extraction method. *PLoS One.* 2025; **20**: e0334901.
- (2)Maneenet J, Tawila AM, Nguyen HH, Phan ND, Monthakantirat O, Daodee S, Boonyarat C, Khamphukdee C, Chulikhit Y, Awale S. Calliviminone A from *Callistemon citrinus* induces PANC-1 pancreatic cancer cell death by targeting the PI3K/Akt/mTOR pathway. *Plants.* 2025; **14**: 2074.
- (3)Nguyen, HH, Maneenet J, Fujii T, Caggiano L, Lewis SE, Awale S. Grandifloridin D: A potent antiausterity agent targeting pancreatic cancer cells *via* Akt/mTOR and autophagy inhibition. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**:1784-93.
- (4)Awale S, Maneenet J, Phan ND, Nguyen HH, Fujii T, Ihmels H, Soost D, Tajuddeen N, Feineis D, Bringmann G. Toyaburgine, a synthetic *N*-biphenyl-dihydroisoquinoline inspired by related *N,C*-coupled naphthylisoquinoline alkaloids, with high *in vivo* efficacy in preclinical pancreatic cancer models. *ACS Chem Biol.* 2025; **20**: 917-29.

◎生体防御学領域

- (1)He K, Kimura T, Takeda K, Hayakawa Y. Characterization of anti-asialo-GM1 monoclonal antibody. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025; **743**: 151197.
- (2)Susukida T, Aoki S, Hayakawa Y. Preferential recognition of drug-induced altered self-presentation on tumor cells, but not host cells, by CD8⁺ T cells for eliciting anti-tumor immunity. *Biol Pharm Bull.* 2025; **48**: 1566-71.

◎神経機能学領域

- (1)Yang X, Kondo M, Tohda C. Intramuscular inhibition of glycogen phosphorylase improves motor function in spinal cord injury. *Biochem Biophys Res Commun.* 2025; **750**: 151395.
- (2)Tohda C, Shibue S. Oral administration of diosgenin protects optic nerve degeneration in a mouse model of normal-tension glaucoma. *Phytomedicine Plus.* 2025; **5**: 100823.

◎未病分野

- (1)Taketai A, Koshiyama S, Haruki T, Yonezawa S, Tahara, J, Yamazaki M, Oshima Y, Wada A, Sato T, Koizumi K, Kitajima I, Saito S. Identification of the cellular tipping point in the inflammation model of LPS-induced RAW264.7 macrophages through Raman spectroscopy and the Dynamical Network Biomarker theory. *Molecules.* 2025; **30**: 920.
- (2)Akagi K, Jin Y-J, Koizumi K, Oku M, Ito K, Shen X, Imura J-I, Aihara K, Saito S. Integration of dynamical network biomarkers, control theory and *Drosophila* model identifies Vasa/DDX4 as the potential therapeutic targets for metabolic syndrome. *Cells.* 2025; **14**: 415.

2.2.5 附属病院

◎血液内科

- (1) Taketani A, Koshiyama S, Haruki T, Yonezawa S, Tahara, J, Yamazaki M, Oshima Y, Wada A, Sato T, Koizumi K, Kitajima I, Saito S. Identification of the cellular tipping point in the inflammation model of LPS-induced RAW264.7 macrophages through Raman spectroscopy and the Dynamical Network Biomarker theory. *Molecules*. 2025; **30**: 920.

◎呼吸器外科

- (1) Kitamura N, Iwatake M, Mizoguchi S, Ibrahim Wani S, Kobayashi K, Hasnain M, Nguyen VD, Yokoyama R, Kitade N, Ojima T, Shimoyama K, Koba N, Hatta H, Raredon MSB, Hirabayashi K, Morinaga Y, Tsuchiya T. Lung adenocarcinoma cells respond differently to mechanical stress in 3D versus 2D environments. *Commun Biol*. 2025; **8**: 1819.

◎薬剤部

- (1) Tran TV, Marrot J, Yamamoto S, Yoshimura K, Gillaizeau I, Nicolas C, Désiré J, Kato A, Auburger N, Blériot Y. Addition of lithiated 1,3-dithiane and nitronate to sugar-derived imines: Synthesis of homoisinosugars and pipercolic acid analogues. *Org Lett*. 2025; **27**: 5068–73.
- (2) Gao F-T, Zhang M, Shimadate Y, Kato A, Li Y-X, Jia Y-M, Yu C-Y. Enantiomeric C-6 fluorinated swainsonine derivatives as highly selective and potent inhibitors of α -mannosidase and α -L-rhamnosidase: Design, synthesis and structure-activity relationship study. *Eur J Med Chem*. 2025; **282**: 117031.

2.2.6 研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット

◎動物実験施設／アイソトープ実験施設

- (1) Kawamura A, Fujii K, Tamada K, Abe Y, Nitahara K, Iwasaki T, Yagishita S, Tanaka KF, Takumi T, Takao K, Nishiyama M. Duplication of the autism-related gene *Chd8* leads to behavioral hyperactivity and neurodevelopmental defects in mice. *Nat Commun*. 2025; **16**: 4641.
- (2) Takarada S, Hata Y, Yaku K, Izumi H, Fujii K, Omura M, Takasaki I, Tsuboi K, Okabe M, Miyao N, Nakaoka H, Ibuki K, Ozawa S, Nakagawa T, Hasegawa H, Ichimata S, Nishida N, Mori H, Yanagibashi Y, Takao K, Ichida F, Hirono K. Metabolic remodeling and cardiac dysfunction in left ventricular noncompaction: Insights from the MYH7 Q315R model. *PLoS One*. 2025; **20**: e0336131.
- (3) Sakayori N, Fujii K, Katakura M, Adachi M, Koshidaka Y, Takao K, Sugita M. Mice born to mothers fed a diet high in omega-6 fatty acids and low in omega-3 fatty acids during pregnancy exhibit various behavioral changes including impaired social behaviors and enhanced recognition memory. *J Nutr*. 2025; **155**: 775–87.
- (4) Fujii K, Koshidaka Y, Yanagibashi Y, Adachi M, Matsuo M, Kimura K, Saito T, Saido TC, Takao K. Ovariectomy attenuates phenotypes related to Alzheimer's disease in a preclinical mouse model and in C57BL/6 J mice. *Sci Rep*. 2025; **15**: 36995.
- (5) Ageta-Ishihara N, Fukumasu N, Sakakibara K, Fujii K, Koshidaka Y, Katsuragawa S, Tanigaki K, Hiramoto T, Kang G, Hiroi N, Fukazawa Y, Miyakawa T, Takao K, Kinoshita M. *Septin5* deficiency impairs both recent and remote contextual fear memory. *Mol Brain*. 2025; **18**: 85.
- (6) Ohno M, Wakatsuki S, Kuniishi H, Sekiguchi M, Takeuchi E, Takao K, Watase M, Abe T, Araki T. ZNRF1-dependent regulation of AKT activity modulates Nav subcellular localization and AIS position in neurons to regulate fear-related behaviour. *J Biochem*. 2025; **178**: 39–50.

◎遺伝子実験施設／分子・構造解析施設

- (1)Tabuchi Y, Kuroda K, Furusawa Y, Hirano T, Nagaoka R, Omura M, Hasegawa H, Hirayama J, Suzuki N. Genes involved in osteogenic differentiation induced by low-intensity pulsed ultrasound in goldfish scales. *Biomed Rep.* 2025; **22**: 18.
- (2)Numata Y, Fujii T, Toda C, Okumura T, Manabe T, Takeda N, Shimizu T, Tabuchi Y, Fujii T, Sakai H. Digoxin promotes anoikis of circulating cancer cells by targeting Na⁺/K⁺-ATPase α 3-isoform. *Cell Death Dis.* 2025; **16**: 373.

2.3 講習会等

2.3.1 動物実験施設

(1) 動物実験教育訓練

動物実験教育訓練は、本学動物実験委員会の主催で実施しており、動物実験施設以外で動物実験を計画している研究者についても、受講が義務付けられています。受講者には動物実験計画申請資格が付与され、令和7年度は196名が受講しました。

◎令和7年度

回	月 日	受講者数	場 所
第1回	令和7年7月10日(木)	83名	杉谷キャンパス 講義実習棟 1階大講義室
第2回	7月15日(火)	67名	杉谷キャンパス 講義実習棟 1階大講義室
第3回	7月18日(金)	46名	五福キャンパス 共通教育棟 1階D11番教室
計		196名	
内 容	①研究機関等における適正な動物実験等の実施に関する基本指針 (文部科学省告示第71号, 平成18年6月1日) ②動物実験の安全管理, 苦痛の排除等 ③生命科学先端研究支援ユニット動物実験施設の管理及び利用の紹介 ④動物実験計画書の記入方法		
講 師	早川芳弘 (動物実験委員会委員長) 高雄啓三 (動物実験施設長)		

(2) 施設登録者利用講習会

動物実験施設の新規登録者及び既登録者のうち、新たに実験室や実験動物を利用する者を対象に、施設教員が施設利用に関する総論を説明し、その後、各担当職員が実験動物種及び実験室別に分かれて講習を実施しました。令和7年度は91名が受講しました。

◎令和7年度

回	月日	受講者数	回	月日	受講者数
第1回	令和7年4月30日(水)	16名	第4回	令和7年10月30日(木)	26名
第2回	6月25日(水)	30名	第5回	12月25日(木)	7名
第3回	8月5日(火)	4名	第6回	令和8年2月18日(水)	8名
			計		91名
場 所	動物実験施設				
対象者	新規登録申請者，既登録者で新たに実験室や実験動物を利用する者				
内 容	①施設の利用に関する総論 ②実験動物種及び実験室別の講習				

(3) 実験動物慰霊祭

令和7年10月23日(木)、令和7年度富山大学実験動物慰霊祭が、杉谷キャンパスの実験動物の碑の前で執り行われました。

令和7年度も引き続き感染症対策を講じ、田渕圭章生命科学先端研究支援ユニット長による感謝のことが関係者のみの出席で執り行われました。その後、教職員及び学生262名が当日15時までに慰霊碑の祭壇に順次参拝し、本学の教育研究の発展に貢献した動物の霊に対して、感謝と哀悼の意を表しました。



2.3.2 分子・構造解析施設

(1) 新規登録者講習会

◎令和7年度

回	月	日	受講者数	回	月	日	受講者数
第 1 回	令和 7 年 4 月	24日(木)	38名	第 6 回	令和 7 年	10月23日(木)	48名
第 2 回		5 月21日(水)	32名	第 7 回		11月26日(水)	7 名
第 3 回		6 月24日(火)	15名	第 8 回	令和 8 年 1 月	22日(木)	4 名
第 4 回		7 月30日(水)	4 名	第 9 回		2 月25日(水)	15名
第 5 回		9 月25日(木)	7 名	計			170名
形 式	Microsoft Teamsによるオンライン開催						
対象者	新規登録者，既登録者で利用経験の浅い者						
内 容	①施設概要（組織，支援業務） ②利用方法（登録方法，入退室管理システム，機器予約システム，注意事項） ③各系機器，担当者紹介 ④その他（広報，緊急時連絡先など） ⑤解説「液体窒素の安全利用及び高圧ガスボンベの扱い方」						

(2) 液体窒素安全利用講習会

◎令和7年度

回	月	日	受講者数	回	月	日	受講者数
第1回	令和7年	4月24日(木)	29名	第6回	令和7年	10月23日(木)	38名
第2回		5月21日(水)	27名	第7回		11月26日(水)	6名
第3回		6月24日(火)	10名	第8回	令和8年	1月22日(木)	3名
第4回		7月30日(水)	6名	第9回		2月25日(水)	8名

第5回	9月25日(木)	1名	計	128名
場 所	薬学部研究棟3階 液体室素取出室			
対象者	新規登録者，既登録者で利用経験の浅い者			
内 容	①設備の概要 ②使用方法			
担当者	西尾和之，鈴木二平			

(3) テクニカルセミナー・機器説明会

◎令和7年度

第1回	日 時	令和7年6月20日(金) 15時～16時
	形 式	オンライン開催
	内 容	画像解析機能搭載スペクトルセルソーターBD FACSDiscoverS8の紹介
	講 師	渡辺信之（日本ベクトン・ディッキンソン株式会社）
	参加者数	10名
第2回	日 時	令和7年7月23日(水) 14時30分～16時30分 7月24日(木) 9時～11時
	場 所	和漢医薬学総合研究所棟2階 共用機器室(2)
	内 容	MALDI-TOFMSマスイメージングセミナー
	講 師	橋本将宏（日本電子株式会社）
	参加者数	6名
第3回	日 時	令和7年7月29日(火) 15時～16時
	形 式	オンライン開催
	内 容	ソニー株式会社フローサイトメーター製品の紹介
	講 師	ソニー株式会社ライフサイエンス&テクノロジー事業部
	参加者数	4名
第4回	日 時	令和7年11月19日(水) 10時30分～17時 11月20日(木) 9時～15時
	場 所	共同利用研究棟2階 セミナー室
	内 容	ピペットクリニック
	担 当	株式会社ニチリョー
	点検本数	972本（27講座等）

第5回	日 時	＜経 験 者 対 象＞令和7年11月26日(水) 10時～16時30分 (3回開催) ＜未経験者対象＞ 11月27日(木) 10時～17時
	場 所	共同利用研究棟2階 細胞分析室(1)
	内 容	セルアナライザーBD FACSymphony A1利用者説明会
	講 師	二俣吉樹 (日本ベクトン・ディッキンソン株式会社)
	参加者数	20名
第6回	日 時	令和8年1月28日(水) 10時～16時 (2回開催)
	場 所	和漢医薬学総合研究所棟2階 共用機器室(2)
	内 容	MALDI-TOFMS操作説明会
	講 師	山田高弘 (日本電子株式会社)
	参加者数	5名
第7回	日 時	令和8年2月2日(月) ＜基礎編＞9時～12時 ＜応用編＞13時～16時
	場 所	共同利用研究棟2階 精密質量分析室(1)
	内 容	質量分析装置 (ThermoScientific Q ExactivePlus) 講習会
	講 師	金子史幸 (サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社)
	参加者数	8名
第8回	日 時	令和8年2月26日(木) 13時～17時 2月27日(金) 10時～16時
	場 所	共同利用研究棟2階 細胞分析室(1)
	内 容	新型セルアナライザーFACSymphony A1による微粒子測定
	講 師	二俣吉樹 (日本ベクトン・ディッキンソン株式会社)
	参加者数	4名
第9回	日 時	令和8年3月24日(火) 14時～15時
	場 所	共同利用研究棟2階 セミナー室
	内 容	PHCbiライブセル代謝分析装置LiCellMoの紹介
	講 師	道場彩乃 (PHC株式会社)
	参加者数	3名

第10回	日 時	令和8年3月31日(火) 13時～16時 (2回開催)
	場 所	和漢医薬学総合研究所棟 2階 共用機器室(1)
	内 容	キーエンス蛍光顕微鏡BZ-X800操作説明会
	担 当	田中靖人 (株式会社キーエンス)
	参加者数	6名

(4) 機器利用講習会

◎令和7年度

○自動細胞分析装置 (BD FACSCanto II)

月 日	令和7年4月14日(月)
場 所	共同利用研究棟 2階 細胞分析室(1)
内 容	①機器の概要 ②操作方法と分析方法
担当者	鈴木二平
受講者数	1名

○自動細胞分析装置 (BD FACSCelesta・BD FACSymphony A1)

回	月日	受講者数	回	月日	受講者数
第1回	令和7年5月14日(水)	2名	第10回	令和7年9月24日(水)	1名
第2回	6月19日(木)	3名	第11回	10月14日(火)	5名
第3回	6月23日(月)	3名	第12回	10月20日(月)	2名
第4回	6月25日(水)	3名	第13回	令和8年1月14日(水)	3名
第5回	7月14日(月)	2名	第14回	1月19日(月)	3名
第6回	7月22日(火)	3名	第15回	1月20日(火)	3名
第7回	7月25日(金)	2名	第16回	2月16日(月)	3名
第8回	8月29日(金)	2名	第17回	3月16日(月)	3名
第9回	9月16日(火)	8名	第18回	3月25日(水)	2名
			計		53名
場 所	共同利用研究棟 2 階 細胞分析室(1)・細胞分析室(2)				
内 容	①機器の概要 ②操作方法と分析方法				
担当者	鈴木二平				

○自動細胞分取分析装置（BD FACSAria SORP）

回	月日	受講者数	回	月日	受講者数
第 1 回	令和 7 年 4 月 28 日 (月)	2 名	第 4 回	令和 8 年 1 月 26 日 (月)	2 名
第 2 回	6 月 26 日 (木)	2 名	第 5 回	3 月 23 日 (月)	1 名
第 3 回	10 月 27 日 (月)	3 名	計		10 名
場 所	共同利用研究棟 2 階 細胞分析室(1)				
内 容	実際のソーティングに即した操作からメンテナンスまで				
担当者	鈴木二平				

○個別対応講習会

機 器 名	実施回数	機 器 名	実施回数
フーリエ変換型質量分析装置	3	自動細胞分析装置	10
超伝導FT核磁気共鳴装置	6	自動細胞分取分析装置	1
高分解能透過電子顕微鏡	2	飛行時間型質量分析装置	5
クライオスタット	8	超遠心機	1
滑走式ミクロトーム	1	プレートリーダー	1
超ミクロトーム	2	純水製造装置	1
タイムラプスイメージングシステム	1	大判プリンタ	2
細胞外代謝解析装置	2	液体室素貯蔵・取出システム	1
オールインワン蛍光顕微鏡	3	ソニケーター	1

2.3.3 遺伝子実験施設

(1) 施設利用講習会

◎令和 7 年度

回	月 日	受講者数	回	月 日	受講者数
第 1 回	令和 7 年 4 月 22 日 (火)	30 名	第 6 回	令和 7 年 11 月 25 日 (火)	5 名
第 2 回	5 月 28 日 (水)	20 名	第 7 回	12 月 23 日 (火)	7 名
第 3 回	6 月 25 日 (水)	5 名	第 8 回	令和 8 年 1 月 27 日 (火)	1 名
第 4 回	7 月 29 日 (火)	7 名	第 9 回	2 月 24 日 (火)	3 名
第 5 回	10 月 28 日 (火)	52 名	計		130 名

形 式	Zoomによるオンライン開催
対象者	新規登録申請者
内 容	①遺伝子組換え実験に際しての諸注意 ②入退室管理システムの説明 ③施設の利用要項の確認等
担当者	皆川沙月

(2) テクニカルセミナー・機器説明会

◎令和7年度

第1回	日 時	令和7年7月25日(金) 16時～17時
	形 式	Microsoft Teamsによるオンライン開催
	内 容	Absolute Q デジタルPCRセミナー
	講 師	今泉隆次郎 (ライフテクノロジーズジャパン株式会社)
	参加者数	11名
第2回	日 時	令和8年1月20日(火) 13時30分～16時
	場 所	遺伝子実験施設2階 セミナー室
	内 容	Agilent 4150TapeStationセミナー～DNA/RNAサンプルにおける品質管理(QC)の重要性～
	講 師	津本裕子 (アジレント・テクノロジー株式会社)
	参加者数	3名
第3回	日 時	令和8年2月3日(水) <1回目>10時～12時 <2回目>13時30分～15時30分
	場 所	遺伝子実験施設3階 遺伝子機能解析室(1)
	内 容	超解像共焦点顕微鏡LSM900 Airyscan2イメージングサポート
	講 師	末永佳代子 (カールツァイス株式会社)
	参加者数	9名
第4回	日 時	令和8年3月11日(水) 13時30分～14時30分
	場 所	遺伝子実験施設2階 セミナー室
	内 容	超微量分光光度計NanoDropUltra設置案内セミナー
	講 師	塘 行元 (ライフテクノロジーズジャパン株式会社)
	参加者数	17名

(3) 機器利用講習会

◎令和7年度

ODNAシーケンサー (ABI PRISM3130)

回	月日	受講者数	回	月日	受講者数
第1回	令和7年5月14日(水)	1名	第4回	令和7年10月16日(木)	1名
第2回	7月10日(木)	2名	第5回	令和8年1月16日(金)	1名
第3回	9月18日(木)	2名	計		7名
場 所	遺伝子実験施設 2 階 遺伝子構造解析室				
内 容	①機器の概要 ②操作・データ解析方法				
担当者	堀 恵子				

ODNAシーケンサー (ABI PRISM3500)

回	月日	受講者数	回	月日	受講者数
第1回	令和7年4月25日(金)	1名	第8回	令和7年10月29日(水)	4名
第2回	5月15日(木)	1名	第9回	11月11日(火)	1名
第3回	6月11日(水)	1名	第10回	令和8年1月22日(木)	1名
第4回	6月19日(木)	1名	第11回	2月19日(木)	4名
第5回	7月11日(金)	1名	第12回	2月26日(木)	1名
第6回	7月14日(月)	1名	第13回	3月17日(火)	1名
第7回	9月19日(金)	2名	計		20名
場 所	遺伝子実験施設 2 階 遺伝子構造解析室				
内 容	①機器の概要 ②操作・データ解析方法				
担当者	堀 恵子				

○リアルタイムPCRシステム (バイオ・ラド CFX Connect)

回	月 日	受講者数	回	月 日	受講者数
第1回	令和7年4月23日(水)	2名	第4回	令和7年6月25日(水)	1名
第2回	6月11日(水)	1名	第5回	令和8年1月6日(火)	1名
第3回	6月17日(火)	1名	第6回	2月18日(水)	2名
			計		8名

場 所	遺伝子実験施設 2 階 測定機器室
内 容	①機器の概要 ②使用方法・注意点の説明
担当者	堀 恵子

○リアルタイムPCRシステム（サーモフィッシャー QuantStudio3）

回	月日	受講者数	回	月日	受講者数
第 1 回	令和 7 年 6 月 25 日 (水)	1 名	第 2 回	令和 7 年 12 月 19 日 (金)	1 名
			計		2 名
場 所	遺伝子実験施設 2 階 測定機器室				
内 容	①機器の概要 ②使用方法・注意点の説明				
担当者	堀 恵子				

○リアルタイムPCRシステム（ライフテクノロジーズ StepOnePlus）

月 日	令和 7 年 6 月 25 日 (水)
場 所	遺伝子実験施設 2 階 測定機器室
内 容	①機器の概要 ②使用方法・注意点の説明
担当者	堀 恵子
受講者数	1 名

○ChemiDocイメージングシステム（バイオ・ラッド ChemiDocTouch MP）

月 日	令和 8 年 2 月 16 日 (月)
場 所	遺伝子実験施設 2 階 測定機器室
内 容	①機器の概要 ②使用方法・注意点の説明
担当者	皆川沙月
受講者数	1 名

○共焦点レーザー顕微鏡（カールツァイス LSM700）

回	月 日	受講者数	回	月 日	受講者数
第 1 回	令和 7 年 4 月 14 日 (月)	2 名	第 7 回	令和 7 年 10 月 29 日 (水)	1 名
第 2 回	4 月 23 日 (水)	2 名	第 8 回	11 月 11 日 (火)	3 名

第3回	6月24日(火)	1名	第9回	11月18日(火)	1名
第4回	7月15日(火)	1名	第10回	12月23日(火)	2名
第5回	9月17日(水)	1名	第11回	令和8年3月24日(火)	4名
第6回	9月24日(水)	1名	計		19名
場 所	遺伝子実験施設3階 遺伝子機能解析室(1)				
内 容	①機器の概要 ②使用方法 ③スライドグラスサンプルの観察方法				
担当者	皆川沙月				

○共焦点レーザー顕微鏡（カルツァイス LSM780）

回	月日	受講者数	回	月日	受講者数
第1回	令和7年5月20日(火)	3名	第7回	令和8年1月21日(水)	1名
第2回	6月25日(水)	2名	第8回	2月25日(水)	1名
第3回	7月16日(水)	2名	第9回	3月16日(月)	1名
第4回	9月25日(木)	1名	第10回	3月23日(月)	1名
第5回	11月11日(火)	3名	第11回	3月25日(水)	4名
第6回	12月24日(水)	4名	計		23名
場 所	遺伝子実験施設 3 階 遺伝子機能解析室(2)				
内 容	①機器の概要 ②使用方法 ③スライドグラスサンプルの観察方法				
担当者	皆川沙月				

○共焦点レーザー顕微鏡（カルツァイス LSM900）

回	月 日	受講者数	回	月 日	受講者数
第1回	令和7年4月9日(水)	1名	第10回	令和7年7月28日(月)	2名
第2回	4月17日(木)	4名	第11回	8月5日(火)	1名
第3回	4月18日(金)	2名	第12回	8月27日(水)	1名
第4回	5月2日(金)	1名	第13回	10月23日(木)	4名
第5回	5月21日(水)	4名	第14回	10月24日(金)	3名
第6回	6月26日(木)	1名	第15回	11月20日(木)	2名

第7回	7月15日(火)	1名	第16回	12月25日(木)	4名
第8回	7月17日(木)	2名	第17回	令和8年1月30日(金)	4名
第9回	7月18日(金)	1名	計		38名
場 所	遺伝子実験施設 3階 遺伝子機能解析室(1)				
内 容	①機器の概要 ②使用方法 ③スライドグラスサンプルの観察方法				
担当者	皆川沙月				

2.3.4 アイソトープ実験施設

(1) 教育訓練

◎令和7年度

第1回	区 分	新人教育
	日 時	令和7年4月23日(水) 13時～16時 4月25日(金) 13時～16時 5月14日(水) 13時～16時
	場 所	アイソトープ実験施設
	内 容	①放射線障害防止法 ②放射線の人体に与える影響 ③放射性同位元素等の安全取扱 ④放射線障害予防規程 ⑤施設利用説明会
	受講者数	13名
第2回	区 分	新人教育(臨時)
	日 時	令和7年5月22日(木) 13時～14時
	場 所	アイソトープ実験施設
	内 容	放射線障害予防規程
	受講者数	3名
第3回	区 分	新人教育
	日 時	令和7年7月22日(火) 13時～16時 7月23日(水) 13時～16時
	場 所	アイソトープ実験施設
	内 容	第1回と同じ
	受講者数	7名

第4回	区 分	再教育
	日 時 期 間	①令和7年7月22日(火) 15時～16時 ②令和7年8月27日(水) ～10月27日(月)
	形 式	①Microsoft Teamsによるオンライン開催 ②オンライン配信の動画視聴
	内 容	講演：「チヨルノーベリ原発，福島第一原発の事故後の現地調査RI施設での実験からわかったセシウム137の影響」 講師：中島裕夫（大阪大学・特任教授）
	受講者数	64名
第5回	区 分	新人教育
	日 時	令和7年11月18日(火) 13時～16時 11月19日(水) 13時～16時
	場 所	アイソトープ実験施設
	内 容	第1回と同じ
	受講者数	4名
第6回	区 分	新人教育
	日 時	令和8年3月10日(火) 13時～16時 3月11日(水) 13時～16時
	場 所	アイソトープ実験施設
	内 容	第1回と同じ
	受講者数	2名

(2) 機器利用講習会

◎令和7年度

○液体シンチレーションカウンタ（アロカ AccuFLEX LSC-8000）

日 時	令和8年3月19日(木) 13時～14時
場 所	アイソトープ実験施設 2階 測定室
内 容	①機器の概要 ②使用方法・注意点の説明
担当者	茂原牧子（アロカ株式会社）
受講者数	4名

2.4 社会活動

2.4.1 動物実験施設

(1) 第51回国立大学法人動物実験施設協議会総会

主催校：北海道大学遺伝子病制御研究所附属動物実験施設

日 時：令和7年5月30日(金) 13時～16時30分

会 場：北海道大学医学部フラテホール

概 要：＜審議事項＞

- ①令和6年度事業報告
- ②令和6年度決算と監査報告
- ③令和7年度事業計画（案）について
- ④令和7年度予算（案）について
- ⑤第53回（令和9年）総会主催校の選出について
- ⑥その他

＜報告事項＞

- ①会員名の変更について
- ②サテライトミーティングの報告
- ③施設長・教員・事務職員懇談会の報告
- ④技術職員懇談会の報告
- ⑤ICLASモニタリングセンター運営検討委員会の報告
- ⑥ナショナルバイオリソースプロジェクト（ニホンザル）運営委員会の報告
- ⑦その他

2.4.2 分子・構造解析施設

(1) 国立大学法人機器・分析センター協議会令和7年度総会・シンポジウム

開催校：長崎大学

日 時：令和7年10月10日(金) 9時～16時55分

会 場：出島メッセ長崎

形 式：対面及びオンライン配信（ハイブリッド開催）

概 要：＜総会＞

- ①審議事項
- ②報告事項

＜シンポジウム＞

テーマ：「教育研究基盤エコシステムの構築と大学の多様な未来像～自律と共創による
知の循環～」

- ①開会挨拶
- ②講演1 「国立大学法人等の学術研究を取り巻く状況について」
熊谷果奈子（文部科学省）
- ③講演2 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）～社会と大学の変

革を実現させる岡山大学の挑戦～」

那須保友（岡山大学）

- ④講演 3 「やってみてわかった！小規模だからこそ設備共有～北見工大との連携と外部評価～」

得字圭彦（帯広畜産大学）

- ⑤講演 4 「研究開発マネジメント人材及び技術職員の評価，処遇，雇用等人事制度のガイドライン策定について」

大場亮平（文部科学省）

- ⑥報告「アンケート調査結果とエフォートテーブルの提案」

- ⑦パネルディスカッション

- ⑧閉会挨拶

- ⑨次期開催案内

2.4.3 遺伝子実験施設

(1) 第41回遺伝子研究安全管理協議会総会及び安全研修会

日 時：令和7年11月14日（金）10時～16時45分

会 場：KFC Hall & Room（東京）

形 式：対面及びオンライン配信（ハイブリッド開催）

概 要：①新規会員等の参加報告

- ②文部科学省施策説明

○「カルタヘナ法について」

上田大貴（文部科学省）

○「学術研究に関する政策の動向について」

乾 優里（文部科学省）

- ③2024年度事業報告

- ④2024年度決算報告

- ⑤委員会等報告

- ⑥委員会新設について

- ⑦2026年度予算案・事業計画

- ⑧2026年度役員及び事務局

2.4.4 アイソトープ実験施設

(1) 見学会「放射線について学ぼう！」

共 催：北陸原子力懇談会，富山大学

日 時：令和7年8月21日（木）8時30分～12時30分

会 場：富山大学生命科学先端研究支援ユニット動物実験施設／アイソトープ実験施設

参加者：富山県・石川県内の中学生8名，中学校教員2名

内 容：①動物実験施設及びアイソトープ実験施設の見学

- ②放射線の基礎知識

③体験型授業

- ・放射線の飛跡を見てみよう（霧箱の作製／観察）
- ・放射線の強さと距離の関係を理解しよう（遮蔽効果の検証）

(2) 令和7年度大学等放射線施設協議会総会・研修会

日 時：令和7年9月5日(金) 10時30分～16時10分

会 場：東京大学農学部弥生講堂一条ホール

形 式：対面及びオンライン配信（ハイブリッド開催）

概 要：①依頼講演「最近の放射線規制の動向（放射性同位元素等規制法関連）」

渡部敬洋，深野重男（原子力規制庁）

②「理研小型中性子源システムRANSを活用した太陽電池型中性子検出素子の開発」

奥野泰希（理化学研究所）

③「原子力人材育成の現況，京都大学複合原子力科学研究所の挑戦」

黒崎 健（京都大学）

④「植物RIイメージング研究と福島国際研究教育機構の紹介」

河地有木（量子科学技術研究開発機構／福島国際研究教育機構）

⑤「大学等放射線施設協議会活動報告」

吉村 崇（大学等放射線施設協議会）

3 運営状況

3.1 運営費会計報告

◎令和7年度

○収入

(単位：円)

事 項	予 算 額	決 算 額	差 異
支援基盤経費	14,360,000	14,360,000	0
教育研究設備維持運営費	28,058,000	28,058,000	0
非常勤職員人件費	17,355,000	17,355,000	0
産学等連携経費	216,000	216,314	△314
受益者負担	73,619,000	76,956,836	△3,337,836
業務達成基準適用業務	22,000,000	22,000,000	0
部局長リーダーシップ支援経費	0	809,000	△809,000
共同利用機器リユース等経費	0	10,000,000	△10,000,000
研究マネジメント改革経費	0	12,000,000	△12,000,000
収入合計（A）	155,608,000	181,755,150	△26,147,150

○支出

(単位：円)

事 項	予 算 額	決 算 額	差 異
施設運営費	87,100,000	87,009,297	90,703
動物実験施設	50,000,000	49,977,211	22,789
分子・構造解析施設	18,500,000	18,453,901	46,099
遺伝子実験施設	12,200,000	12,196,461	3,539
アイソトープ実験施設	6,400,000	6,381,724	18,276
非常勤職員経費	17,355,000	17,355,000	0
共通経費	23,653,000	16,982,591	6,670,409
キャンパス拠出	0	10,000,000	△10,000,000
借入金返済	5,500,000	5,500,000	0
業務達成基準適用業務	22,000,000	22,000,000	0
部局長リーダーシップ支援経費	0	808,500	△808,500
共同利用機器リユース等経費	0	10,000,000	△10,000,000
研究マネジメント改革経費	0	12,000,000	△12,000,000
支出合計（B）	155,608,000	181,655,388	△26,047,388
収支差額（A）－（B）	0	99,762	

※△印は予算比超過となる金額

3.2 委員会等報告

(1) 研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット会議

◎令和7年度

○第1回

日時：令和7年7月30日(水) 10時～10時45分

場所：共同利用研究棟6階 会議室

議題：＜審議事項＞

- ①令和6年度運営費決算案について
- ②令和7年度運営費当初予算案について

○第2回

月日：令和7年10月28日(火) (メール審議)

議題：＜審議事項＞

- ①研究推進機構協力研究員（生命科学先端研究支援ユニット）の委嘱について

○第3回

月日：令和8年2月13日(金) (メール審議)

議題：＜審議事項＞

- ①令和7年度ユニット利用研究員の受入について
- ②令和7年度ユニット利用料金の追加について
- ③研究推進機構協力研究員（生命科学先端研究支援ユニット）の委嘱について

○第4回

月日：令和8年2月26日(木) (メール審議)

議題：＜審議事項＞

- ①研究推進機構協力研究員（生命科学先端研究支援ユニット）の委嘱について

○第5回

日時：令和8年3月23日(月) 10時～10時23分

場所：共同利用研究棟6階 会議室

議題：＜審議事項＞

- ①令和8年度動物実験施設飼育室・実験室割振について
 - ②研究推進機構協力研究員（生命科学先端研究支援ユニット）の委嘱について
- ＜報告事項＞
- ①令和8年度非常勤職員雇用計画について
 - ②令和7年度ユニット運営費配分・執行状況等について

(2) 動物実験委員会

◎令和7年度

○第1回

日時：令和7年4月4日(金) 13時～13時18分

形式：Microsoft Teamsによるオンライン開催

議題：＜審議事項＞

- ①委員長の選出について
- ②飼養保管施設・実験室廃止時の現地確認の実施について
- ＜報告事項＞
- ①審査・承認済の動物実験計画書について

○第2回

月日：令和7年5月27日(火)～6月4日(水)（メール審議）

議題：＜審議事項＞

- ①令和7年度動物実験教育訓練について
- ②施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届様式の一部改定について
- ＜報告事項＞
- ①施設等廃止届について
- ②令和6年度第4回マウス・ラット微生物モニタリング検査について
- ③審査・承認済の動物実験計画書について

○第3回

月日：令和7年8月21日(木)～9月2日(火)（メール審議）

議題：＜審議事項＞

- ①「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」等の遵守状況に関する調査について
- ＜報告事項＞
- ①令和7年度動物実験教育訓練について
- ②令和7年度第1回マウス・ラット微生物モニタリング検査について

○第4回

日時：令和7年10月8日(水) 10時30分～11時40分

形式：Microsoft Teamsによるオンライン開催

議題：＜審議事項＞

- ①委員長及び副委員長の選出について
- ②英語による動物実験計画書申請の取扱いについて
- ③施設等の維持管理状況に係る定期査察の実施について
- ＜報告事項＞
- ①令和7年度第2回マウス・ラット微生物モニタリング検査について
- ②審査・承認済の動物実験計画書について
- ③その地

○第5回

月日：令和7年11月6日(木)～12日(水)（メール審議）

議題：＜審議事項＞

- ①令和8年度動物実験計画書の電子申請について
- ②飼養保管施設の設置承認申請について
- ＜報告事項＞
- ①審査・承認済の動物実験計画書について

○第6回

月日：令和8年1月19日(月)～26日(月)（メール審議）

議題：＜審議事項＞

①飼養保管施設及び実験室の設置承認申請について

②実験室の廃止について

＜報告事項＞

①令和7年度第3回マウス・ラット微生物モニタリング検査について

②審査・承認済の動物実験計画書について

(3) 遺伝子組換え生物等使用実験安全管理委員会

令和7年度は不開催。

(4) 杉谷キャンパス放射線管理委員会

◎令和7年度

○第1回

日時：令和7年4月22日(火) 10時～10時22分

場所：図書館1階 会議室

議題：＜審議事項＞

①委員長の選出について

＜報告事項＞

①放射線取扱主任者の定期講習受講状況について

②エックス線業務従事者及び取扱者の登録状況について

○第2回

月日：令和8年2月18日(水)～25日(水)（メール審議）

議題：＜報告事項＞

①令和6年度放射線管理状況報告書について

②令和7年度上期・下期核燃料物質管理報告書について

③生命科学先端研究支援ユニット放射線取扱主任者の選任及び解任について

○第3回

月日：令和8年3月16日(月)～23日(月)（メール審議）

議題：＜報告事項＞

①エックス線装置の廃止について

(5) 生命科学先端研究支援ユニット月例検討会

◎令和7年度

○第1回

日時：令和7年4月3日(木) 13時30分～14時5分

場所：医薬イノベーションセンター1階 大会議室

内容：①各施設運営費等について

②その他

・設備整備マスタープランについて

○第2回

日時：令和7年5月8日(木) 13時30分～13時55分

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

○第3回

日時：令和7年6月5日(木) 13時30分～13時55分

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

○第4回

日時：令和7年7月3日(木) 13時30分～14時15分

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

②その他

・ディープフリーザーの更新について

○第5回

日時：令和7年9月4日(木) 13時30分～14時

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

②その他

・入退館認証用ICカードの案内について

○第6回

日時：令和7年10月2日(木) 13時30分～14時

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

②その他

・令和8年度役務契約の依頼等について

○第7回

日時：令和7年11月6日(木) 13時30分～14時

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

②その他

・経理第二課からの案内について

○第8回

日時：令和7年12月4日(木) 13時30分～14時

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

②その他

・令和7年度ユニット運営費の配分・執行状況について

○第9回

日時：令和8年1月8日(木) 13時30分～14時10分

場所：医薬イノベーションセンター1階 大会議室

内容：①各施設の業務報告等について

②その他

- ・令和7年度ユニット運営費の配分・執行状況等について
- ・研究設備を活用した教育研究支援事業について

○第10回

日時：令和8年2月10日(火) 13時30分～14時

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

②その他

- ・令和8年度月例検討会日程案等について

○第11回

日時：令和8年3月5日(木) 13時～13時45分

場所：共同利用研究棟6階 会議室

内容：①各施設の業務報告等について

②その他

- ・整備予定設備の概要について

4 機器

4.1 新設機器

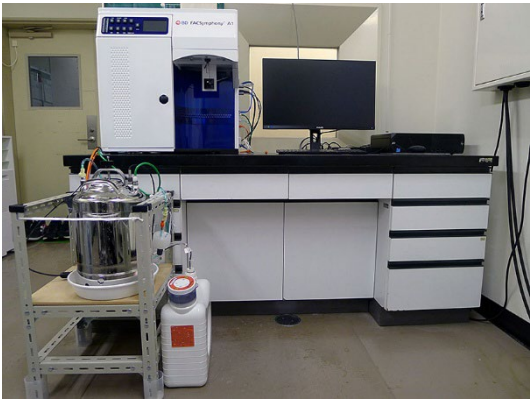
4.1.1 動物実験施設

◎対面式チェンジングステーション

設置場所	3階 311 マウス飼育室		
型 式	日本クレア株式会社 特型		
仕 様	本体材質	SUS304製	
	外寸法	W1200×D650×H1800 mm	
	作業面高さ	H820～1200 mmに可変	
	フィルタ	装置上部：給気用プレフィルタ及びHEPAフィルタ 装置下部：排気用HEPAフィルタ	
	電源	100 V, LED照明	

4.1.2 分子・構造解析施設

◎自動細胞分析装置

設置場所	共同利用研究棟 2階 細胞分析室(1)		
型 式	ベクトン・ディッキンソン社 FACSymphony A1フローサイトメーター		
仕 様	レーザー光波長	405 nm, 488 nm, 561 nm, 637 nm	
	レーザー出力	各100 mW	
	検出項目	散乱光：FSC, SSC, SP SSC 蛍光：16カラー	

(仕 様)	検出感度	FSC, SSC : ノイズから固定した血小板を分離可能 蛍光 : 【FITC】 60 MESF, 【PE】 15 MESF, 【APC】 20 MESF
	検出分解能	SSC : ノイズから0.3 μm 外径ビーズを分離可能 SP SSC : ノイズから90 nmのポリスチレンビーズを分離可能
	サンプリングレート	Low : 12 $\mu\text{L}/\text{min}$ Med : 35 $\mu\text{L}/\text{min}$ High : 60 $\mu\text{L}/\text{min}$ ※調節可
	制御・解析ソフトウェア	BD FACSDiva (ver.9)

◎クライオスタット

設置場所	和漢医薬学総合研究所棟 2 階 共用機器室(1)		
型 式	ライカマイクロシステムズ株式会社 CM3050S IV		
仕 様	設定厚調整	0.5 ~ 300 μm	
	最大試料サイズ	40 × 55 mm	
	切削速度	0.1 ~ 210 mm/sec	
	試料水平送り	25 mm	
	試料垂直移動	59 mm	
	凍結チャンバー温度	-40°C	

4.1.3 遺伝子実験施設

◎微量分光光度計

設置場所	2 階 測定機器室
型 式	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 NanoDrop Ultra

仕 様	測定波長範囲	190～850 nm	
	必要サンプル量	最小1 μL	
	測定及びデータ処理時間	7 秒以下	
	吸光度測定範囲	0.02～550Abs (10 mm換算)	
	測定対象	核酸・タンパク質等の微量試料	

4.1.4 アイソトープ実験施設

◎液体シンチレーションカウンタ

設置場所	2階 測定室		
型 式	アロカ株式会社 AccuFLEX LSC-8000		
仕 様	分析方法	4,000chマルチチャンネルアナライザーの自動ゲイン切り替えによる極・高分解能スペクトル分析	
	計数効率	^3H : 60%以上 ^{14}C : 95%以上	
	測定エネルギー範囲	0～2,000 keV	
	分解能	^3H : 0.005 keV/ch ^{14}C : 0.05 keV/ch	
	クエンチング補正法	レベルメソッド法 (ESCR, SCCR)	
	サンプル数	ミニバイアル : 408本 20 mL標準バイアル : 408本	

4.2 設置機器

4.2.1 動物実験施設

階数	設置場所	機器名	型式	台数	備考
1 階	122 組織解剖室	炭酸ガス培養器	アステック APC-30DR	1	
		実体顕微鏡	オリンパス SZX16	1	
		ホットプレート	アズワン HP-4530N	1	
		サーモプレート	東海ヒット TPiD-SZX2DX	1	
		電子天秤	オーハウス SPX123JPS-P	1	
		ドラフトチャンバー	オリエンタル技研 TNG-ST-2400-SU	1	
		冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	
		冷凍庫	サンヨー MDF-U536	1	
	141 中動物手術室(2)	無影灯	山田医療照明 U60EL	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
		冷却機	セントラル科学 バイオクールⅢ	1	
		超低温フリーザー	PHC MDF-DU502VH-PJ	1	
		倒立顕微鏡	カールツァイス Axiovert 135	1	
	151 中動物手術室(1)	動物用恒温手術台	夏目製作所 KN-304B	1	
		動物天秤 (10～100kg)	TTM	1	
		ドライケムアナライザー	富士フイルムメディカル FDC4000i	1	
	154 ウサギ・モルモット処置室	動物天秤 (40g～1kg)	夏目製作所	1	
		押田式ウサギ保定器	夏目製作所	1	
		動物天秤 (6kg)	シナノ製作所	1	
	教員研究室(1)	安全キャビネット	サーモフィッシャー model1323	1	
	教員研究室(2)	マイクロフォージ	グラスワークス F-1200	1	
		マイクロプーラー	サッター P-1000PT	1	
		サーモプレート	東海ヒット TPiD-SZX2DX	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
1 階	(教員研究室(2))	遺伝子導入装置	ベックス CUY21EDIT II	1	
		電動マイクロマニピュレーター	エッペンドルフ TransferMan	1	
		実体顕微鏡	オリンパス SZX16	1	
		遠心機	イワキ CFM-100	1	
	検疫・検査室	遠心機	イワキ CFM-100	1	
	準備室	超低温フリーザー	PHC MDF-DC202VH-PJ	1	新設
2 階	211 胚操作室(2)	実体顕微鏡	オリンパス SZX9	1	
		実体顕微鏡	ニコン SMZ745	1	
		ホットプレート	アズワン HP-4530N	2	
		炭酸ガス培養器	アステック APC-50D	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	2	
	212 マウス実験室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	212 マウス代謝実験室	小動物用代謝計測システム	室町機械 MK-5000RQ	1	利用講座 等で管理
	213 マウス実験室	冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	
	214 マウス手術室(1)	冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	
		クリーンベンチ	日立	1	
	216 前室	非観血血圧測定装置	ソフトロン BP-98A-L	1	予約制
		動物実験用レーザー血流計	室町機械 ALF21N	1	予約制
	216 MRI 装置室	小動物用MRI装置	MRT MRmini SA <データ処理部> 日本レドックス JXI-MRI-CON01A <検出部> 日本レドックス XI-MRI-PAS01P	1	予約制
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	216 In Vivoイメージ ング室	小動物in vivo光イメージ ング装置	レビティ IVIS Lumina LT	1	予約制
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	216 X線室	X線照射装置	日立パワーソリューションズ MBR-1618R-BE	1	予約制
	221 マウス実験室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	224 マウス光遺伝学 実験室	冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
2 階	232 マウス脳科学実験室（前室）	冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	
	233 飼料庫	冷凍庫	日本フリーザー GS-5210HC	1	
	236 感染実験室(1) (小動物実験室)	超低温フリーザー	PHC MDF-DU300H	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
		小動物感染用ラック	日本医化器械製作所 AH型	2	
	236 感染実験室(1) (中動物実験室)	安全キャビネット	日本医化器械製作所 VH-1303BH-2A2	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
		動物天秤(400g～10kg)	夏目製作所	1	
		冷蔵庫	東芝 GR-117	1	
	241 コンベ用マウス・ラット飼育室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	243 中動物行動実験室	手術台	トキワ科学 T-653-D	1	
		冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	
	245 ラット実験室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	246 小動物検疫室(2) (前室)	オートクレーブ	サンヨー MLS-3750	1	
	246 小動物検疫室(2)	バイオクリーンカプセルユニット	トキワ科学 T-BCC-R	1	
		安全キャビネット	日立 SCV-1303EC II A	1	
3 階	251 サル処置室	動物天秤（10～100kg）	田中衡機工業所	1	
	253 MRI 室	中動物用MRI	エサオテ E-scan XQ	1	予約制
	311 マウス飼育室	対面式チェンジングステーション	日本クレア 特型	1	新設
	311 マウス手術室(2)	マイクロフォージ	ナリシゲ MF-900	1	
		マイクロプーラー	ナリシゲ PN-30	1	
		研磨器	ナリシゲ EG-44	1	
	312 マウス実験室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
		冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
3 階	314 マウス飼育室 (前室)	冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	
	314-A マウス飼育室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	321 マウス実験室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	321-A マウス飼育室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	322 マウス飼育室 (前室)	冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	
	322 マウス手術室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	323 マウス飼育室	対面式チェンジングステーション	日本クレア 特型	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	323 マウス実験室	安全キャビネット	日立 SCV CLASS II A	1	
	324 マウス実験室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	331 胚操作室	炭酸ガス培養器	アステック APC-30DR-Z	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
		ホットプレート	日伸理化 NHP-45N	1	
		実体顕微鏡	ニコン SMZ645	1	
		実体顕微鏡	オリンパス SZX12	1	
		加湿器	山善 KSF-N15C	2	
		冷凍冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	
	332 飼料庫	冷凍庫	日本フリーザー GS-5210HC	1	
	333 前室	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	334 ケージ倉庫	ハイクロソフト水生成装置	OSGコーポレーション NDX-50KMN	1	
	335 実験室	安全キャビネット	サーモフィッシャー model1323	1	
		ドラフトチャンバー	興研 ラミナーテーブルHD-01	1	
	336 マウス飼育室	動物用個別飼育装置	日本医化器械製作所 LP-30LED-8CTAR	2	
	341 飼料室(6)	冷蔵庫	パナソニック NR-B145W	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
3 階	342 マウス飼育室 (前室)	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
		炭酸ガス培養器	アステック APC-30DR	1	
	343 マウス飼育室 (前室)	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	344 マウス飼育室 (前室)	オートクレーブ	サンヨー MLS-3750	1	
	344 マウス飼育室	安全キャビネット	日立 SCV EC II A	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	345 マウス飼育室 (前室)	安全キャビネット	日立 SCV EC II A	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	346 マウス飼育室 (前室)	安全キャビネット	日立 SCV EC II A	1	
		電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	346 マウス飼育室	対面式チェンジングステーション	日本クレア 特型	1	
	347 マウス飼育室 (前室)	電子天秤	島津 EB-430S	1	
		卓上小型遠心機	クボタ 2010	1	
	348 マウス飼育室 (前室)	電子天秤	エー・アンド・ディ GF-2000	1	
	ラウンジ	クリーンブース	日本エアーテック MAC-II A-150	1	
		ハイクロソフト水生成装置	OSGコーポレーション NDX-65KM-H	1	

<備考>

「予約制」：生命科学先端研究支援ユニット機器予約システムで予約が必要な機器

「新設」：令和7年度に設置した機器

4.2.2 分子・構造解析施設

◎共同利用研究棟

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
2 階	標本作成室	滑走式ミクロトーム	大和光機 REM-710	1	
		イオンコーター	エイコー IB3	1	
		イオンスパッター	日立 E-1030	1	
		臨界点乾燥器	日本電子 JCPD-5	1	
		マイクロウェーブ処理装置	EMS 820S	1	
		ガラスナイフ作成機	LKB 7800	1	
		実体顕微鏡	ニコン SMZ	1	
		超音波洗浄器	海上電気 Sono-Cleaner 100	1	
		上皿電子天秤	メトラー AJ100	1	
		凍結切断器	RMC社 TF-2	1	
	電顕室(1)	卓上低真空走査電子顕微鏡	日立 Miniscope TM-1000	1	予約制
		凍結置換装置	ライヘルト AFS	1	
		走査プローブ顕微鏡	SIIナノテクノロジー SPA-400	1	予約制
	電顕室(2)	高分解能透過電子顕微鏡	日本電子 JEM-1400TC	1	予約制
	精密質量分析室(2)	フーリエ変換型質量分析装置	サーモフィッシャーサイエンティフィック LTQ Orbitrap XL ETD	1	予約制
	超ミクロトーム室	実体顕微鏡	ニコン SMZ-10	1	
		樹脂包埋用恒温槽	DSK T-75	1	
		真空蒸着装置	日立 HUS-5GB	1	
		超ミクロトーム	ライヘルト ウルトラカットE	1	
		超ミクロトーム	ライヘルト ウルトラカットOmU4	1	
	暗室	引伸器	アサヒダースト L-1200	1	
	NMR測定室(1)	超伝導FT核磁気共鳴装置	日本電子 JNM-ECA500 II	1	予約制
	NMR測定室(2)	超伝導FT核磁気共鳴装置	日本電子 JNM-ECZL500R	1	予約制
	顕微鏡室	タイムラプスイメージングシステム	カールツァイス Cell Observer	1	予約制

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
2 階	細胞分析室(1)	自動細胞分析装置	BD FACSsymphony A1	1	新設 予約制
		自動細胞分取分析装置	BD FACSaria SORP	1	予約制
	細胞分析室(2)	自動細胞分析装置	BD FACSCelesta	1	予約制
		FACSデータ解析ソフト	BD FlowJo	1	予約制
		リアルタイム細胞解析装置	ロシュ xCELLigence RTCA DP	1	予約制
	精密質量分析室(1)	フーリエ変換型質量分析装置	サーモフィッシャーサイエンティ フィック Q Exactive Plus	1	予約制
	分光分析室(1)	円二色性分散計	日本分光 J-805	1	予約制
		施光計	日本分光 P-2100	1	予約制
		フーリエ変換赤外分光光度計	日本分光 FT/IR-4XST	1	予約制
	分光分析室(2)	C末端ペプチド分取装置	島津 CTFF-1	1	
		ペプチド合成装置	島津 PSSM-8	1	予約制
		微量電子天秤	アーンストハンセン HR-182	1	
		瞬間測光分光光度計	ベックマン DU-7500	1	
		蛍光分光光度計	日本分光 FP-8550	1	予約制
		遺伝子情報処理ソフトウェア	ゼネティックス GENETYX	1	登録制
		マイクロプレートルミノメーター	ダイアヤトロン Luminous CT9000	1	
		シングルチューブルミノメーター	ベルトールド Lumat LB9507	1	予約制
	蛋白質構造解析室	高速液体クロマトグラフ	島津 LC-10A	1	予約制
		等温滴定型カロリーメーター	GEヘルスケア MicroCal iTC200	1	予約制
		表面プラズモン共鳴検出装置	GEヘルスケア Biacore T200	1	予約制
3 階	元素分析室	全自動元素分析装置	サーモエレクトロン FlashEA 1112	1	受託限定
	細胞培養室	イムノウォッシャー	インターメッド NK-300	1	
		マルチファンクションマイクロプレートリーダー	テカン GENios	1	予約制
		マルチモードマイクロプレートリーダー	モレキュラーデバイス FilterMax F5	1	予約制

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
3 階	(細胞培養室)	微量冷却遠心機	トミー MX-305	1	
		クリーンベンチ	日立 PCV1303BRG3	1	予約制
		安全キャビネット	日立 SCV1303ECⅡA	1	予約制
		分取電気泳動装置	バイオ・ラド 2128システム	1	
		二次元電気泳動装置	アナテック クールフォレスター	1	予約制
		二次元電気泳動装置	ファルマシア Phast System	1	
		二次元電気泳動ゲルピッカー	アナテック FluoroPhoreStar 3000	1	
		電気泳動画像解析システム	シマヅバイオテック Progenesis	1	
		恒温水槽	タイテック SM05	1	
		卓上多本架遠心機	クボタ KN-70	1	
		細胞外代謝解析装置	アジレント XFe24	1	予約制
	フラン器室	炭酸ガス培養器	エスベック BNP-110M	1	登録制
		遺伝子導入装置	バイオ・ラド ジーンパルサー	1	
		細胞融合装置	理工化学 EFC 2001	1	
		生細胞観察システム	カールツァイス Axiovert 135	1	予約制
		細胞動態解析装置	GEヘルスケア EZ-TAXIScan	1	予約制
	超遠心機室	分離用超遠心機	ベックマン Optima XL80	1	予約制
		分離用超遠心機	ベックマン Optima L70	1	予約制
		卓上型超遠心機	ベックマン Optima MAX-TL	1	予約制
		高速冷却遠心機	ベックマン J2-MI	1	予約制
		高速冷却遠心機	ベックマン Avanti HP-26XP	1	予約制
		微量冷却遠心機	トミー MX-300	1	
		ホモジナイザー	キネマチカ PT20SKR	1	
		超音波破碎機	アストラソン XL2020	1	予約制
		圧力式細胞破碎機	サーモエレクトロン フレンチプレス	1	予約制

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
3 階	(超遠心機室)	多検体細胞破碎機	安井器械 MB3200(S)	1	予約制
		遠心濃縮機	サーバント SC-110A	1	
		バキュームオーブン	アドバンテック VO-320	1	
		恒温冷却振盪水槽	タイテック ML-10F	1	予約制
		オートクレーブ	トミー LBS-325	1	予約制
		安全キャビネット	日立 SCV1303ECⅡA	1	予約制
		紫外可視分光光度計	島津 UV160A	1	予約制
		上皿電子天秤	アーンストハンセン HL-3200	1	
	恒温室	旋回振とう機	タイテック NR-20	2	予約制
		旋回振とう機	和研薬 イノーバ2100	1	予約制
		旋回往復振とう機	タイテック NR-300	1	予約制
		旋回振とう機	タイテック NR-150	2	予約制
	低温実験室	超純水製造装置	ヤマト EQP-3SB	1	
		純水製造装置	メルク Millipore Elix Essential 5	1	
		超低温フリーザー	PHC MDF-DU702VH-PJ	2	新設 登録制
		超低温フリーザー	PHC MDF-DU502VH-PJ	1	新設 緊急用
4 階	画像解析室	蛍光顕微鏡	オリンパス BX61/DP74	1	予約制
		大判プリンタ	キヤノン imagePROGRAF PRO-4100S	2	予約制
		画像解析コンピュータ	マウス LUV	2	予約制
		フラットベッドスキャナ	キヤノン CanoScan9950F	1	

◎和漢医薬学総合研究所棟

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
2 階	共用機器室(1)	オールインワン蛍光顕微鏡	キーエンス BZ-X800	1	予約制
		クライオスタット	ライカ CM3050S IV	2	新設 予約制
	共用機器室(2)	飛行時間型質量分析装置	日本電子 JMS-S3000 SpiralTOF-plus 3.0	1	予約制

◎薬学部研究棟

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
3 階	液体窒素取出室	液体窒素貯蔵・取出システム	ダイヤ冷機 DTL-B-3	1	

<備考>

「予約制」：生命科学先端研究支援ユニット機器予約システムで予約が必要な機器

「登録制」：事前に利用登録が必要な機器

「受託限定」：ユニット職員が委託を受けて試料を測定する機器

「新設」：令和7年度に設置した機器

4.2.3 遺伝子実験施設

階数	設置場所	機器名	型式	台数	備考
1 階	細胞培養室	クリーンベンチ	日立 PCV-845BRG3	1	
		安全キャビネット	日立 SCV-805EC II AB	1	
		安全キャビネット	日立 SCV-1903EC II A	1	
		炭酸ガス培養器	ナプコ 5420	1	
		卓上多本架遠心機	クボタ KN-70	1	
		倒立顕微鏡	オリンパス CK2-BIC-2	1	
	DNA調製室	超低温フリーザー	PHC MDF-DU 300H	1	新設
		シングルセル解析装置	BD Rhapsody	1	予約制
		卓上多本架遠心機	トミー LC06SP	1	
		遠心機	クボタ 3520	1	
		倒立顕微鏡	オリンパス CK2-TRC-2	1	
	生化学実験室	恒温器	ヤマト科学 IC-600	1	
2 階	滅菌消毒室	高圧蒸気滅菌装置	サクラ ST-2	1	
		オートクレーブ	トミー BS-325	1	
		乾熱滅菌器	サンヨー MOV-212S	1	
		製氷器	サンヨー SIM-F140A	1	
	遺伝子発現解析室	GeneChip解析システム	アフィメトリクス 72-DM00-10	1	予約制
		パーソナルコンピュータ (GeneChip解析ソフト用)	HP ProDesk600 G4 SFF	1	予約制 登録制
		パーソナルコンピュータ (シーケンサー解析用)	HP ProDesk600 G4 SFF	1	予約制
		マイクロ冷却遠心機	クボタ 3520	1	新設
		マイクロチップ型電気泳動 装置	アジレント 2100バイオアナライザ	1	予約制
		全自動電気泳動システム	アジレント 4150 TapeStation System	1	予約制
	感染動物飼育室	小動物感染用ラック	日本クレア XL-5608-2	2	
	感染動物実験室	安全キャビネット	日立 SCV-1303EC II A	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
2 階	(感染動物実験室)	安全キャビネット	日立 SCV-804EC II B	1	
		ペンレコーダー	NEC三栄 8K-21	1	
		脳定位固定装置	成茂科学 SR-6N	1	
		DATデータレコーダー	ティアック RD-135T	1	
		除震台	成茂科学 BP-2	1	
		シールドボックス	成茂科学 RM-1	1	
	測定機器室	リアルタイムPCRシステム	ライフテクノロジーズ StepOnePlus	1	予約制
		リアルタイムPCRシステム	アジレント AriaMx	1	予約制
		リアルタイムPCRシステム	バイオ・ラッド CFX Connect	2	予約制
		リアルタイムPCRシステム	サーモフィッシャーサイエンティ フィック QuantStudio 3	1	予約制
		PCRサーマルサイクラー	タカラ Dice Gradient	1	予約制
		PCRサーマルサイクラー	ABI System9700	1	予約制
		PCRサーマルサイクラー	ライフテクノロジー ABI Veriti	2	予約制
		微量分光光度計	サーモフィッシャーサイエンティ フィック NanoDrop Ultra	1	新設
		極微量分光光度計	サーモフィッシャーサイエンティ フィック NanoDrop One	1	予約制
		遠心式濃縮機	タイテック VC-36N	1	
		インフラレッドイメージン グシステム	LI-COR Odyssey	1	予約制
		ルミノ・イメージアナライザー	フジフイルム LAS-4000	1	予約制
		ChemiDoc イメージングシス テム	バイオ・ラッド ChemiDoc Touch MP	1	予約制
	遺伝子構造解析室	DNAシーケンサー	ABI PRISM3130	1	予約制 登録制
		DNAシーケンサー	ABI PRISM3500	1	予約制 登録制
		デジタルPCRシステム	サーモフィッシャーサイエンティ フィック QuantStudio AbsoluteQ	1	予約制
		DNA断片化装置	コバリス Covaris S2	2	予約制
		マイクロ冷却遠心機	クボタ 3500	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
2 階	(遺伝子構造解析室)	マルチモードプレートリーダー	モレキュラーデバイス SpectraMax i3	1	予約制
		pH メーター	メトラートレド S220	1	
		超音波洗浄器	アズワン ASU-2	1	
		超純水製造装置	セナアンドバーンズ Option R7B, Flex-UV	1	
		ワークステーション (顕微鏡画像解析ソフト用)	HP Z2 SFF G1iA99ZV AV-AF1K	1	新設 予約制
3 階	遺伝子機能解析室(1)	共焦点レーザー顕微鏡	カールツァイス LSM700	1	予約制 登録制
		共焦点レーザー顕微鏡	カールツァイス LSM900	1	予約制 登録制
	遺伝子機能解析室(2)	共焦点レーザー顕微鏡	カールツァイス LSM780	1	予約制 登録制
		高解像度イメージングシステム	GEヘルスケア DeltaVision Elite	1	予約制
	植物実験室	安全キャビネット	日立 SCV-1303EC II A	1	
		オートクレーブ	トミー BS-325	1	
		分離用超遠心機	日立 CP80 α	1	予約制
		高速冷却遠心機	日立 CR21E	1	
		恒温振とう培養器	タイテック BR-43FL	1	予約制
		恒温振とう培養器	ニューブランズウィック 4330	1	予約制
		遺伝子導入装置	バイオ・ラド GenePulserII	1	
		遺伝子導入装置	バイオ・ラド E.coliPulser	1	
		遺伝子導入システム	ロンザ 4D-Nucleofector	1	予約制
		ウェスタンブロットイメー ジングシステム	LI-COR C-DiGit	1	予約制
		密閉式超音波細胞破碎装置	コスモバイオ Bioruptor	1	
		卓上型 2 周波超音波洗浄器	井内盛栄堂 VS-100D	1	
		レーザーマイクロダイセク ションシステム	カールツァイス PALM MicroBeam	1	予約制
	人工気象室	蛍光顕微鏡	オリンパス BX50-34LFA-1	1	予約制
		顕微鏡用デジタルカメラ	オリンパス DP74	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
3 階	低温室（前室）	超音波発生器	トミー UD-200	1	
		ゲル撮影装置	アトー プリントグラフGX	1	
	低温室	ホモジナイザー用攪拌機	井内盛栄堂 55-4039-01	1	
		振とう機	タイテック NR-1	2	
		凍結保存容器	太陽東洋酸素	1	
		液体窒素容器	東京理化工械	1	
	教員実験室(1)	微量高速冷却遠心機	日立 CT13R	1	
		卓上多本架遠心機	クボタ KN-70	1	
		倒立顕微鏡	オリンパス CK2-TRC2	1	
		炭酸ガス培養器	サンヨー MCO-345	2	
		インキュベーター	ヤマト IC400	1	
		純水製造装置	エルガ PURELAB OPTION	1	
	暗室	レシオ/FRET/発光イメージグシステム	浜松ホトニクス HC Image Acquisition	1	予約制
		炭酸ガス培養器	PHC MCO-50AIC-PJ	1	
	教員実験室(2)	低速冷却遠心機	クボタ 8800	1	
		微量高速冷却遠心機	日立 CT13R	1	
		超低温フリーザー	サンヨー MDF-293AT	1	
	ベクター調製室	安全キャビネット	日立 SCV-1304ECⅡB	1	
		微量高速冷却遠心機	日立 CT13R	1	
		卓上多本架遠心機	クボタ KN-70	1	
		炭酸ガス培養器	ナプコ 5400	1	
		実体顕微鏡	オリンパス SZ6045	1	
		培養顕微鏡	オリンパス CK30-11PHP	1	
		超低温フリーザー	PHC MDF-DC202VH	1	新設
	形質転換実験室	安全キャビネット	日立 SCV-1303ECⅡB	2	
		炭酸ガス培養器	ナプコ 5400	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
3 階	(形質転換実験室)	培養顕微鏡	オリンパス CKX31	1	
		倒立顕微鏡	オリンパス CK2-TRC-2	1	
		倒立顕微鏡	オリンパス IX50-11PH	1	
		微量高速冷却遠心機	日立 CT13R	1	
		卓上多本架遠心機	クボタ KN-70	1	
		乾熱滅菌器	サンヨー MOV-212S	1	
		発光イメージングシステム	オリンパス LV200	1	
		オートクレーブ	トミー BS-325	1	
	形質転換実験室 (前室)	恒温振とう培養器	タイテック BR-40LF	1	

<備考>

「予約制」：生命科学先端研究支援ユニット機器予約システムで予約が必要な機器

「登録制」：事前に利用登録が必要な機器

「新設」：令和7年度に設置した機器

4.2.4 アイソトープ実験施設

階数	設置場所	機器名	型式	台数	備考
1 階	汚染検査室	GMサーベイメータ	アロカ TGS-121	1	
		GMサーベイメータ	アロカ TGS-136	3	
		GMサーベイメータ	アロカ TGS-146	2	
		シンチレーションサーベイメータ	アロカ TCS-161	1	
		β 線用ラギッドシンチレーションサーベイメータ	日立 TCS-1319H	1	
		ハンドフットクロスモニタ	アロカ MBR-51	1	
		ハンドフットクロスモニタ	アロカ MBR-53	1	
	洗浄室	製氷機	ホシザキ電機 FM-120K	1	
		全自動バイアル瓶洗浄装置	ワカイダ ROBO CLEAN-400	1	
		超純水製造装置	ミリポア milliQ direct8	1	
		オートクレーブ	平山製作所 HVE-25	1	
		器具乾燥機	サンヨー MOV-202	1	
		超音波洗浄機	ブランソニック 52	1	
	安全管理室	$^3\text{H}/^{14}\text{C}$ サーベイメータ	日立 TPS-313	1	
		恒温振とう培養器	タイテック BR-40LF	1	
		ハンディアスピレーター	井内 A-2S	1	
		シンチレーションサーベイメータ	日本レイテック TCS-1172	1	
	RI保管室	薬用保冷库	PHC MPR-N450FH-PJ	1	
		バイオメディカルフリーザー	PHC MDF-MU539H-PJ	1	
		超低温フリーザー	日本フリーザー VT-78HC	1	新設
		耐火性鉛貯蔵庫	キリー工業 AZ-301	1	
		耐火性鉛貯蔵庫	キリー工業 AZ-302	6	
	動物処理室	動物乾燥処理装置	ワカイダ WINDY2000	1	予約制
		低温フリーザー	サンヨー MDF-U338	1	
	学生測定室	シンチレーション測定装置	アロカ TDC-521B, NDW-451F	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
1 階	(学生測定室)	シンチレーション測定装置	アロカ TDC-521, NDW-451F	1	
	学生実習室	GM測定装置	アロカ TDC-105	2	
		GM測定装置	アロカ TDC-105B	2	
		卓上遠心機	クボタ KA-1000A	1	
		多本架低速冷却遠心機	トミー RLX-131	1	
		卓上型振とう恒温槽	タイテック パーソナル11EX	2	
		薬用保冷库	サンヨー MPR-414F	1	
	実習準備室	オークリッジ型フード	ダルトン DFC80-SB12-AA0T	1	
		電離箱サーベイメータ	アロカ ICS-331B	1	
2 階	細胞実験室(1)	オークリッジ型フード	ダルトン DFC80-SB15-AA0T	1	
		クリーンベンチ	日立 PCV-1913ARG3	1	
		炭酸ガス培養器	PHC MCO-170AIC-PJ	1	
		薬用保冷库	サンヨー MPR-414F	1	
		低温フリーザー	パナソニック MDF-MU300H	1	
		超低温フリーザー	日本フリーザー VT-78HC	1	新設
		液体クロマトグラフ	エイコム ENO-20/ECD-300	1	予約制
		フラクションコレクター	バイオ・ラド BioFrac	1	予約制
		培養倒立顕微鏡	ニコン エクリプスTS100LED	1	
		振とう恒温槽	タイテック ML-10F	1	予約制
		高速冷却遠心機	トミー SRX-201	1	
		パワーブロックシェーカー	アトー WSC-2630	1	予約制
		定温乾燥機	アドバンテック東洋 FS-620	1	
		電子天秤	メトラートレド AB135-S/FACT	1	
		pHメーター	メトラートレド S220	1	
		恒温振とう培養機	タイテック BR-53FP	1	
	遺伝子実験室(1)	オークリッジ型フード	ダルトン DFC80-SB15-AA0T	1	
		薬用保冷库	サンヨー MPR-411F	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
2 階	(遺伝子実験室(1))	凍結マイクローム	ライカ CM1510S	1	
		ゲル乾燥機	バイオ・ラッド モデル583	1	
		アルミブロック恒温槽	タイテック DTU-1C	1	
		振とう機	タイテック NR-3	1	予約制
		振とう機	タイテック NR-30	1	予約制
	前室	IP用シールドボックス	フジフィルム BAS-SHB2040	1	
	暗室	トランスイルミネーター	ビルバールマット TFX20CM	1	
	教員実験室	薬用保冷庫	パナソニック MPR-414FS	1	
		卓上小型振とう機	タイテック Wave-PR	1	
		小型回転培養器	タイテック RT-50	1	
		ベーシック天秤	ザルトリウス ENTRISII BCE653I-1SJP	1	
	遺伝子実験室(2)	クリーンベンチ	日立 PCV-845BRG3	1	
		炭酸ガス培養器	パナソニック MCO-170AICUV-PJ	1	
		薬用保冷庫	サンヨー MPR-411FS	1	
		インキュベートボックス	タイテック M-230F	1	予約制
		ゲル乾燥機	バイオ・ラッド モデル583	1	
		微量高速冷却遠心機	トミー Kitman-18	1	
		高速冷却遠心機	クボタ 6900	1	
		低温恒温槽	タイテック EL-8F	1	予約制
		ダブルビーム分光光度計	日立 U-2001	1	
		電子天秤	ザルトリウス BP160P	1	
		ハイブリダイゼーションオープン	タイテック HB	1	予約制
		恒温槽	タイテック HB-80	1	予約制
	細胞実験室(2)	オークリッジ型フード	ダルトン DFC80-SB15-AA0T	1	
		クリーンベンチ	日立 PCV-1303ARG3	1	
		炭酸ガス培養器	パナソニック MCO-170AIC	1	

階数	設 置 場 所	機 器 名	型 式	台数	備 考
2 階	(細胞実験室(2))	セルハーベスター	パッカード FILTERMATE196	1	
		薬用保冷库	サンヨー MPR-414F	1	
	測定室	液体シンチレーションカウンタ	アロカ AccuFLEX LSC-7400	1	予約制
		液体シンチレーションカウンタ	アロカ AccuFLEX LSC-8000	1	新設 予約制
		マイクロプレートシンチレーション／ルミネッセンスカウンタ	パッカード トップカウント	1	予約制
	画像解析室	バイオイメージングアナライザー	GEヘルスケア Typhoon FLA-9500	1	予約制
		オートウエルガンマカウンタ	日立 AccuFLEX γ 8001	1	予約制
		マルチラベルプレートリーダー	パーキンエルマー ARVOX3	1	予約制
	薬物動態実験室	オークリッジ型フード	ダルトン DFC80-SB15-AA0T	1	
		薬用保冷库	サンヨー MPR-414F	1	
		アルミブロック恒温槽	タイテック DTU-2C	1	
	分子イメージング室	クリーンベンチ	日立 PCV-1303ARG3	1	
		安全キャビネット	日立 SCV-1303ECⅡA	1	
		炭酸ガス培養器	PHC MCO-170AIC-PJ	1	
		薬用保冷库	サンヨー MPR-414F	1	
		オートクレーブ	平山製作所 HA-240MⅡ	1	
		器具乾燥機	サンヨー MOV-202	1	
	実験動物室	オークリッジ型フード	ダルトン DFC80-SB15-AA0T	1	
		振動刃ミクロトーム	ライカ VT1200S	1	予約制
		電子天秤	ザルトリウス R160D	1	
		微量高速冷却遠心機	トミー MRX-151	1	
		薬用保冷库	PHC MPR-N250FH-PJ	1	
	動物飼育室(2)	動物飼育ラック	セオービット KE-2450-6	1	予約制
		オートクレーブ	トミー BS-325	1	

<備考>

「予約制」：生命科学先端研究支援ユニット機器予約システムで予約が必要な機器

「新設」：令和7年度に設置した機器

5 参考資料

5.1 内規

(1) ユニット内規

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット内規

平成27年4月1日制定

平成29年7月28日改正

令和元年9月30日改正

令和元年12月27日改正

令和5年3月29日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学研究推進機構規則（以下「規則」という。）第6条第3項の規定に基づき、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット（以下「ユニット」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(教育研究支援施設)

第2条 ユニットに、規則第6条第2項第2号の規定に基づき、次に掲げる教育研究支援施設を置く。

- (1) 動物実験施設
- (2) 分子・構造解析施設
- (3) 遺伝子実験施設
- (4) アイソトープ実験施設

(職員)

第3条 ユニットに、次に掲げる職員を置く。

- (1) ユニット長
- (2) ユニット長補佐
- (3) 施設長
- (4) 学術研究部医学系及び薬学・和漢系からユニットに主担当として配置される教員
- (5) その他必要な職員

(ユニット長補佐)

第4条 ユニット長補佐は、ユニット長を補佐し、次に掲げるユニットの担当業務を整理する。

- (1) 動物実験に関すること。
- (2) 分析機器に関すること。
- (3) 遺伝子実験に関すること。
- (4) 放射線管理に関すること。

2 ユニット長補佐の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任のユニット長補佐の任期は、前任者の残任期間とする。

- 3 ユニット長補佐は、本学の教授のうちから、富山大学研究推進機構長（以下「機構長」という。）が指名する者をもって充てる。

（施設長）

第5条 施設長は、ユニット長の指示により、第2条各号の施設の業務を処理する。

- 2 施設長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の施設長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 施設長は、本学の教員のうちから、機構長が指名する者をもって充てる。

（ユニット会議）

第6条 ユニットに、ユニットの運営に関する事項を審議するため、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット会議（以下「ユニット会議」という。）を置く。

- 2 ユニット会議に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第7条 ユニットの事務は、研究推進部研究振興課において処理する。

（雑則）

第8条 この内規に定めるもののほか、ユニットの運営に関し必要な事項は、ユニット会議の意見を聴いて、ユニット長が別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に指名されるユニット長補佐の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。
- 3 この内規の施行日前に、富山大学生命科学先端研究センター規則（平成17年10月1日制定）により選出された施設長の選考については、この内規により指名されたものとみなす。

附 則

この内規は、平成29年7月28日から施行する。

附 則

この内規は、令和元年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和2年1月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和5年4月1日から施行する。

(2) ユニット会議内規

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット会議内規

平成27年4月1日制定

平成29年7月28日改正

令和元年9月30日改正

令和元年12月27日改正

令和5年3月29日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット内規第6条第2項の規定に基づき、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット会議（以下「ユニット会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 ユニット会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) ユニットの運営の基本方針に関する事項
- (2) 機構会議に諮る案件に関する事項
- (3) その他ユニットの運営に関する必要な事項

(組織)

第3条 ユニット会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) ユニット長
 - (2) ユニット長補佐
 - (3) 施設長
 - (4) 学術研究部医学系及び薬学・和漢系からユニットに主担当として配置される教員
 - (5) 医学部及び薬学部から選出された教員 各2人
 - (6) 和漢医薬学総合研究所から選出された教員 1人
 - (7) 附属病院から選出された教員 1人
- 2 前項第5号から第7号までの委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 ユニット長は、ユニット会議を招集し、その議長となる。

- 2 議長に事故があるときは、あらかじめ議長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 ユニット会議は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 議長は、3分の1以上の委員から開催の要請があったときは、ユニット会議を招集しなければならない。
- 4 第3条第1項第5号から第7号までの委員が、やむを得ない事情によりユニット会議に出席

できない場合は、代理の者を出席させ、議決に加わらせることができる。

5 前項の代理の者は、当該選出部局の長が指名するものとする。

(意見の聴取)

第6条 ユニット会議が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 ユニット会議の事務は、研究推進部研究振興課において処理する。

附 則

- 1 この内規は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行日前に、富山大学生命科学先端研究センター運営委員会規則（平成17年10月1日制定）により大学院医学薬学研究部の各系、和漢医薬学総合研究所及び附属病院から選出された委員は、この内規により選出されたものとみなす。

附 則

この内規は、平成29年7月28日から施行する。

附 則

- 1 この内規は、令和元年10月1日から施行する。
- 2 この内規の施行日の前日において、大学院医学薬学研究部の各系から選出された委員については、第3条第1項第5号に規定する学部から選出されたものとみなす。ただし、任期は第3条第2項の規定にかかわらず、令和3年3月31日までとする。

附 則

この内規は、令和2年1月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和5年4月1日から施行する。

(3) ユニット利用内規

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット利用内規

平成27年4月1日制定

令和元年12月27日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット内規第8条の規定に基づき、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット（以下「ユニット」という。）の利用に際し、必要な事項を定める。

(利用の原則)

第2条 ユニットの利用は、研究、教育その他国立大学法人富山大学（以下「本学」という。）の運営上必要と認めるものに限るものとする。

(利用の資格)

第3条 ユニットを利用することができる者（以下「利用者」という。）は、次に掲げる者とする。

- (1) 本学の職員
 - (2) 本学の学生及び研究生等
 - (3) その他、ユニットの長（以下「ユニット長」という。）が適当と認めた者
- 2 ユニターで動物実験を行う場合は、国立大学法人富山大学動物実験取扱規則に基づき、所定の手続きを経なければならない。
- 3 ユニターで遺伝子組換え生物等使用実験を行う場合は、国立大学法人富山大学遺伝子組換え生物等使用実験安全管理規則に基づき、所定の手続きを経なければならない。
- 4 ユニターで放射性同位元素を使用する場合は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット放射線障害予防規程に基づき、所定の手続きを経なければならない。

(利用の申請及び承認)

第4条 利用者は、別に定めるところにより、ユニット長に利用の申請をしなければならない。

- 2 ユニター長は、前項の申請が適当であると認めたとき、当該教育研究支援施設の施設長の同意のもとにこれを承認するものとする。
- 3 ユニター長は、前項の承認に当たり、別に定める利用講習会の受講を義務づけることとする。

(変更の届出)

第5条 前条第2項の規定により利用の承認を受けた者は、申請した事項に変更が生じたときは、遅滞なくユニット長に届け出て、変更の承認を得なければならない。

(利用の停止)

第6条 ユニター長は、利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、ユニットの利用承認の取り消し、又は一定期間の利用を停止することができるものとする。

- (1) この内規に著しく違反したとき。
- (2) 利用内容が第4条の申請と異なるとき。

(3) ユニットの運営に著しい支障を生じさせたとき。

(損害賠償)

第7条 利用者は、故意又は重大な過失により設備等を損傷させたとき、その損害に相当する費用を賠償しなければならない。

(経費)

第8条 ユニットの利用に係る経費の負担については、別に定める。

(雑則)

第9条 この内規に定めるもののほか、ユニットの利用に関し必要な事項は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット会議の意見を聴いて、ユニット長が別に定める。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和2年1月1日から施行する。

(4) ユニット利用研究員取扱内規

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット 利用研究員取扱内規

平成27年4月1日制定

令和元年9月30日改正

令和元年12月27日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット内規第8条の規定に基づき、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット（以下「ユニット」という。）の施設及び設備を、地域の産業育成・理科教育及び産業育成教育に貢献することを目的に、広く地域社会の企業や公的機関に開放するため、ユニット利用研究員の取扱い等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この内規で「ユニット利用研究員」とは、国立大学法人富山大学（以下「本学」という。）以外の場所において本務を有し、ユニットの長（以下「ユニット長」という。）の監督のもとにユニットの施設及び設備を利用し、その成果を本人等の研究等に供する者をいう。

(資格)

第3条 ユニット利用研究員となることができる者は、学士の学位を有する者又はこれに準ずる者でなければならない。

(申請)

第4条 ユニット利用研究員は、ユニット長の承諾のもと、別紙様式により学長に申請するものとする。

(承認)

第5条 学長は、前条の申請があった場合、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究ユニット会議（以下「ユニット会議」という。）の意見を聴いて、承認する。

(利用の条件)

第6条 前条で承認されたユニット利用研究員は、次の事項を利用の条件とする。

- (1) ユニット利用研究員がユニットの施設及び設備を利用する場合、本学の諸規則を遵守すること。
- (2) ユニット利用研究員が本学において附属図書館又は他の学内共同利用施設を利用する場合、あらかじめ附属図書館長又は他の学内共同利用施設の長の許可を受けるものとする。
- (3) ユニット利用研究員が故意又は重大な過失により本学の施設又は設備等を損傷した場合、本人又は本務先が、その損害に相当する費用を弁償するものとする。
- (4) ユニット利用研究員が本学構内において受けた傷害又は損害に対しては、本学は一切その責を負わないものとする。

(利用料金)

第7条 利用料金は、利用基本料と利用者負担額（使用料金）とし、別表のとおりとする。

2 利用料金のうち利用基本料は原則として前納とする。ただし、ユニット利用研究員の本務先が公的機関の場合は、利用基本料を免除とする。

3 ユニット利用により生じた利用者負担額（使用料金）については、後納とする。

(承認期間)

第8条 承認期間は、1年以内で、4月1日から翌年3月31日までの期間を超えないものとする。

(雑則)

第9条 この内規に定めるもののほか、ユニット利用研究員に関し必要な事項は、ユニット会議の意見を聴いて、ユニット長が別に定める。

附 則

1 この内規は、平成27年4月1日から施行する。

2 この内規の施行日前に、富山大学生命科学先端研究センター利用研究員取扱規則（平成17年10月1日制定）により申請されたセンター利用研究員の承認については、この内規によりユニット利用研究員として承認されたものとみなす。

附 則

この内規は、令和元年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和2年1月1日から施行する。

別表（第7条関係）

事 項	利 用 料 金	備 考
利用基本料	68,250 円／人	申請期間に関わらず1回／年度の支払い。
利用者負担額（使用料金）	ユニットが定めた使用料金に基づいて算出した料金	利用後、利用料金の請求による。

ユニット利用研究員申請書

国立大学法人富山大学長 殿

申 請 者
住 所
機 関 等 名
代表者等氏名 ㊟

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット利用研究員取扱内規第4条の規定により申請します。
なお、申請者は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット利用研究員取扱内規を遵守します。

ふ り が な 氏 名		男・女	写 真
生 年 月 日 （ 年 齢 ）	（西暦） 年 月 日 （ 歳 ）		
現 住 所			
機関等における所属 部局・職名及び連絡先	<連絡先>		
機 関 等 に お け る 職 務 内 容			
最終学歴・卒業修了年月			
学 位 等			
利 用 期 間	年 月 日 から 年 月 日まで		
利 用 目 的			
利 用 施 設			
利 用 設 備			
私は、別紙「富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット利用研究員取扱内規第6条（利用の条件）」を遵守します。 ㊟			
上記の者のユニット利用研究員の申請を承諾します。 富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター 生命科学先端研究支援ユニット長 ㊟			

5.2 要項

(1) 受託分析試験等取扱要項

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット 受託分析試験等取扱要項

平成27年4月1日制定
平成27年8月25日改正
平成29年5月26日改正
平成30年7月23日改正
令和元年9月30日改正
令和2年8月17日改正
令和3年7月16日改正
令和4年7月14日改正
令和5年8月21日改正

(趣旨)

第1条 この要項は、国立大学法人富山大学受託研究取扱規則第14条の規定に基づき、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット（以下「ユニット」という。）において受託する分析試験等（以下「試験等」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(受託の原則)

第2条 試験等は、教育研究上有意義であり、かつ、本来の教育研究に支障が生じるおそれがないと認められる場合に限り、これを受託することができる。

(試験等の依頼)

第3条 試験等を依頼しようとする者（以下「依頼者」という。）は、別紙様式1をユニットの長（以下「ユニット長」という。）に提出しなければならない。

(受入れの条件)

第4条 試験等の受入れの条件は、次に掲げるものとする。

- (1) 依頼者からの申し出により試験等を中止した場合でも、料金は返還しない。
- (2) 次に掲げる依頼者の受ける損害に対しては、ユニットは一切その責任を負わない。
 - イ やむを得ない事由による試験等の中止等に伴う損害
 - ロ 試験等を行うために提出された試料等（以下「試料等」という。）の損害
 - ハ 試験等で得られたデータ等の利用に係る損害
- (3) ユニット長が必要と認めたときは、試料等の再提出を求めることができる。
- (4) 試料等の搬入及び搬出は、すべて依頼者が行うものとする。
- (5) ユニット長が受入れできないと判断した試料等に係る試験等については、受入れをしないことができる。

(結果の報告)

第5条 試験等終了後、ユニット長は別紙様式2により試験等の結果を依頼者に報告するものとする。

(秘密の保持等)

第6条 ユニット及び依頼者は、試験等の実施で知り得た相手方の秘密、知的財産権等を相手方の書面による同意なしに公開してはならない。

2 依頼者は、試験等で得られたデータを公表する場合、原則として国立大学法人富山大学（以下「本学」という。）の名称を使用することはできない。ただし、ユニット長が本学の名称の使用を許可した場合はこの限りではない。

3 前2項の規定に反し、学外に公表したことで本学が受けた被害及び損害については、依頼者がすべて賠償するものとする。

(試験等の料金)

第7条 試験等の料金は、別表のとおりとする。ただし、ユニット長が教育研究上極めて有意義であると認めた場合は、料金の全部又は一部を免除することができる。

2 試験等の料金は原則として前納とし、本学が発行する請求書により、納入しなければならない。ただし、ユニット長が特別の事由があると認めた場合は、後納とすることができる。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット会議の意見を聴いて、ユニット長が別に定める。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年8月25日から施行する。

附 則

この要項は、平成29年5月26日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年7月23日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、令和元年10月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年8月17日から施行する。

附 則

この要項は、令和3年7月16日から施行する。

附 則

この要項は、令和4年7月14日から施行する。

附 則

この要項は、令和5年8月21日から施行する。

別表（第7条関係）

試験等の料金

機 器 等 名	単 位	料 金（円）	備 考
元素分析装置	基本料金	14,300	
	1 検体	46,930	
超伝導FT核磁気共鳴装置	基本料金	14,300	調製済み試料 限定
¹ H測定	1 検体	10,920	
¹³ C測定	1 検体	21,840	
DNAシーケンサー（16キャピラリタイプ）	基本料金	14,300	
	1 ラン	14,220	

※ 上記試験等で前処理や特殊測定等が必要な場合は、別途料金を定める。

料金は直接経費及び間接経費（直接経費に100分の30を乗じた額）の合算額で、消費税を含む。

別紙様式 1

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター 生命科学先端研究支援ユニット受託分析試験等依頼書				年 月 日
富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター 生命科学先端研究支援ユニット長 殿				
依頼者 郵便番号 住 所 機 関 等 名 代表者等氏名 (印) 電 話 番 号				
富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット受託分析試験等取扱要項第3条の規定により、次の試験等を依頼します。				
使 用 機 器 等 名				
試料等名及び数量	試 料 等 名	数 量		
依頼事項 (試料等に関する情報を含め、できるだけ詳細に記載してください。)				
書類送付先及び担当者氏名	郵便番号 住 所 担当者氏名 電 話 番 号 F A X 番 号 電子メール			
相 談 希 望 日	年 月 日	試験等実施希望日	年 月 日	

受 付 番 号			試験等担当者		
試験等料金合計 (①+②)		円			
料 金 内 訳	①別表料金表による試験等の料金内訳	【使用機器 (試験等別種別) : 基本料金 + (数量 (件数) × 単価) = 円】			
	②相談等により設定した(その他特殊測定等)料金内訳	【積算等】 円			
☐ 富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット受託分析試験等取扱要項第7条第2項ただし書の規定により、試験等の料金は後納とする。		事 由	☐ 試験等の結果により検体数を調整する必要があるため。 ☐ その他 (具体的に記載)		
ユニット長	(印)	施設長	(印)	試験等担当者	(印)

※ 依頼者は太枠内を記入してください。

別紙様式 2

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター
生命科学先端研究支援ユニット受託分析試験等結果報告書

年 月 日

依頼者

殿

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター
生命科学先端研究支援ユニット長

印

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット受託分析試験等取扱要項第 5 条の規定により，次のとおり報告します。

試料等名及び数量	試 料 等 名		数 量
受 付 番 号		試 験 等 担 当 者	
試 験 等 実 施 日			
使 用 機 器 等	機 器 等 名		
	型 式 等		
	試薬・消耗品等		
試 験 等 料 金	円		
報 告 書 類 等			

(2) 登録証 IC カード取扱要項

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット 登録証 IC カード取扱要項

平成27年4月1日制定

令和元年9月30日改正

令和2年3月11日改正

(趣旨)

第1条 この要項は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット利用内規（以下「利用内規」という。）第9条の規定に基づき、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット（以下「ユニット」という。）の教育研究支援施設への入退館認証（以下「施設入退館認証」という。）に用いる登録証ICカード（以下「IC登録証」という。）、富山大学職員証（以下「職員証」という。）及び富山大学学生証（以下「学生証」という。）による施設入退館認証の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(申請及び承認)

第2条 利用内規第3条第1項に規定する利用者（富山大学（以下「本学」という。）から職員証又は学生証の交付を受けた者は除く。）は、別紙様式1によりユニットの長（以下「ユニット長」という。）にIC登録証の発行の申請を行うものとする。

2 本学から職員証又は学生証の交付を受けた者は、職員は別紙様式2により、学生は別紙様式3によりユニット長に職員証又は学生証による施設入退館認証の申請を行うものとする。

3 ユニット長は、前2項の申請に基づき、IC登録証の発行又は職員証若しくは学生証による施設入退館認証を承認するものとする。

(受領)

第3条 前条第1項の申請をした者は、同条第3項の承認に基づき、所定の期日又は期間内にIC登録証を受領するものとする。ただし、当該申請者による受領が困難な場合は、当該申請者が委任状等により指定した者が受領することができる。

(有効期限)

第4条 IC登録証、職員証又は学生証による施設入退館認証の有効期限は、第2条第3項による承認日から当該承認日の属する年度の末日までとする。

2 利用内規第4条の規定に基づき、次年度以降もユニットの利用の申請を行い承認された場合は、当該年度の末日までIC登録証、職員証又は学生証による施設入退館認証の有効期限を更新するものとする。ただし、職員証又は学生証による施設入退館認証の有効期限の更新は、職員証は当該職員が本学の職員としての身分を有している間、学生証は当該学生証に記載してある有効期限を限度とする。

(亡失時の連絡)

第5条 IC登録証、職員証又は学生証を紛失、盗難等により亡失した場合は、速やかにユニット長へ連絡しなければならない。

(再発行)

第6条 IC登録証の発行を受けた者は、次に掲げる場合は、別紙様式1によりユニット長にIC登録証の再発行を申請することができる。

- (1) IC登録証を紛失、盗難等により亡失した場合
 - (2) IC登録証が汚損、破損等により利用できなくなった場合
 - (3) 改名等によりIC登録証の記載内容を変更する場合
- 2 ユニット長は、前項の申請に基づき、IC登録証の再発行を承認するものとする。
- 3 再発行したIC登録証の受領については、第3条の規定を準用する。

(料金)

第7条 IC登録証の発行を受けた者は、次の表に掲げる料金を納付しなければならない。

区 分	料 金
発行手数料	2,200円
再発行手数料	2,200円
作成料	825円／作成依頼時の総数

- 2 前項の規定にかかわらず、発行後3月以内に初期不良があったことが確認された場合は、無償で交換する。
- 3 第1項の料金の納付は、学内利用者は所属講座等から予算振替により、学外利用者は本学が発行する請求書により行わなければならない。

(返還)

第8条 IC登録証の発行を受けた者は、次に掲げる場合は遅滞なく、IC登録証をユニット長に返還しなければならない。

- (1) 利用内規第3条第1項に規定する利用者に該当しなくなった場合
- (2) 利用内規第6条各号のいずれかに該当する場合
- (3) 第6条第1項第2号又は第3号に該当する場合

(禁止事項)

第9条 IC登録証の発行を受けた者は、適切にIC登録証を管理し、他人に貸与又は譲渡してはならない。

- 2 IC登録証の発行を受けた者は、この要項を遵守し、IC登録証の悪用、改変、改ざん、解析等を行ってはならない。

(損害賠償)

第10条 前条の規定に違反した者は、その行為により生じる本学への一切の損害を賠償するものとする。

(制限又は停止)

第11条 ユニット長は、IC登録証の発行を受けた者又は職員証若しくは学生証による施設入退館認証を行っている者がこの要項の規定に違反した場合は、次に掲げる事項を行うことができる。

- (1) 施設入退館認証の停止
- (2) 有効期限更新の制限
- (3) IC登録証再発行の制限

(雑則)

第12条 この要項に定めるもののほか、IC登録証、職員証又は学生証による施設入退館認証の取扱いに関し必要な事項は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット会議の意見を聴いて、ユニット長が別に定める。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和元年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この要項は、令和2年3月11日から施行する。
- 2 この要項の施行日の前日において、第2条第1項又は第6条第1項の申請に基づきユニット長がIC登録証の発行又は再発行を承認した職員は、第2条第2項の申請に基づきユニット長が職員証による施設入退館認証を承認したものとみなす。

別紙様式 1

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター
生命科学先端研究支援ユニット登録証ICカード発行等申請書

年 月 日

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター
生命科学先端研究支援ユニット長 殿

所属講座等名
Affiliation

氏 名
Full name

㊞

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット登録証ICカード取扱要項第2条第1項又は第6条第1項の規定により、登録証ICカードの発行又は再発行を申請します。

申請区分 Classification	☐ 新規発行 (New issue) ☐ 再発行 (Reissue)
生年月日 Date of birth	(西暦) 年 月 日
性別 Sex	☐ 男 (Male) ☐ 女 (Female)
身分 Position	
英字氏名 ^{※1} English full name	
メールアドレス ^{※2} Mail address	
写真ファイル名 ^{※3} Photo file name	.jpg
所属講座等の長承認欄	㊞
請求書送付先 (学外申請者のみ)	住所 〒 担当者名 電話番号

※1 旅券（パスポート）を取得している場合：旅券の英字氏名を記載してください。

旅券（パスポート）を取得していない場合：原則へボン式ローマ字を記載してください。

※2 緊急時の連絡として使用します。

※3 6月以内に撮影した写真データ（正面上三分身，JPEGファイル）について，ファイル名を「英字氏名.jpg」，件名を「写真送付」として，本文に所属講座等名，氏名，英字氏名を記載の上，lsrc@cts.u-toyama.ac.jp宛に送信してください。

備考 学外申請者の場合，「所属講座等」を「所属機関等」に読み替える。

個人情報，登録証ICカード発行のみに使用します。

【ユニット処理欄】

承認年月日	ユニット長	登録番号	発行年月日	担当者
年 月 日	㊞		年 月 日	㊞

別紙様式 2

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター
生命科学先端研究支援ユニット教育研究支援施設入退館認証申請書（職員用）

年 月 日

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター
生命科学先端研究支援ユニット長 殿

所属講座等名

Affiliation

氏 名

Full Name

(印)

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット登録証ICカード取扱要項第2条第2項の規定により、富山大学職員証による研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニットの教育研究支援施設への入退館認証を申請します。

職 名 Title	
職 員 証 番 号※ ¹ ID number	
生 年 月 日 Date of birth	(西暦) 年 月 日
性 別 Sex	☐ 男 (Male) ☐ 女 (Female)
メールアドレス※ ² Mail address	@ .u-toyama.ac.jp
再 交 付 の 有 無 Presence or absence of reissue	☐ 有 (Presence) (回) ☐ 無 (Absence)
所属講座等の長 承 認 欄	(印)

※1 職員証裏面の右上に記載してある8桁の数字を記載してください。

※2 緊急時の連絡として使用します。本学から交付されたメールアドレスを記載してください。

備考 個人情報、教育研究支援施設入退館認証のみに使用します。

【ユニット処理欄】

承認年月日	ユニット長	登録番号	登録年月日	担当者
年 月 日	(印)		年 月 日	(印)

別紙様式3

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター
生命科学先端研究支援ユニット教育研究支援施設入退館認証申請書（学生用）

年 月 日

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター
生命科学先端研究支援ユニット長 殿

所属講座等名
Affiliation

氏 名
Full Name

⑩

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット登録証ICカード取扱要項第2条第2項の規定により，富山大学学生証による研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニットの教育研究支援施設への入退館認証を申請します。

学 部 ・ 大 学 院 School・Graduate school			
学 科 ・ 専 攻 Department・Major			
課 程 Program	☐ 学部（School）	☐ 修士（Master）	☐ 博士（Ph.D.）
学 籍 番 号 ID number			
生 年 月 日 Date of birth	（西暦） 年 月 日		
性 別 Sex	☐ 男（Male） ☐ 女（Female）		
メールアドレス※ Mail address	@ems.u-toyama.ac.jp		
学生証有効期限 ID card expiry date	（西暦） 年 月 日		
再交付の有無 Presence or absence of reissue	☐ 有（Presence）（ 回） ☐ 無（Absence）		
所属講座等の長 承認欄	⑩		

※ 緊急時の連絡として使用します。本学から交付されたメールアドレスを記載してください。
備考 個人情報 は，教育研究支援施設入退館認証のみに使用します。

【ユニット処理欄】

承認年月日	ユニット長	登録番号	登録年月日	担当者
年 月 日	⑩		年 月 日	⑩

5.3 放射線安全管理関係

(1) 放射線障害予防規程

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター 生命科学先端研究支援ユニット放射線障害予防規程

平成17年10月1日制定	平成19年5月14日改正
平成20年6月5日改正	平成22年6月11日改正
平成24年12月17日改正	平成26年7月1日改正
平成26年7月8日改正	平成27年4月16日改正
平成28年3月31日改正	平成31年2月22日改正
令和3年4月27日改正	令和5年9月27日改正

目次

- 第1章 総則（第1条～第6条）
- 第2章 組織及び職務（第7条～第18条）
- 第3章 管理区域（第19条，第20条）
- 第4章 維持及び管理（第21条～第24条）
- 第5章 放射性同位元素等の取扱等（第25条～第29条）
- 第6章 測定（第30条～第32条）
- 第7章 教育及び訓練（第33条）
- 第8章 健康管理（第34条，第35条）
- 第9章 記帳及び保存（第36条）
- 第10章 危険時の措置（第37条，第38条）
- 第11章 報告（第39条，第40条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は、放射性同位元素等の規制に関する法律（昭和32年法律第167号。以下「法」という。）及び電離放射線障害防止規則（昭和47年労働省令第41号。以下「電離則」という。）に基づき、富山大学研究推進機構（以下「機構」という。）研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット（以下「ユニット」という。）における放射性同位元素及び放射性同位元素によって汚染された物の取扱い及び管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、もって公共の安全を確保することを目的とする。

（適用範囲）

第2条 この規程は、ユニットの管理区域に立ち入るすべての者に適用する。

（用語の定義）

第3条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 放射性同位元素 法第2条第2項に定める放射性同位元素をいう。
- (2) 放射性同位元素等 放射性同位元素及び放射性同位元素によって汚染された物をいう。
- (3) 放射線作業 放射性同位元素等の使用，保管，運搬及び廃棄の作業をいう。
- (4) 業務従事者 放射性同位元素等の取扱い，管理又はこれに付随する業務に従事するため，管理区域に立ち入る者で，ユニットの長（以下「ユニット長」という。）が放射線業務従事者に承認した者をいう。
- (5) 一時立入者 業務従事者以外の者で，見学等で一時的に管理区域に立ち入る者をいう。
- (6) 放射線施設 放射性同位元素等の規制に関する法律施行規則（昭和35年総理府令第56号。以下「施行規則」という。）第1条第9号に定める使用施設，貯蔵施設及び廃棄施設をいう。
- (7) 事業所 放射性同位元素等の規制に関する法律施行令（昭和35年政令第259号）第3条第2項に定める事業所をいう。
- (8) キャンパス 富山大学杉谷（医薬系）キャンパスをいう。

（他の規則との関連）

第4条 放射性同位元素等の取扱いに係る保安については，この規程に定めるもののほか，次に掲げる規則その他保安に関する規則の定めるところによる。

- (1) 国立大学法人富山大学安全衛生管理規則
- (2) 国立大学法人富山大学杉谷団地自家用電気工作物保安規程
- (3) 国立大学法人富山大学防火管理規則
- (4) 国立大学法人富山大学危機管理規則
- (5) 国立大学法人富山大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則

（内規等の制定）

第5条 富山大学研究推進機構の長（以下「機構長」という。）は，法，電離則及びこの規程に定める事項の実施について必要な事項を，富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット放射線障害予防内規（以下「内規」という。）に定める。

（遵守等の義務）

第6条 業務従事者及び一時立入者は，第11条に規定する放射線取扱主任者が放射線障害の防止のために行う指示を遵守し，その指示に従わなければならない。

- 2 学長は，放射線施設の位置，構造及び設備を法に定める技術上の基準に適合するように維持しなければならない。
- 3 学長，機構長，ユニット長及び富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニットアイソトープ実験施設（以下「施設」という。）の長（以下「施設長」という。）は，放射線取扱主任者が法，電離則及びこの規程に基づいて行う意見具申を尊重しなければならない。
- 4 学長は，国立大学法人富山大学放射線安全委員会（国立大学法人富山大学放射線安全委員会規則に定める安全委員会。以下「安全委員会」という。）が行う勧告を尊重しなければならない。
- 5 学長は，富山大学杉谷キャンパス放射線管理委員会（富山大学杉谷キャンパス放射線管理委員会規則に定める管理委員会。以下「管理委員会」という。）が行う答申又は具申を尊重しなければならない。

- 6 機構長は、富山大学研究推進機構放射線安全会議（以下「安全会議」という。）が行う助言を尊重しなければならない。

第2章 組織及び職務

（組織）

第7条 ユニットにおける放射性同位元素等の取扱い及びその安全管理に従事する者に関する組織は、別図1のとおりとする。

- 2 学長は、国立大学法人富山大学（以下「本学」という。）における放射線障害の防止に関する業務を統括する。
- 3 学長は、機構における放射線障害の防止に関する業務を機構長に掌理させる。
- 4 機構長は、ユニットにおける放射線障害の防止に関する業務をユニット長に管理させる。
- 5 ユニット長は、ユニットの放射線施設における放射線障害の防止に関する業務を施設長に処理させる。

（安全委員会）

第8条 本学における放射線障害の防止に関する基本方針及び重要事項の審議並びにその適正な実施については、安全委員会が行う。

（管理委員会）

第9条 キャンパス（附属病院を除く。）における放射線障害の防止に関する事項についての審議及びその実施に関する指導及び助言については、管理委員会が行う。

（安全会議）

第10条 機構における放射性同位元素等の管理運営及び放射線障害の防止に関する事項の助言は、安全会議が行う。

- 2 安全会議に関し必要な事項は、富山大学研究推進機構放射線安全会議内規に定める。

（放射線取扱主任者等）

第11条 放射線障害の防止について必要な指揮監督を行うため、ユニットに放射線取扱主任者（以下「主任者」という。）を1人以上置く。

- 2 主任者は、第1種放射線取扱主任者免状を有する職員のうちから、施設長の同意を得てユニット長が推薦し、学長が任命する。
- 3 ユニット長は、2人以上の主任者が任命された場合は、施設長の同意を得て、主任者のうち1人を筆頭主任者に、他を筆頭主任者の職務を補佐する主任者に指名する。なお、筆頭主任者が出張、疾病その他事故により、その職務を行うことができない場合は、次席の主任者がその職務を行うこととする。
- 4 学長は、全ての主任者が出張、疾病その他事故により、その職務を行うことができないと認めたときは、その期間における主任者の職務を代行する代理者（以下「代理者」という。）を任命しなければならない。
- 5 代理者は、第1種放射線取扱主任者免状を有する職員のうちから、施設長の同意を得てユニット長の推薦に基づき任命する。

- 6 学長は、主任者に対し、任命した日から1年以内（ただし、主任者に任命される前1年以内に定期講習を受けた者は除く。）及び法第36条の2に定める定期講習を受けた日の翌年度の開始日から3年以内に定期講習を受けさせなければならない。
- 7 主任者及び代理者の解任は、施設長の同意を得てユニット長からの申し出を受け、学長が行う。
- 8 主任者は、ユニットにおける放射線障害の防止について必要な指導監督に関し、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 放射線障害の防止に関する諸規程の制定及び改廃に関すること。
 - (2) 放射線障害の防止上、重要な計画作成に関すること。
 - (3) 危険時の措置等に関する対策への参画に関すること。
 - (4) 法及び電離則に基づく申請、届出及び報告の審査に関すること。
 - (5) 立入検査等の立会いに関すること。
 - (6) 異常及び事故の原因調査に関すること。
 - (7) 学長及び機構長に対する意見具申に関すること。
 - (8) 放射性同位元素の使用状況等及び放射線施設、帳簿、書類等の監査に関すること。
 - (9) 業務従事者への監督・指導に関すること。
 - (10) 関係者への助言、勧告及び指示に関すること。
 - (11) 管理委員会の開催の要請に関すること。
 - (12) 安全会議の開催の要請に関すること。
 - (13) その他放射線障害の防止に関する必要な業務に関すること。

（安全管理責任者）

第12条 ユニットに、放射線管理に関する業務を掌理させるため、放射線安全管理責任者（以下「安全管理責任者」という。）を置く。

- 2 安全管理責任者は、ユニットの業務に従事する職員のうちから施設長が任命する。
- 3 施設長は、安全管理責任者が出張、疾病その他事故により、その職務を行うことができないと認めたときは、施設長が指名する業務従事者にその職務を行わせなければならない。

（安全管理担当者）

第13条 ユニットに、放射線管理に関する業務を行うため、放射線安全管理担当者（以下「安全管理担当者」という。）を置く。

- 2 安全管理担当者は、ユニットの業務に従事する職員のうちから、施設長が任命する。
- 3 安全管理担当者は、次に掲げる業務を行う。
 - (1) 管理区域に立ち入る者の入退域、放射線被ばく、放射性汚染及び健康診断の管理に関すること。
 - (2) 放射線施設、管理区域に係る放射線の量、表面汚染密度及び空気中の放射性同位元素の濃度の測定に関すること。
 - (3) 放射線測定器の保守管理に関すること。
 - (4) 放射性同位元素の受入れ、払出し、使用、保管、運搬及び廃棄に係る管理に関すること。
 - (5) 放射線作業の安全に係る技術的事項の業務に関すること。
 - (6) 放射性廃棄物の管理及びそれらの処理業務に関すること。
 - (7) 前6号までに關する記帳・記録の管理及びその保存に関すること。

(8) 法及び電離則に基づく申請、届出、その他関係省庁との連絡等に関する事。

(取扱責任者)

第14条 施設長は、講座等ごとに取扱責任者を定めなければならない。

- 2 取扱責任者は、放射線施設において放射線障害の防止のため必要な措置を行うとともに、当該講座等の業務従事者に対し、施設長及び主任者が放射線障害の防止のために行う指示等を遵守するよう徹底させなければならない。
- 3 取扱責任者は、当該講座等の業務従事者に対し、放射性同位元素等の取扱いについて適切な指示を与えるとともに、放射性同位元素の受入れ、払出し、使用、保管、運搬及び廃棄に関する記録を行い、施設長に報告しなければならない。
- 4 取扱責任者は、次条に規定する業務従事者として登録しなければならない。

(業務従事者)

第15条 ユニットの管理区域において、放射性同位元素等の取扱等業務に従事する者は、業務従事者として所定の様式により施設長に登録の申請をしなければならない。

- 2 前項の申請をした者は、次に定める項目について、受講及び受診しなければならない。
 - (1) 第33条に規定する教育及び訓練
 - (2) 第34条に規定する健康診断
- 3 施設長は、前項第1号の教育及び訓練を修了した者であつて、かつ、同項第2号の健康診断の結果において可とされた者について、主任者の同意を得てユニット長が承認し、業務従事者として登録する。
- 4 前項の登録は、年度ごとに行うものとし、更新を妨げない。

(施設管理責任者)

第16条 キャンパスに、放射線施設の維持及び管理を掌理させるため、施設管理責任者を置く。

- 2 施設管理責任者に施設整備課長を充てる。

(施設管理担当者)

第17条 施設管理業務を行うため、施設管理担当者を置く。

- 2 施設管理担当者に施設整備課係長を充てる。
- 3 施設管理担当者は、放射線施設について次に掲げる業務を行う。
 - (1) 電気設備の維持管理に関する事。
 - (2) 給排気設備、給排水設備の維持管理に関する事。
 - (3) その他の施設、設備の維持管理に関する事。

(産業医)

第18条 キャンパスにおける業務従事者の健康診断及び保健指導については、産業医（国立大学法人富山大学安全衛生管理規則に定める産業医。以下同じ。）が行う。

第3章 管理区域

(管理区域)

第19条 施設長は、放射線障害の防止のため、施行規則第1条第1号に定める場所をユニットの

管理区域として指定し、必要な標識を付すとともに、みだりに人が立ち入らないようにするためのさくその他の施設を設けなければならない。

2 安全管理責任者は、次に定める者以外の者を管理区域に立ち入らせてはならない。

- (1) 業務従事者として登録された者
- (2) 一時立入者として施設長が認めた者

(管理区域に関する遵守事項)

第20条 管理区域に立ち入る者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 定められた出入口から出入りすること。
 - (2) 管理区域に立ち入るときは、所定の方式に従って立ち入りの記録を行うこと。
 - (3) 放射線測定器を指定された位置に着用すること。
 - (4) 管理区域内において、飲食、喫煙等放射性同位元素を体内に摂取するおそれのある行為を行わないこと。
 - (5) 管理区域に立ち入る者は、主任者及び安全管理責任者が放射線障害を防止するために行う指示、その他施設の保安を確保するための指示に従うこと。
- 2 放射性同位元素を取り扱う業務従事者は、前項に定めるもののほか、次に掲げる事項を遵守しなければならない。
- (1) 専用の作業衣、作業靴、その他必要な保護具を着用し、かつ、これらを着用してみだりに管理区域から退出しないこと。
 - (2) 放射性同位元素を体内に摂取したとき、又はそのおそれがあるときは、直ちに安全管理責任者に連絡し、その指示に従うこと。
 - (3) 管理区域から退出するときは、汚染検査室において、身体各部、衣類、作業靴等の汚染の有無を検査し、汚染が検出された場合は、安全管理責任者に連絡するとともに、直ちに除染のための措置をとること。また、汚染除去が困難な場合は、安全管理責任者は主任者に連絡し、その指示に従うこと。
- 3 安全管理責任者は、前項第3号の汚染の有無の検査において、身体各部の表面の放射性同位元素の密度が表面密度限度を超え、汚染除去が困難な場合には、次に定める項目について記録しなければならない。
- (1) 測定日時（測定において時刻を考慮する必要がない場合にあっては、測定年月日）
 - (2) 測定対象者の氏名
 - (3) 測定をした者の氏名（測定をした者の氏名を記録しなくても測定の適正な実施を確保できる場合にあっては、名称）
 - (4) 放射線測定器の種類及び型式
 - (5) 汚染の状況
 - (6) 測定方法
 - (7) 測定部位及び測定結果
- 4 一時立入者は、前2項に定めるもののほか、業務従事者の指示に従うこと。
- 5 施設長は、管理区域の入口の目につきやすい場所に放射線障害の防止に必要な注意事項を掲示し、管理区域に立ち入る者に遵守させなければならない。

6 その他必要な事項は、内規に定める。

第4章 維持及び管理

(巡視及び点検)

第21条 施設長は、施設管理責任者及び安全管理責任者に対し、別表1に掲げる項目について、定期的に放射線施設の巡視、点検を行わせるものとする。

- 2 施設管理責任者及び安全管理責任者は、前項の巡視、点検の結果、異常を認めたときは、ユニット長及び施設長に報告しなければならない。
- 3 施設長は、巡視、点検の結果、重大な異常が認められた場合、作業の中止、立ち入り禁止等の措置を講じなければならない。

(定期点検)

第22条 施設長は、施設管理責任者及び安全管理責任者に対し、別表2に掲げる項目について、定期的に放射線施設の点検を行わせるものとする。

- 2 施設管理責任者及び安全管理責任者は、前項の点検を終えたときは、第36条第2項第6号に掲げる項目について、主任者を経て施設長に報告しなければならない。
- 3 施設管理責任者及び安全管理責任者は、第1項の点検の結果、異常を認めたときは、主任者を経てユニット長及び施設長に報告しなければならない。
- 4 施設長は、定期点検の結果、重大な異常が認められた場合、作業の中止、立ち入り禁止等の措置を講じなければならない。

(修理等)

第23条 施設長は、施設管理責任者又は安全管理責任者が放射線施設の修理等の必要があると認めたときは、ユニット長及び主任者と協議の上、その実施計画を作成し、機構長の同意を得て学長の承認を受けなければならない。

- 2 施設長は、前項の修理等を終えたときは、その結果をユニット長及び主任者を経て学長及び機構長に報告しなければならない。

(放射線施設の新設改廃等)

第24条 施設長は、放射線施設の新設又は改廃等を計画しようとする場合は、ユニット長及び主任者と協議の上、当該実施計画を作成し、機構長の同意を得て学長の承認を受けなければならない。

- 2 学長は、前項の承認を行う場合には、管理委員会に諮問するものとする。
- 3 施設長は、第1項の放射線施設の新設又は改廃等を終えたときは、その結果をユニット長及び主任者を経て学長及び機構長に報告しなければならない。

第5章 放射性同位元素等の取扱等

(放射性同位元素の使用)

第25条 密封されていない放射性同位元素を使用する者は、施設長の管理の下に、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 放射性同位元素の使用は、管理区域内の作業室において行い、承認使用数量を超えないこと。
 - (2) 排気設備が正常に作動していることを確認すること。
 - (3) 使用目的に応じて放射線障害が発生するおそれの最も少ない使用方法をとること。
 - (4) 汚染の拡大を防止する措置を講じること。
 - (5) 表面の放射性同位元素の密度が表面密度限度の10分の1を超えているものは、みだりに管理区域から持ち出さないこと。
- 2 放射性同位元素の使用に当たっては、あらかじめ使用に係る計画書を作成し、施設長及び主任者の承認を受けなければならない。
 - 3 その他必要な事項は、内規に定める。

(受入れ、払出し)

第26条 放射性同位元素を受け入れる場合は、あらかじめ所定の様式により施設長及び主任者の承認を受けなければならない。

- 2 放射性同位元素を他の事業所へ払い出す場合は、あらかじめ所定の様式により施設長及び主任者の承認を受けなければならない。
- 3 その他必要な事項は、内規に定める。

(保管)

第27条 放射性同位元素の保管は、次に定めるところにより行わなければならない。

- (1) 放射性同位元素は所定の容器に入れ、所定の貯蔵施設以外において保管しないこと。
 - (2) 貯蔵施設には、その貯蔵能力を超えて放射性同位元素を保管しないこと。
 - (3) 保管中の放射性同位元素をみだりに持ち出すことができないようにするため、貯蔵施設は常時施錠すること。
 - (4) 放射性同位元素は、その日の作業が終了したときは、必ず貯蔵施設に保管すること。
 - (5) 放射性同位元素を貯蔵施設に保管する場合は、容器の転倒、破損等を考慮し、受け皿及び吸収材を使用する等、貯蔵施設内に汚染が拡大しないような措置を講ずること。
 - (6) 放射性同位元素を貯蔵施設から持ち出すときは、所定の様式により日時、搬出者名、放射性同位元素の種類及び数量等を記入すること。
 - (7) 貯蔵施設の目につきやすい場所に、放射線障害の防止に必要な注意事項を掲示すること。
- 2 安全管理責任者は、毎年1回以上、第40条の放射線管理状況報告書を作成するために必要な放射性同位元素の保管量及び保管の状況の調査を行い、その結果を施設長に報告しなければならない。
 - 3 その他必要な事項は、内規に定める。

(運搬)

第28条 管理区域内において放射性同位元素等を運搬する場合は、危険物との混載禁止、転倒、転落等の防止、汚染の拡大の防止、被ばくの防止、その他保安上必要な措置を講じなければならない。

- 2 事業所内外において放射性同位元素等を運搬する場合は、前項に定めるもののほか、次に掲げる措置を講じるとともに、あらかじめ施設長及び主任者の承認を受けなければならない。
- (1) 放射性同位元素等を収納した輸送容器には、表面に所定の標識をつけ、外接する直方体の

各辺が10センチメートル以上で、容易に、かつ、安全に取り扱うことができるよう措置すること。

- (2) 輸送容器は、運搬中に予想される温度及び内圧の変化、振動等により、きれつ、破損等の生じるおそれがないよう措置すること。
- (3) 表面汚染密度については、搬出物の表面の放射性同位元素の密度が表面密度限度の10分の1を超えないようにすること。
- (4) 1センチメートル線量当量率については、搬出物の表面において2ミリシーベルト毎時を超えず、かつ、搬出物の表面から1メートル離れた位置において100マイクロシーベルト毎時を超えないよう措置すること。
- (5) その他関係法令に定める基準に適合する措置を講ずること。

3 その他必要な事項は、内規に定める。

(廃棄)

第29条 放射性同位元素等を廃棄する場合は、次に定めるところにより行わなければならない。

- (1) 固体状の放射性廃棄物は、可燃物、難燃物及び不燃物に区分し、それぞれ専用の容器に入れ、保管廃棄設備に保管廃棄すること。ただし、動物の放射性廃棄物は、乾燥処理を行った後、専用の容器に入れ、保管廃棄設備に保管廃棄すること。
 - (2) 液体状の放射性廃棄物は、所定の放射能レベルに分類し、それぞれ専用の容器に入れ、保管廃棄設備に保管廃棄すること。ただし、一部の液体状の放射性廃棄物は、排水設備により排水口における排液中の放射性同位元素の濃度を濃度限度以下とし、排水することができる。
 - (3) 気体状の放射性廃棄物は、排気設備により排気口における排気中の放射性同位元素の濃度を濃度限度以下とし、排気すること。
 - (4) 許可廃棄業者に委託可能な廃棄物については、施設長はこれら廃棄物の廃棄を委託する。
- 2 放射性同位元素等を廃棄する場合には、所定の様式により廃棄年月日、廃棄する者の氏名、廃棄物の種類、放射性同位元素の種類及び数量等を記入しなければならない。
- 3 安全管理責任者は、毎年1回以上、第40条の放射線管理状況報告書を作成するために必要な放射性同位元素等の保管廃棄の状況の調査を行い、その結果を施設長に報告しなければならない。
- 4 その他必要な事項は、内規に定める。

第6章 測定

(放射線測定器等の保守)

第30条 安全管理責任者は、安全管理に係る放射線測定器等について常に正常な機能を維持するように保守しなければならない。

- 2 安全管理責任者は、第20条第2項第3号、第31条第1項、第32条第1項及び第2項に係る測定に用いる放射線測定器について必要な点検及び校正を、一年ごとに、適切に組み合わせて実施し、又は測定の信頼性を確保するための措置を講じなければならない。
- 3 前項の放射線測定器の点検及び校正については、その方法や計画等を適時見直さなければならない。

(場所の測定)

第31条 安全管理責任者は、放射線障害の発生のおそれのある場所について、放射線の量、放射性同位元素による汚染の状況及び空気中の放射性同位元素の濃度の測定を行い、その結果を評価し、記録しなければならない。

2 前項の放射線の量の測定は、原則として1センチメートル線量当量率又は1センチメートル線量当量について、放射線測定器を使用して行わなければならない。

3 第1項の空気中の放射性同位元素の濃度の測定は、作業環境測定法（昭和50年法律第20号）第2条第4号に定める作業環境測定士により行わなければならない。

4 第1項の測定は、次に定めるところにより行わなければならない。

(1) 放射線の量の測定は、使用施設、貯蔵施設、廃棄施設、管理区域の境界及び事業所の境界について行うこと。

(2) 放射性同位元素による汚染の状況の測定は、作業室、汚染検査室、排気設備の排気口、排水設備の排水口及び管理区域の境界について行うこと。

(3) 空気中の放射性同位元素の濃度の測定は、作業室について行うこと。

(4) 実施時期は、取扱開始前に1回、取扱開始後にあつては、1月を超えない期間ごとに1回行うこと。ただし、排気口又は排水口における測定は、排気又は排水の都度行うこと。

5 安全管理責任者は、前項の測定の結果に異常を認めたときは、直ちに立入制限、原因の調査、原因の除去等の必要な措置を講じ、講じた措置が適切であることを測定により確認するとともに、施設長及び主任者に報告しなければならない。

6 安全管理責任者は、前2項の測定の結果を測定の都度、次に定める項目について記録しなければならない。

(1) 測定日時（測定において時刻を考慮する必要がない場合にあつては、測定年月日）

(2) 測定方法

(3) 放射線測定器の種類、型式及び性能

(4) 測定箇所

(5) 測定条件

(6) 測定結果

(7) 測定を実施した者の氏名（測定を行った者の氏名を記録しなくても測定の適正な実施を確保できる場合にあつては、名称）

(8) 測定結果に基づいて実施した措置の概要

7 安全管理責任者は、前項の記録について、記録の都度、施設長及び主任者に報告し、これを見やすい場所に掲示する等の方法によって管理区域に立ち入る者に周知させるとともに、5年間保存しなければならない。

8 その他必要な事項は、内規に定める。

（個人被ばく線量の測定）

第32条 安全管理責任者は、管理区域に立ち入る者に対し、外部被ばくによる線量の測定について、次に定めるところにより行わなければならない。

(1) 胸部（女子（妊娠する可能性がないと診断された者を除く。以下同じ。）にあつては腹部）について、1センチメートル線量当量及び70マイクロメートル線量当量を測定すること。

- (2) 頭部及びけい部から成る部分、胸部及び上腕部から成る部分並びに腹部及び大たい部から成る部分のうち、外部被ばくによる線量が最大となるおそれのある部分が胸部及び上腕部から成る部分（女子にあっては腹部及び大たい部から成る部分）以外の部分である場合は、前号のほか、当該部分についても測定すること。
 - (3) 人体部位のうち、外部被ばくによる線量が最大となるおそれのある部位が、頭部、けい部、胸部、上腕部、腹部及び大たい部以外の部位である場合は、第1号及び第2号のほか、当該部位について、70マイクロメートル線量当量を測定すること。
 - (4) 眼の水晶体の等価線量を算定するための線量の測定は、第1号から第3号までの測定のほか、眼の近傍その他の適切な部位について3ミリメートル線量当量を測定することにより行うことができる。
 - (5) 前4号の測定は、放射線測定器を用いて行うこと。ただし、放射線測定器を用いて測定することが著しく困難である場合には、計算によってこれらの値を算出することとする。
 - (6) 測定は、管理区域に立ち入っている間継続して行うこと。ただし、一時立入者として施設長が認めた者については、外部被ばくによる線量が100マイクロシーベルトを超えるおそれのあるときに行うこととする。
- 2 安全管理責任者は、放射性同位元素を体内に摂取するおそれがある場所に立ち入る者に対し、内部被ばくによる線量の測定について、次に定めるところにより行わなければならない。
- (1) 測定は、3月（女子にあっては1月）を超えない期間ごとに1回行うこと。
 - (2) 放射性同位元素を誤って体内に摂取し、又は摂取したおそれがある場合は、その都度測定すること。
 - (3) 一時立入者として施設長が認めた者については、内部被ばくによる線量が100マイクロシーベルトを超えるおそれのあるときに行うこととする。
 - (4) 前3号の測定について、放射線測定器を用いて測定することが著しく困難である場合には、計算によってこれらの値を算出することとする。
- 3 前2項の測定の結果については、4月1日、7月1日、10月1日及び1月1日を始期とする各3月間、4月1日を始期とする1年間並びに女子にあっては毎月1日を始期とする1月間について、当該期間ごとに集計し、集計の都度、次に定める項目について記録しなければならない。
- (1) 測定対象者の氏名
 - (2) 測定をした者の氏名（測定を行った者の氏名を記録しなくても測定の適正な実施を確保できる場合にあっては、名称）
 - (3) 放射線測定器の種類及び型式
 - (4) 測定方法
 - (5) 測定部位及び測定結果
- 4 前項の測定結果から、実効線量及び等価線量を4月1日、7月1日、10月1日及び1月1日を始期とする各3月間、4月1日を始期とする1年間並びに女子にあっては毎月1日を始期とする1月間について、当該期間ごとに算定し、算定の都度、次に定める項目について記録しなければならない。
- (1) 算定年月日
 - (2) 対象者の氏名

- (3) 算定した者の氏名
 - (4) 算定対象期間
 - (5) 実効線量
 - (6) 等価線量及び組織名
- 5 前項の実効線量の算定の結果、4月1日を始期とする1年間についての実効線量が20ミリシーベルトを超えた場合は、当該1年間以降は、当該1年間を含む5年間（平成13年4月1日以後5年ごとに区分した各期間）の累積実効線量を当該期間について、毎年度集計し、集計の都度、次に定める項目について記録しなければならない。
- (1) 集計年月日
 - (2) 対象者の氏名
 - (3) 集計した者の氏名
 - (4) 集計対象期間
 - (5) 累積実効線量
- 6 安全管理責任者は、前3項の記録について、記録の都度、施設長及び主任者に報告するとともに、その写しを本人に交付しなければならない。
- 7 施設長は、前項の報告があった記録を永久に保存しなければならない。
- 8 安全管理責任者は、第4項の実効線量の算定の結果に基づき、第40条の放射線管理状況報告書を作成するために必要な1年間の業務従事者数、個人実効線量分布及び女子の業務従事者の実効線量分布を作成し、施設長に報告しなければならない。
- 9 その他必要な事項は、内規に定める。

第7章 教育及び訓練

（教育及び訓練）

第33条 施設長は、業務従事者に対し、次に掲げる時期に教育及び訓練を実施しなければならない。

- (1) 業務従事者として登録する前
 - (2) 業務従事者として管理区域に立ち入った後であつては、前回の教育訓練を行った日の属する年度の翌年度の開始日から1年以内ごと
- 2 前項の教育及び訓練の項目及び時間数は、次の表のとおりとする。ただし、各項目の時間数及び内容については、安全会議の助言を聴いて施設長が決定する。

項 目	前項第1号の教育及び訓練	前項第2号の教育及び訓練
放射線の人体に与える影響	30分以上	必要時間
放射性同位元素等の安全取扱い	1時間以上	必要時間
放射性同位元素等の規制に関する法令及び放射線障害予防規程	30分以上	必要時間
その他施設長が必要と認める事項	必要時間	必要時間

- 3 第1項の規定にかかわらず、安全会議の助言を聴いて前項に掲げる項目の全部又は一部に関して十分な知識及び技能を有していると施設長が認めた者に対しては、当該項目についての教

育及び訓練を省略することができる。

- 4 施設長は、一時立入者に対し、あらかじめ放射線障害を防止するために必要な教育を実施しなければならない。
- 5 その他必要な事項は、内規に定める。

第8章 健康管理

(健康診断)

第34条 施設長は、業務従事者に対し、次に定めるところにより、産業医による健康診断を受けさせなければならない。

(1) 健康診断の検査の項目は、次のとおりとする。

- ① 被ばく歴の有無（被ばく歴を有する者については、作業の場所、内容及び期間、放射線障害の有無、自覚症状の有無その他放射線による被ばくに関する事項）の調査及び評価
- ② 末しょう血液中の白血球数及び白血球百分率の検査
- ③ 末しょう血液中の赤血球数の検査及び血色素量又はヘマトクリット値の検査
- ④ 皮膚の検査
- ⑤ 白内障に関する眼の検査

(2) 実施時期は、次のとおりとする。

- ① 業務従事者として登録する前
- ② 業務従事者として管理区域に立ち入った後にあつては、6月を超えない期間ごとに1回以上

(3) 前2号の規定にかかわらず、前号①に係る健康診断にあつては、線源の種類に応じて第1号⑤の項目を省略することができ、前号②に係る健康診断にあつては、前年度の実効線量が5ミリシーベルトを超えず、かつ、当該年度の実効線量が5ミリシーベルトを超えるおそれがない業務従事者については、産業医が必要と認めるときに限り、第1号②から⑤までの項目の全部又は一部を行うこととする。

(4) 前号の規定にかかわらず、前年度の実効線量が5ミリシーベルトを超え、又は当該年度の実効線量が5ミリシーベルトを超えるおそれがある業務従事者については、第1号②から⑤までの項目の健康診断を行わなければならない。ただし、産業医が必要でないと認めるときは、第1号②から⑤までの項目の全部又は一部を省略することができる。

2 施設長は、前項の規定にかかわらず、業務従事者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なくその者に対し、健康診断を受けさせなければならない。

- (1) 放射性同位元素を誤って体内に摂取した場合
- (2) 放射性同位元素により表面汚染密度を超えて皮膚が汚染され、その汚染を容易に除去することができない場合
- (3) 放射性同位元素により皮膚の創傷面が汚染され、又は汚染されたおそれのある場合
- (4) 実効線量又は等価線量が別表3に掲げる限度を超えて放射線に被ばくし、又は被ばくしたおそれのある場合

3 施設長は、前2項の健康診断を受けさせたときは、その都度、次に定める項目について安全管理責任者に記録させなければならない。

(1) 実施年月日

- (2) 対象者の氏名
 - (3) 健康診断を実施した医師の氏名
 - (4) 健康診断の結果
 - (5) 健康診断の結果に基づいて講じた措置
- 4 安全管理責任者は、前項の記録について、記録の都度、施設長及び主任者に報告するとともに、施設長はその写しを本人に交付しなければならない。
- 5 施設長は、前項の報告があった記録を永久に保存しなければならない。
- 6 学長は、健康診断の結果に基づき、電離則第57条に定める電離放射線健康診断個人票を作成し、作成の都度、その写しを本人に交付するとともに、30年間保存しなければならない。

(放射線障害を受けた者等に対する措置)

- 第35条 施設長は、業務従事者が放射線障害を受けた場合又は受けたおそれのある場合には、その旨を直ちにユニット長及び主任者に通報するとともに、学長、機構長及び産業医に報告しなければならない。
- 2 学長は、前項の報告があったときは、直ちに安全委員会を招集し、放射線障害の程度に応じ、管理区域への立入時間の短縮、立入りの禁止、配置転換等健康の保持等に必要な措置を講じなければならない。
- 3 施設長は、業務従事者以外の者が放射線障害を受けた場合又は受けたおそれのある場合には、その旨を直ちにユニット長及び主任者に通報するとともに、遅滞なく医師による診断、必要な保健指導等の措置を講じなければならない。
- 4 施設長は、前項の措置を講じた場合は、直ちに学長及び機構長に報告しなければならない。

第9章 記帳及び保存

(記帳)

- 第36条 安全管理責任者は、放射性同位元素の受入れ、払出し、使用、保管、運搬及び廃棄並びに放射線施設の点検並びに放射線測定装置の点検及び校正並びに教育及び訓練に係る記録を行う帳簿を備え記帳しなければならない。
- 2 前項の帳簿に記載すべき項目は、次に掲げるとおりとする。
- (1) 受入れ、払出し
 - ① 放射性同位元素の種類及び数量
 - ② 放射性同位元素の受入れ又は払出しの年月日及びその相手方の氏名又は名称
 - (2) 使用
 - ① 放射性同位元素の種類及び数量
 - ② 放射性同位元素の使用の年月日、目的、方法及び場所
 - ③ 放射性同位元素の使用に従事する者の氏名
 - (3) 保管
 - ① 放射性同位元素の種類及び数量
 - ② 放射性同位元素の保管の期間、方法及び場所
 - ③ 放射性同位元素の保管に従事する者の氏名

(4) 運搬

- ① 事業所外における放射性同位元素等の運搬の年月日及び方法
- ② 荷受人又は荷送人の氏名又は名称
- ③ 運搬に従事する者の氏名又は運搬の委託先の氏名若しくは名称

(5) 廃棄

- ① 放射性同位元素の種類及び数量
- ② 放射性同位元素の廃棄の年月日，方法及び場所
- ③ 放射性同位元素の廃棄に従事する者の氏名

(6) 放射線施設の点検

- ① 点検の実施年月日
- ② 点検の結果及びこれに伴う措置の内容
- ③ 点検を行った者の氏名

(7) 放射線測定器の点検及び校正

- ① 点検又は校正の年月日
- ② 放射線測定器の種類及び型式
- ③ 点検又は校正の方法
- ④ 点検又は校正の結果及びこれに伴う措置の内容
- ⑤ 点検又は校正を行った者の氏名（点検又は校正を行った者の氏名を記載しなくても点検又は校正の適正な実施を確保できる場合は，名称）

(8) 教育及び訓練

- ① 教育及び訓練の実施年月日，項目及び時間数
- ② 教育及び訓練を受けた者の氏名

3 安全管理責任者は，第1項に定める帳簿について，施設長及び主任者の点検及び確認後，毎年3月31日又は事業所の廃止等を行う場合は廃止日等に閉鎖し，5年間保存しなければならない。

4 その他必要な事項は，内規に定める。

第10章 危険時の措置

（地震等の災害時における措置）

第37条 地震，火災その他の災害が発生した場合には，別図2に基づいて通報するとともに，施設管理責任者及び安全管理責任者は別表2に掲げる項目について点検し，その結果を施設長に報告しなければならない。

2 施設長は，前項の結果について，ユニット長及び主任者を經由して学長及び機構長に報告しなければならない。

3 第1項の点検を実施する基準については，内規に定める。

（危険時における措置）

第38条 地震，火災その他の災害により，放射線障害が発生し，又は発生するおそれのある事態を発見した者は，直ちに別図2に基づいて通報するとともに，災害の拡大防止及び避難警告等に努めなければならない。

- 2 学長は、前項の通報を受けたときは、安全委員会を招集し、必要な措置を講じなければならない。
- 3 学長は、機構長に命じて、ユニット長、施設長、主任者及び安全管理責任者を招集して緊急作業に従事するチーム（以下「作業チーム」という。）を編成し、応急の措置を講じなければならない。
- 4 安全会議は、被ばく線量の管理等、作業チームによる緊急作業を補佐する。
- 5 産業医は、緊急作業に従事した者に対する健康診断等の保健上の措置を行う。
- 6 学長は、第1項の事態が生じた場合は、国立大学法人富山大学危機管理規則第7条に基づき、必要に応じて危機対策本部を設置し、次に掲げる事項について地域住民、報道機関等に情報提供を行うとともに、遅滞なく原子力規制委員会に届け出なければならない。
 - (1) 発生日時及び場所
 - (2) 汚染の状況等による事業所外への影響
 - (3) 発生した場所において取り扱っている放射性同位元素の性状及び数量
 - (4) 応急の措置の内容
 - (5) 放射線測定器による放射線の量の測定結果
 - (6) 原因及び再発防止策
- 7 地域住民、報道機関等への情報提供及び問い合わせ対応は、関連部局と連携の上、総務部総務課が行う。
- 8 第6項により危機対策本部を設置した場合、前項の対応は危機対策本部が行う。
- 9 その他必要な事項は、内規に定める。

第11章 報告

（報告）

第39条 施設長は、次に掲げる事態が生じた場合は、その旨を直ちにユニット長及び主任者に通報するとともに、学長及び機構長に報告しなければならない。

- (1) 放射性同位元素等の盗難又は所在不明が生じた場合
- (2) 気体状の放射性同位元素等を排気設備において浄化し、又は排気することによって廃棄した際に、濃度限度又は線量限度を超えた場合
- (3) 液体状の放射性同位元素等を排水設備において浄化し、又は排水することによって廃棄した際に、濃度限度又は線量限度を超えた場合
- (4) 放射性同位元素等が管理区域外で漏えいした場合
- (5) 放射性同位元素等が管理区域内で漏えいした場合。ただし、次のいずれかに該当するとき（漏えいした物が管理区域外に広がったときを除く。）を除く。
 - ① 漏えいした液体状の放射性同位元素等が当該漏えいに係る設備の周辺部に設置した漏えいの拡大を防止するための堰の外に拡大しなかった場合
 - ② 気体状の放射性同位元素等が漏えいした際に、漏えいした場所に係る排気設備の機能が適正に維持されている場合
 - ③ 漏えいした放射性同位元素等の放射エネルギーが微量の場合、その他漏えいの程度が軽微な場合
- (6) 次の線量が線量限度を超え、又は超えるおそれのある場合
 - ① 使用施設、貯蔵施設又は廃棄施設内の人が常時立ち入る場所において被ばくするおそれがある線量

② 事業所の境界における線量

(7) 使用その他の取扱いにおける計画外の被ばくがあった際、次の線量を超え、又は超えるおそれがある場合

① 業務従事者 5ミリシーベルト

② 業務従事者以外の者 0.5ミリシーベルト

(8) 業務従事者について実効線量又は等価線量が別表3に掲げる限度を超え、又は超えるおそれのある被ばくがあった場合

2 学長は、前項の報告があったときは、その旨を直ちにその状況及びそれに対する措置を10日以内に、それぞれ原子力規制委員会及び関係機関に報告しなければならない。

(定期報告)

第40条 施設長は、施行規則第39条第2項に定める放射線管理状況報告書を、毎年4月1日を始期とする1年間について作成し、ユニット長及び主任者を經由して学長及び機構長に報告しなければならない。

2 学長は、前項の報告書を当該期間の経過後3月以内に原子力規制委員会に提出しなければならない。

3 学長は、第34条第1項に規定する健康診断を実施したときは、遅滞なく、電離則第58条に定める電離放射線健康診断結果報告書を富山労働基準監督署長に提出しなければならない。

附 則

この規程は、平成17年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年5月14日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成20年6月5日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成22年6月11日から施行し、平成21年11月1日から適用する。ただし、この規程の第38条第2項の改正規定は、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成24年12月17日から施行し、平成22年1月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成26年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年7月8日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月16日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成28年3月31日から施行し、平成28年3月22日から適用する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月27日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、令和5年10月1日から施行する。

別表 1（第21条関係）

巡視及び点検項目

設備等	点検項目
1 管理区域全般	① 管理区域の区画及び閉鎖設備 ② 作業環境の状況 ③ 床及び天井等の状況 ④ 標識等の状況 ⑤ 汚染検査設備及び洗浄設備の状況 ⑥ 更衣設備の状況
2 排気設備	① 作動確認 ② 排気フィルタの差圧測定
3 排水設備	① 漏えいの有無の目視確認 ② 水位計等監視設備の確認
4 電源設備	① 作動確認
5 空調設備	① 作動確認
6 警報設備	① 作動確認
7 フード	① 風量確認
8 放射性廃棄物の処理等に必要な設備	① 作動確認 ② 目視確認

別表 2（第22条，第37条関係）

定期点検の項目

区分	項目	年間点検回数	実施者
1 施設の位置等	① 地崩れのおそれ	2	施設管理責任者
	② 浸水のおそれ	2	同上
	③ 周囲の状況	2	同上
2 主要構造部等	① 構造及び材料	2	施設管理責任者
3 しゃへい	① 構造及び材料	2	施設管理責任者
	② しゃへい物の状況	2	同上
	③ 線量	12	安全管理責任者
4 管理区域	① 区画等	2	安全管理責任者
	② 線量等	12	同上
	③ 標識等	2	同上
5 作業室	① 構造及び材料	2	施設管理責任者
	② フード	2	施設管理責任者及び安全管理責任者
	③ 流し	2	安全管理責任者
	④ 換気	12	同上
	⑤ 標識等	2	同上
6 汚染検査室	① 位置等	2	安全管理責任者
	② 構造及び材料	2	施設管理責任者
	③ 洗浄設備	2	同上
	④ 更衣設備	12	安全管理責任者
	⑤ 器材	12	同上
	⑥ 放射線測定器	2	同上
	⑦ 標識等	2	同上
7 貯蔵室	① 位置等	2	安全管理責任者
	② 貯蔵室	2	同上
	③ 貯蔵能力	12	同上
	④ 標識等	2	同上

区分	項目	年間点検回数	実施者
8 排気設備	① 位置等	2	安全管理責任者
	② 排風機	2	施設管理責任者
	③ 排気浄化装置	2	施設管理責任者及び安全管理責任者
	④ 排気管	2	同上
	⑤ 排気口	2	安全管理責任者
	⑥ 標識	2	同上
9 排水設備	① 位置等	2	安全管理責任者
	② 排水浄化槽	2	施設管理責任者及び安全管理責任者
	③ 排水管	2	同上
	④ 標識	2	安全管理責任者
10 保管廃棄設備	① 位置等	2	安全管理責任者
	② 保管廃棄容器	2	同上
	③ 標識等	2	同上

備考 「年間点検回数」欄の「2」は6月につき1回以上、「12」は1月につき1回以上の点検回数を示す。

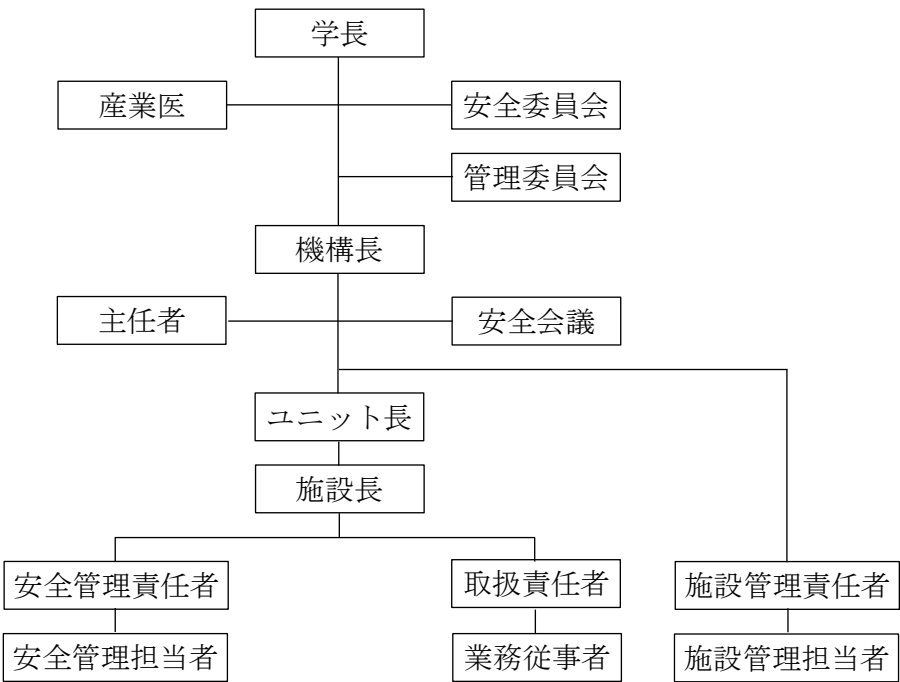
別表3（第34条，第39条関係）

実効線量及び等価線量の限度

区分	限度
実効線量	① 平成13年4月1日以降5年ごとに区分した各期間につき100ミリシーベルト ② 4月1日を始期とする1年間につき50ミリシーベルト ③ 女子（妊娠する可能性がないと診断された者及び④に定める者を除く。）については，①及び②に定める限度のほか，4月1日，7月1日，10月1日及び1月1日を始期とする各3月間につき5ミリシーベルト ④ 妊娠中である女子については，①及び②に定める限度のほか，妊娠と診断されたときから出産までの間につき，内部被ばくについて1ミリシーベルト
等価線量	① 眼の水晶体については，4月1日を始期とする1年間につき50ミリシーベルト及び令和3年4月1日以後5年ごとに区分した各期間につき100ミリシーベルト ② 皮膚については，4月1日を始期とする1年間につき500ミリシーベルト ③ 妊娠中である女子の腹部表面については，妊娠と診断されたときから出産までの間につき2ミリシーベルト

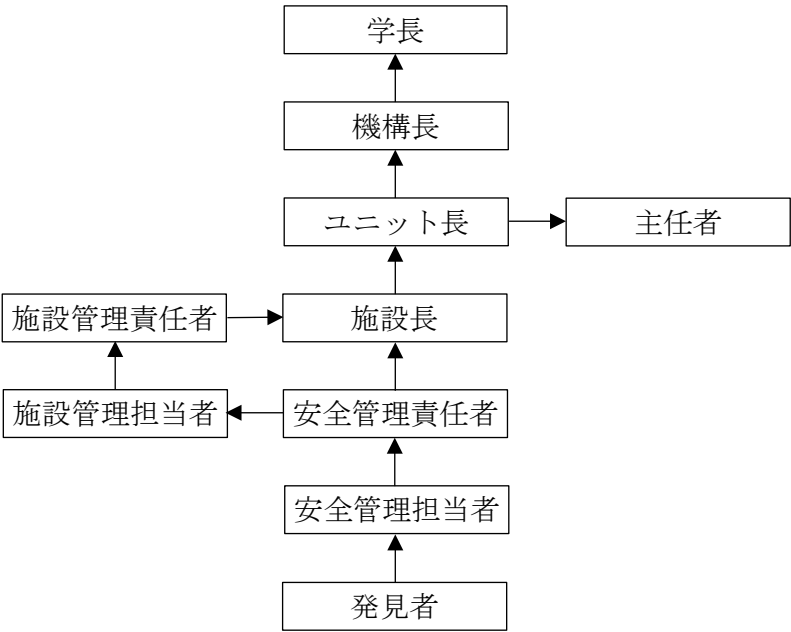
別図 1（第 7 条関係）

ユニットにおける放射性同位元素等の取扱い及びその安全管理に従事する者に関する組織



別図 2（第37条，第38条関係）

災害時等の連絡通報体制（休日，夜間を含む。）



(2) 放射線障害予防内規

富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター 生命科学先端研究支援ユニット放射線障害予防内規

平成31年2月22日制定

令和5年9月27日改正

(趣旨)

第1条 この内規は、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット放射線障害予防規程（以下「規程」という。）第5条の規定に基づき、富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学先端研究支援ユニット（以下「ユニット」という。）の放射線障害の防止に関し、その実施を図るため必要な事項を定める。

(委託業務の管理)

第2条 放射線管理に関する業務を外部に委託した場合は、安全管理責任者が当該委託を管理することとする。

(放射性同位元素の使用)

第3条 密封されていない放射性同位元素を使用する者は、規程第25条第1項に定めるもののほか、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 取扱経験の少ない業務従事者は、単独で取扱作業をしないこと。
 - (2) 作業室は、常に整理し、必要以上の器具類を持ち込まないこと。
 - (3) 作業室においては、専用の作業衣、保護具等を着用して作業し、作業中はしばしば汚染の有無を検査して、汚染が検出された場合は、直ちに除去、脱衣等の処置をとること。
 - (4) 放射性同位元素を空気中に飛散させないこと。やむを得ず飛散するおそれのある作業を行う場合には、フード等の局所排気装置又は換気装置等を使用し、作業室内の空気中の放射性同位元素の濃度を濃度限度以下となるようにすること。
 - (5) しゃへい壁その他しゃへい物により、適切なしゃへいを行うこと。
 - (6) 遠隔操作装置、かん子等により線源との間に十分な距離を設けること。
 - (7) 放射線に被ばくする時間をできるだけ少なくすること。
 - (8) 作業室又は汚染検査室内の人が触れる物の表面の放射性同位元素の密度は、その表面の放射性同位元素による汚染を除去し、又はその触れる物を廃棄することにより、表面密度限度を超えないようにすること。
 - (9) 放射性同位元素によって汚染された物で、その表面の放射性同位元素の密度が表面密度限度を超えているものは、みだりに作業室から持ち出さないこと。
 - (10) 密封されていない放射性同位元素の使用中にその場を離れる場合は、容器及び使用場所に所定の標識を付け、必要に応じてさく等を設け、注意事項を明示する等、事故発生の防止措置を講ずること。
- 2 規程第25条第2項に定める計画書に記載の使用方法は、放射性同位元素の具体的な使用方法とする。

(受入れ、払出し)

第4条 安全管理責任者は、放射性同位元素の受入れ又は払出しの際には、あらかじめ承認証及び保管の帳簿等により承認の範囲内であることを確認しなければならない。

(保管)

第5条 安全管理責任者は、規程第27条第1項に定める放射性同位元素の保管が適切に行われていることを確認しなければならない。

(貯蔵能力の確認)

第6条 安全管理責任者は、放射性同位元素を受け入れる場合は、あらかじめ保管の帳簿等により貯蔵能力を超えないことを確認するとともに、規程第22条第1項に定める定期点検により、保管する放射性同位元素の種類及び数量が貯蔵能力を超えていないことを確認しなければならない。

(運搬)

第7条 安全管理責任者は、規程第28条第1項及び第2項に定める放射性同位元素等の運搬の際に講じる措置が適切に行われていることを確認しなければならない。

(廃棄)

第8条 安全管理責任者は、規程第29条第1項に定める放射性同位元素等の廃棄が適切に行われていることを確認しなければならない。

2 富山大学研究推進機構研究推進総合支援センター生命科学研究支援ユニットアイソトープ実験施設長（以下「施設長」という。）は、廃棄施設の目につきやすい場所に放射線障害の防止に必要な注意事項を掲示し、廃棄施設に立ち入る者に遵守させなければならない

(場所の測定)

第9条 規程第31条第1項の測定は、同条第4項に定めるもののほか、次に定めるところにより行わなければならない。

- (1) 放射線の量の測定は、規程第31条第4項第1号に定める各場所において、放射線により最も多く被ばくすると考えられる箇所について行うこと。
- (2) 放射性同位元素による汚染の状況の測定は、規程第31条第4項第2号に定める各場所において、放射性同位元素による汚染が最も多いと考えられる箇所について行うこと。
- (3) 空気中の放射性同位元素の濃度の測定は、各作業室において、空気中の放射性同位元素の濃度が最も高いと考えられる箇所について行うこと。

2 安全管理責任者は、規程第31条第4項第2号に定める放射性同位元素による汚染の状況の測定の結果に異常を認めたときは、同条第5項に定めるもののほか、安全確保のため、作業計画を作成した上で、除染作業を行わなければならない。

(放射線測定器の保守)

第10条 規程第30条第2項に係る放射線測定器の点検及び校正の具体的な内容は、別に定める「富山大学研究推進機構放射線測定器点検及び校正実施要項」（以下「実施要項」という。）に従い、実施するものとする。

- 2 前項の実施要項に基づき作成した実施計画書及び手順書の見直しは、施設長が決定するものとする。富山大学研究推進機構放射線安全会議及び富山大学杉谷キャンパス放射線管理委員会は、施設長の依頼に応じて助言を行う。

(教育及び訓練の省略)

第11条 規程第33条第3項に定める教育及び訓練の省略の基準は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 他の事業所の教育及び訓練の受講が確認できる場合
 - (2) 本学の学部又は大学院の講義において、規程第33条第2項に定める教育及び訓練の項目の教育を受け、単位の取得が確認できる場合
 - (3) 教育及び訓練の項目及び時間数と同様の内容の外部機関の研修等の受講が確認できる場合
 - (4) その他教育及び訓練の項目について、十分な知識及び技能を有していることが確認できる場合
- 2 施設長は、教育及び訓練を省略する場合は、あらかじめ業務従事者から、前項各号の内容が確認できる書面等を提出させなければならない。
- 3 安全管理責任者は、施設長が教育及び訓練を省略した場合は、次に掲げる項目を規程第36条第1項に定める帳簿に記載しなければならない。
- (1) 教育及び訓練を省略した年月日、項目及び理由
 - (2) 教育及び訓練を省略した者の氏名

(一時立入者の教育)

第12条 規程第33条第4項に定める一時立入者の教育は、規程第20条第1項及び第2項に定める事項及び次に掲げる事項について、口頭又は書面で行うこととする。

- (1) 管理区域に立ち入る場合は、業務従事者又は安全管理担当者が同行し、又は立ち会うこと。
ただし、点検又は修理のために立ち入る場合はこの限りではない。
- (2) 作業室内の実験台やドラフト内に置いてある物には、むやみに触れないこと。
- (3) 放射性同位元素を取扱っている者の周囲には、むやみに近づかないこと。
- (4) 管理区域から退出したときには、安全管理担当者の立ち会いの下、放射線測定器の測定結果及び退出時刻を記録すること。
- (5) 外部被ばくを防ぐための3原則（しゃへい、距離、時間）を遵守すること。
- (6) 放射線施設内において事故等が発生した場合には、安全管理責任者又は主任者の指示に従い、速やかに施設外へ避難すること。

(帳簿の保存場所)

第13条 規程第36条第1項に定める帳簿の保存場所は、ユニットのアイソトープ実験施設1階管理室とする。

(点検の実施基準)

第14条 規程第37条第3項の規定に基づき、同条第1項に定める点検を実施する基準は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 富山市で震度5弱以上の地震が発生した場合
- (2) 放射線施設で火災が発生した場合
- (3) 津波又は河川氾濫等による床上浸水が発生した場合

附 則

この内規は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和5年10月1日から施行する。